捃拾帖

第十六回日本材木業聯合大會

大正四年十一月五日名古屋市ニ開會

九十四字

A 00
6010

A00-6070

東京帝國大學圖書印

B 61009

男爵田中[illegible]氏寄贈
先代田中芳男旧藏書
昭和七年

目録

一大會順序書
一晝食券
一懇親會出席券
一記念品引換券
一各工場及貯木場縦覧券
一黄花園観覧券
一大會關係地畧圖

以上

徽章

菊花（白色 赤リボン付）來賓
仝（黄色）會員
仝（赤色）委員

第十八回日本材木業聯合大會

大正四年十一月五日午後正五時
愛知縣商品陳列館

懇親會出席券

姓名

本券ヘ御姓名御記入受付係ニ御差出相願候
開催前館内縦覧御隨意

第十八回日本材木業聯合大會順序

◎第一日 十一月五日

△午前九時 愛知縣々會議事堂ニ於テ開會式擧行

一諸員着席（第一振鈴）
一開會（第二振鈴）
一準備委員長挨拶
一會長式辭
一有功章贈與
一來賓祝辭演説
一會員祝辭演説
一答辭

以上

一講演

△正午 晝食

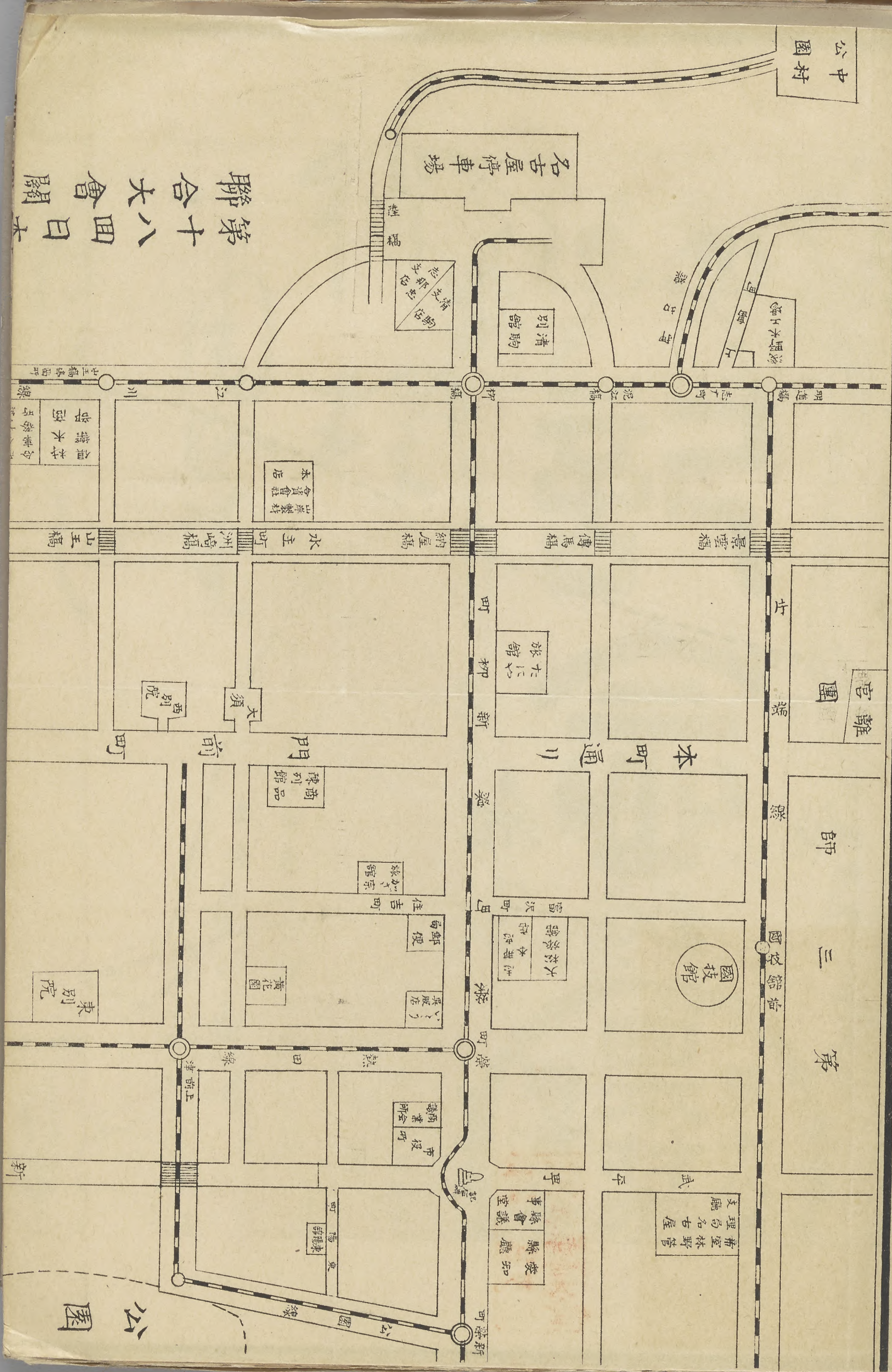
△午後一時

一諸員着席（振鈴）
一會務報告
一議事
一準備委員長挨拶
一閉會（振鈴）

△午後五時 愛知縣商品陳列館第一會場ニ於テ懇親宴會開會

◎第二日 十一月六日七日各會社工場及貯木場視察

一名古屋木材株式會社（堀川筋瓶屋橋西詰）
一山岸製材合資會社（本店 中區水主町 支店 愛知郡八幡村）
一淺井製材合名會社（南區千年）
一日本車輛製造株式會社（南區熱田東町）
一熱田貯木場（南區東築地）
一帝室林野管理局熱田出張所白鳥貯木場（南區熱田白鳥）



名古屋木材株式會社貯木場 電話長三一一九番 二二七三番
（堀川筋瓶屋橋西詰）
縦覧券
十一月六日午前中
同 七日午前午後 随意
第十八回日本材木業聯合大會

山岸製材合資會社本店
製材工場 電話 四七三番
（中區水主町洲崎橋西詰北へ入）
縦覧券
十一月六日午前中
同 七日午前午後 随意
第十八回日本材木業聯合大會

山岸製材合資會社支店
製材工場 電話 四八七五番
（愛知郡八幡村西古渡江川線古渡及尾頭電車停留所中間位）
縦覧券
十一月六日午前中
同 七日午後中 随意
第十八回日本材木業聯合大會

帝室林野管理局熱田出張所 電話 二六四番
白鳥貯木場
（堀川筋瓶屋橋東詰南へ二丁）
縦覧券
十一月六日
午前十時迄 随意
第十八回日本材木業聯合大會

日本車輛製造株式會社工場 電話長一七八番 長一四六一番
（南區熱田東町）
縦覧券
十一月七日午前中随意
第十八回日本材木業聯合大會

淺井製材合名會社 電話長一三二一番
（南區千年）
縦覧券
十一月六日午前中
同 七日午前午後 随意
第十八回日本材木業聯合大會

熱田貯木場 電話長一六八五番
（南區東築地運河際）
縦覧券
十一月六日午前中
同 七日午前午後 随意
第十八回日本材木業聯合大會

自大正四年十一月六日
至同年同月[illegible]日間
萬松寺境内
黄花園観覧券
第十八回日本材木業聯合大會

第十八回日本材木業聯合大會

大正四年十一月五日
愛知縣々會議事堂
晝食引換券
第十八回日本材木業聯合大會

料理調製仕出し

旅籠町

笹屋

特電八四四

寿

第十八回日本林木業聯合會

名古屋市旅籠町

御料理調製仕出し

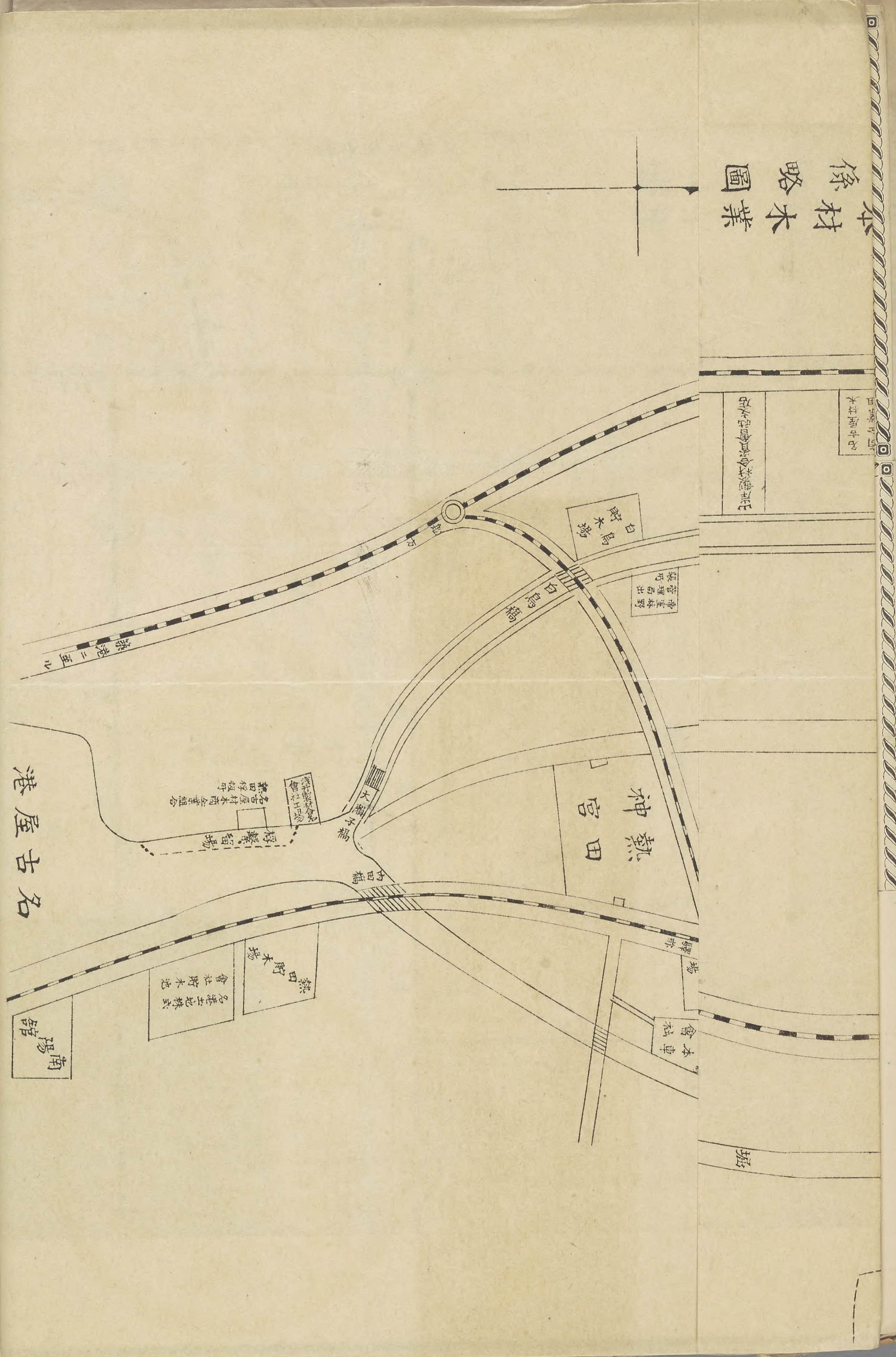
笹屋

長電話八四四

記念

第十八回日本林木業聯合大會

大正四年十一月廿日



料理
調進
仕出し

方
笹屋
特電八四四

第十八回日本材木業聯合會

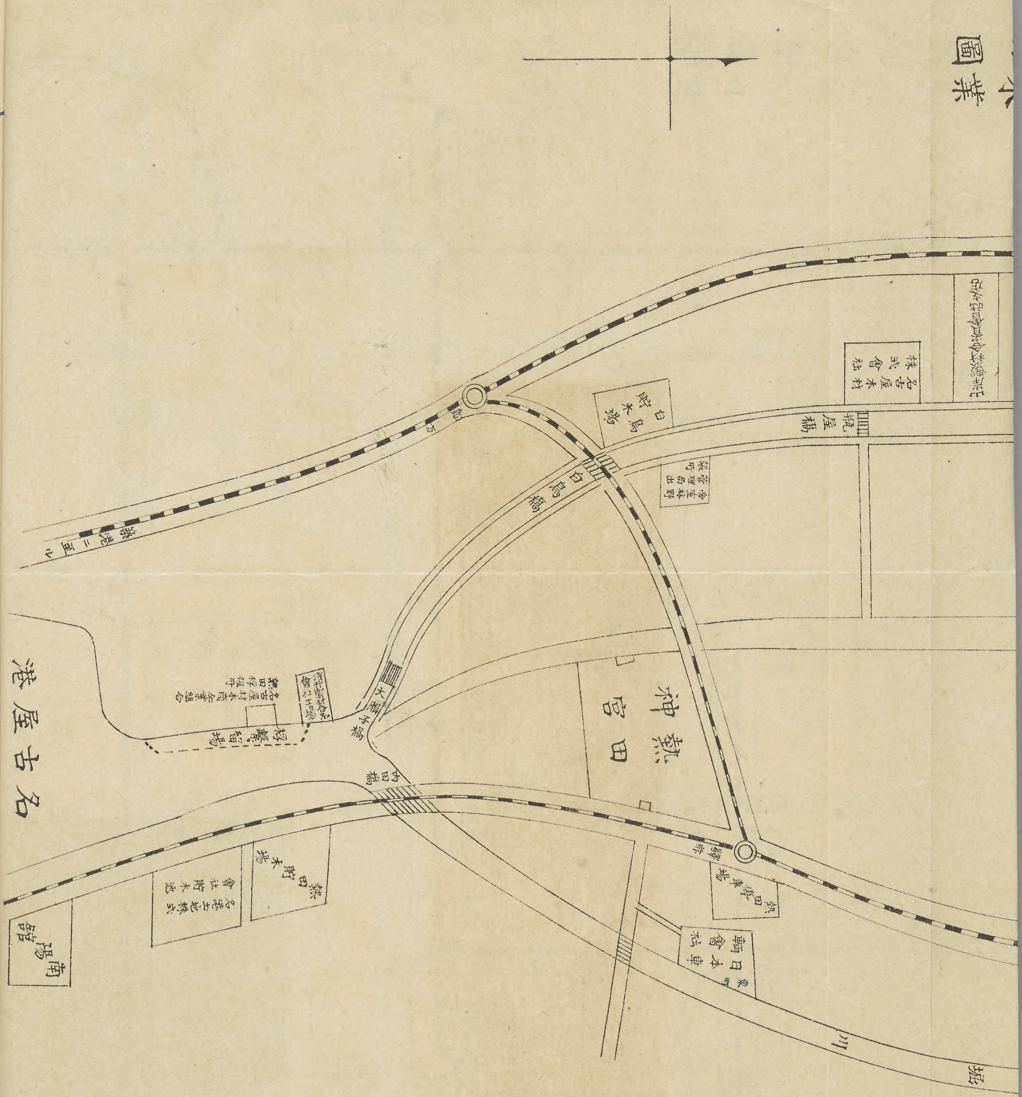
御料理
調菜
仕出し

名古屋市旅籠町
笹屋
電話八四四

記念

第十八回
日本材木業
聯合大會

大正四年十月廿五日



名古屋木材株式會社貯木池第二水門(新設)

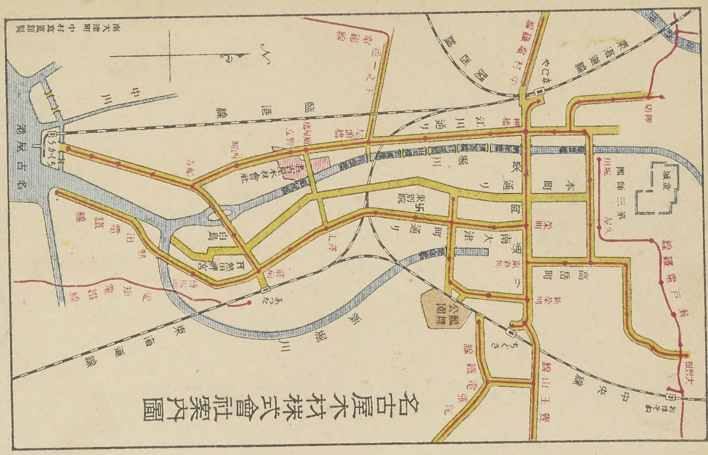
名古屋木材株式會社貯木場

貯木池内貯材之光景

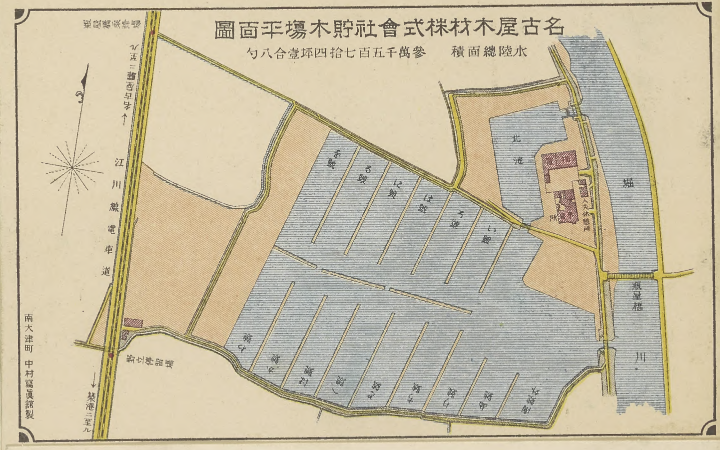
呈上

繪はがき

名古屋木材株式會社



名古屋木材株式會社案内圖



名古屋木材株式會社貯木場平面圖

水陸總面積　參萬千五百七拾四坪壹合八勺

名古屋木材株式會社本社

大鹿梅三郎

名古屋木材株式會社事務室

大正十、五、

帝室林野管理局技師 赤浦力次

名古屋市中區長 丹羽中成

名古屋市南區長 伊藤曜

東京材木問屋同業組合組長 笠原小十郎

水口庄藏
名古屋市中區伊勢山町
長電話一七五八番

林光太郎
名古屋市上畠町
淺野木工場員
長電話百拾四番

上光榮
領
會
一
名
ヘニテ
等ニ適
用ス

吉村喜兵衛

鈴木鈴四郎
名古屋市西區木挽町

山下四郎治
三重縣宇治山田市
大字中島町二百四番屋敷

山岸清太郎
名古屋市中區水主町
三丁目三番地
長電話九一九番

入江孝次郎
兵庫磯之町

廣告

木材運搬用橇留安全器之畧解

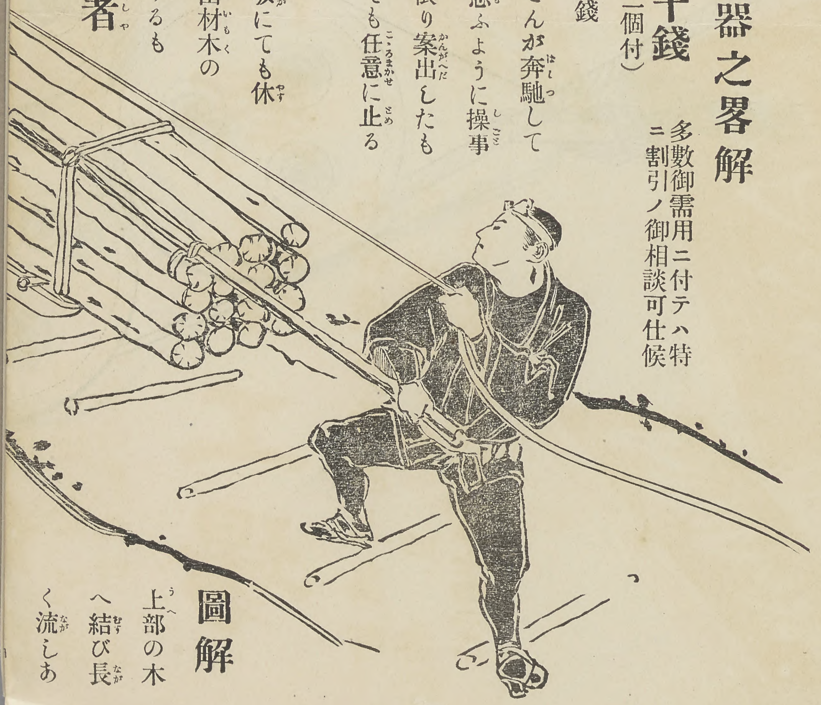
專賣特許 第二七七九二号 壹個價 金二圓八十錢 但(スッパナ二個付)

多數御需用ニ付テハ特ニ割引ノ御相談可仕候

補充不動滑車　壹個金五錢

木材山出しには橇(一名木馬)に優るものはありませんが奔馳して止まらぬ事ある爲に時々大なる傷害を取け危險で思ふように操事が出來ぬ本器はこの危險を防ぐ爲め數年の苦心に依り案出したもので使用法頗る簡單で急坂の中途而も番木の上にても任意に止る事を得るものであります

本器を使用すれば老人にても雨天后、霜融后の急坂にても休業する事なく橇臺の摩滅を防ぎ道路は距離を減じ出材木の損傷なくごんな長大本を高所より釣木として出材するも迅速機敏なる商法を確實になし得る故に**橇牽業者**と**商人**と**林業家**は大なる利益があります



圖解
上部の木へ結び長く流しあ

專賣特許
第二七五号

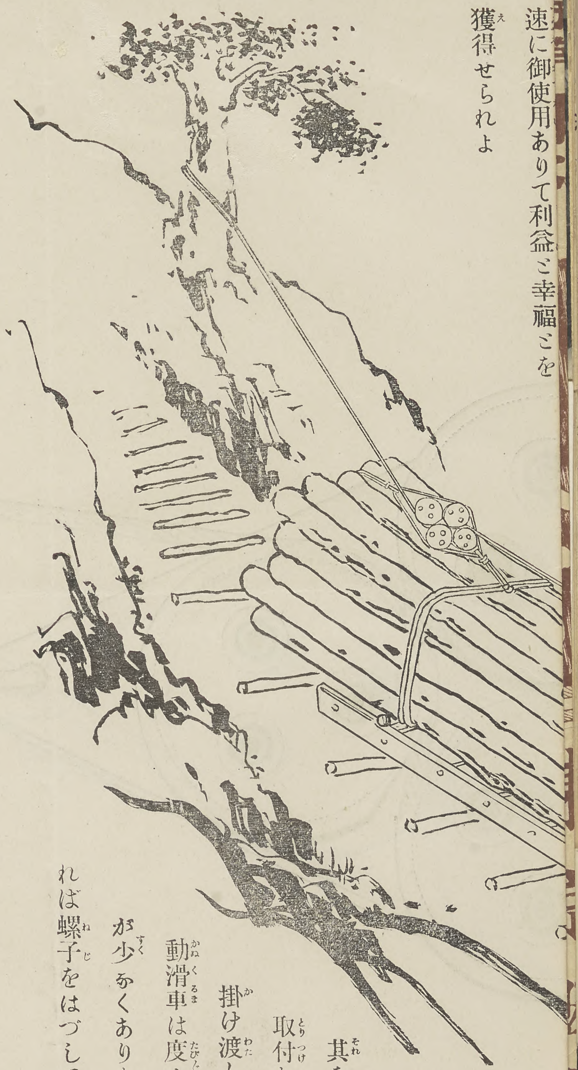
野式合板

淺野木工場

名古屋市西區上畠町
電話壹壹四番
振替貯金口座大阪二三七四二番

東京販賣店
神田鎌倉河岸
電話本局貳九四一番

速に御使用ありて利益と幸福とを
獲得せられよ



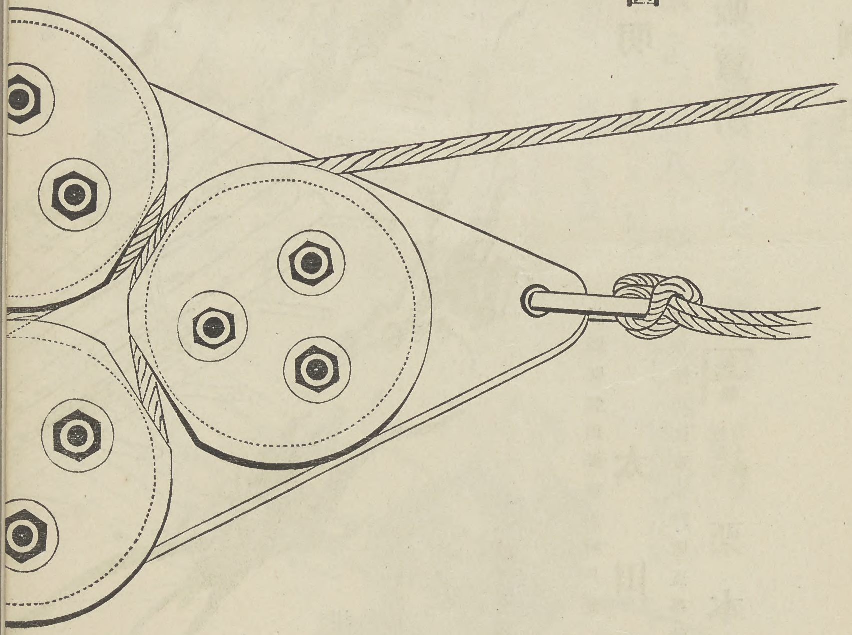
るは「ワイヤロップ」(廿番線卅五縒)の綱であります其を木材の上后部へ取付たる安全器へ綾に掛け渡し橇を引くです不動滑車は度々油を塗ると摩擦が少なくあります綱道が窪くなれば螺子をはづして方向を轉する事

發明人　静岡縣磐田郡龍山村戸倉　太田鹿吉

大販賣所　東京深川區東平野町五番地　板屋号　材木問屋　栗本伊十郎　電話本所九八〇番　電略(イタイ)

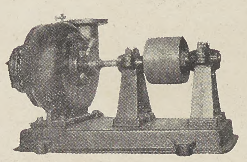
賣捌所

原形貳分ノ壹ノ圖



創業明治貳拾六年

灌漑排水用ポンプ

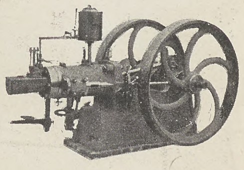


河合機械製作所表門

（建物六百余坪）（敷地壹千余坪）

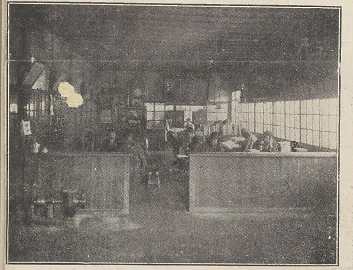
（表門口四拾五間）

自動發火石油發動機

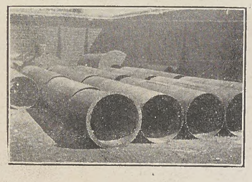


事務室

（三十六坪）

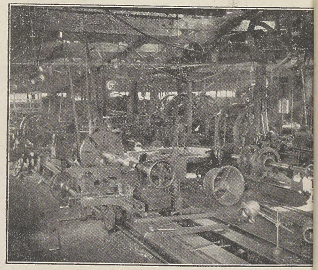


灌漑及水力電氣用鐵管



工場內之一部

（三百余坪）



第十回三府廿八縣聯合大共進會　二等賞銀牌受領

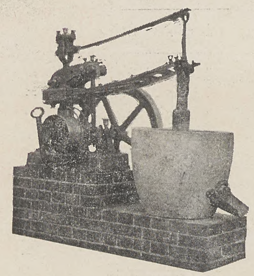
臺灣第一回共進會　記念大賞牌受領

第三回內國製產博覽會　一等賞金牌受領

中國六縣生產品共進會　名譽賞金牌受領

專賣特許

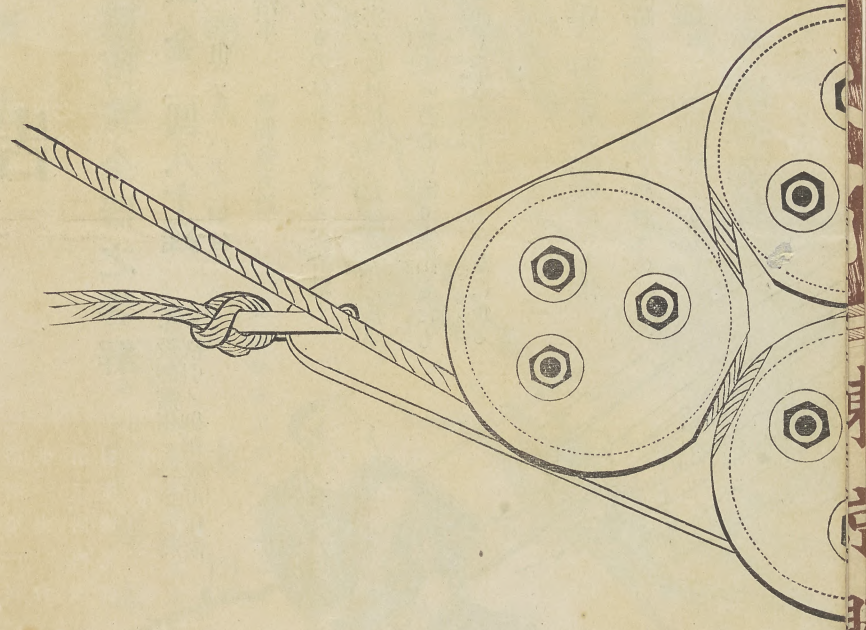
河合式彈機精米麥機



第七回全國特產品博覽會　一等賞金牌受領

大正記念產業博覽會　最高大賞牌受領

第五回內國製產博覽會　一等賞金牌受領

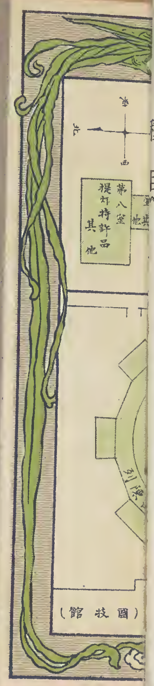


株式會社
明治銀行
名古屋市西區傳馬町七丁目
電話三四三、七八、一五三 一七五、五六六

名古屋市內支店
南支店 中區門前町五丁目 電話一七六
東支店 中區東田町一丁目 電話三八八
西支店 西區東柳町 電話二七四 二一七
鍋屋町支店 東區鍋屋町一丁目 電話二四九五
熱田支店 南區熱田神戸町 電話一六四
尾頭支店 南區熱田新尾頭町 電話四〇八

各地支店
金澤支店 長濱支店 豐橋支店
靜岡支店 鳴海支店 下一色支店

名古屋三成社印刷



濱松米原間
武豐線
名古屋龜山間
名古屋木曾福島間

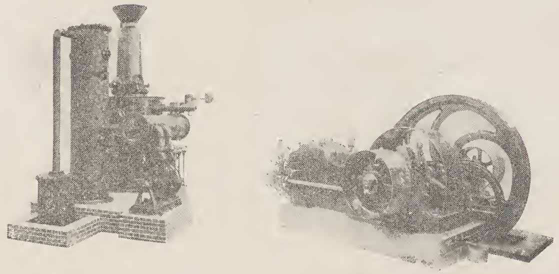
汽車時刻便覽
大正四年八月改訂
(廻) 便宜合資會社

日本船主同盟會所屬船舶代理店
回漕業
並ニ汽車積貨物取扱

本店 四日市港海岸 電話(長)四六番 (長)四八番
支店 名古屋市西區大船町 電話(長)四四〇番
陸送部 (支店) 名古屋停車場前 電話(長)三七〇九番 三四三一番
出張所 四日市停車場前 電話(長)四七番
荷扱所 (支店) 名古屋港棧橋通 電話(長)四一四四番

專賣特許
鋸屑用吸入瓦斯發動裝置

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ燃料極メテ僅尠且ツ低廉ナルヲ以テ經費尠ナク蒸氣機關電氣(モートル)石油發動機等ニ比シ最モ經濟ニシテ最良ナル原動機ナリ



製作品種目
● 特許 彈機精米機
● 特許 製繩機
● 特許 瓦斯發動機
● 石油發動機
● 特許 揚水排水喞筒
● 製粉機

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ尤モ安全經濟ナル原動機ナリ燃料タル鋸屑ハ地方ニヨリテハ無價値ノモノニ付無代價ノ動力ヲ得ルハ實ニ鋸屑用吸入瓦斯機關ノ特長ナリ仮リニ壹貫(十二貫目入)八錢トスルモ一時間一馬力ノ燃料ハ僅ニ參厘ニテ足レリ蒸氣機關ニ於ケル普通壹時間一馬力三錢五厘ノ燃料費ト批較セバ殆ンド十二分ノ一ノ費用ニテ運轉ス

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ運轉靜穩ニシテ音響ナク至極便利ナル原動機ナリ而モ電氣作用ニヨル点火裝置ナルヲ以テ火災ノ憂ヒ更ニナシ

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ最初運轉ヲ始ムルニハ瓦斯發生迄ニ僅カ廿分間ニテ足レリ

有効馬力	價額	有効馬力	價額
4	1.620円	64	7.320円
6	1.800	71	8.130
9	2.230	85	9.180
12	2.500	100	10.790
15	3.020	115	11.660
22	3.430	130	13.180
29	4.070	145	14.150
36	4.500	170	16.580
43	5.370	200	18.200
50	5.920		
57	6.750		

回轉洗滌機ヲ附設スレバ本定價ノ五分增

名古屋市東區東二葉町(通稱清水坂上)
河合機械製作所
電話(主宅 長一一番 工場 長九六三番)

明治銀行

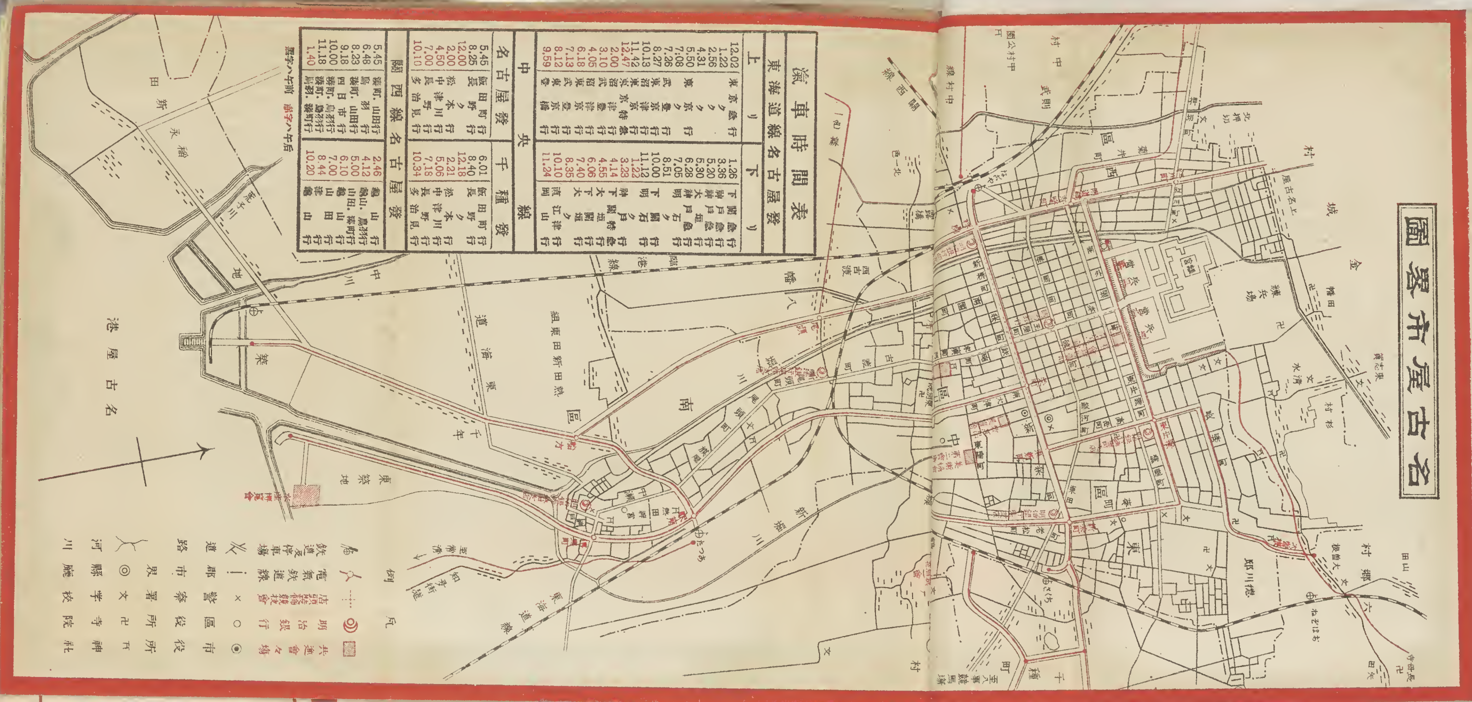
着實と懇切

一 諸預金　は定期、當座、小口當座等何れも御預け主の御便益を主として極めて懇切、迅速に御取扱可申候

一 貸出金と手形割引　は最も低利にて精々御便宜に御取引可申候間御用の節は多少に拘らず御相談被下度候

一 諸方爲替　は内外枢要の地に多數の取組先有之候間凡ての御取引向に付ては御満足を期し得らるゝ事と信じ候

一 其他一般銀行業務　は御便利に御取扱可申候間本支店御便宜の箇所(圖中号を示し置き候)へ御用命願上候



滊車時間表

東海道線名古屋發

上り		下り	
12.02	東京急行	1.26	下關急行
1.22	〃	3.36	神戸急行
2.56	〃	5.20	神戸急行
4.31	〃	5.30	大垣行
5.50	東京行	6.28	神戸急行
7.08	〃	7.05	明石行
7.26	武豊行	8.51	〃
8.27	東京行	10.00	下關行
10.13	沼津行	11.12	明石行
11.42	東京行	1.22	〃
12.47	東京特急行	3.23	神戸特急行
2.00	沼津行	4.14	下關急行
3.10	武豊行	4.55	大垣行
4.05	沼津行	6.06	下關行
6.18	東京行	7.40	大垣行
7.13	武豊行	8.35	〃
8.12	東京行	10.10	直江津行
9.59	豊橋行	11.24	岡山行

中央線

名古屋發		千種發	
5.45	飯田町行	6.01	飯田町行
8.25	長野行	8.40	長野行
12.00	〃	12.18	〃
2.00	松本行	2.21	松本行
4.50	中津川行	5.06	中津川行
7.00	長野行	7.18	長野行
10.10	多治見行	10.34	多治見行

關西線名古屋發

5.45	湊町、山田行	2.46	龜山行
6.48	鳥羽行	4.12	龜山、鳥羽行
8.23	湊町、山田行	5.00	山田、湊町行
9.18	四日市行	6.10	龜山行
10.00	湊町、鳥羽行	7.00	山田行
11.18	湊町、鳥羽行	8.44	津行
1.40	鳥羽、湊町行	10.20	龜山行

黑字ハ午前　赤字ハ午后

一 鋸屑用吸入瓦斯機關ハ尤モ安全經濟ナル原動機ナリ燃料タル鋸屑ハ地方ニヨリテハ無價値ノモノニ付無代價ノ動力ヲ得ルハ實ニ鋸屑用吸入瓦斯機關ノ特長ナリ仮リニ壹叺(十二貫目入)八錢トスルモ一時間一馬力ノ燃料ハ僅ニ參厘ニテ足レリ蒸滊機關ニ於ケル普通壹時間一馬力三錢五厘ノ燃料費ト批較セバ殆ンド十二分ノ一ノ費用ニテ運轉ス

一 鋸屑用吸入瓦斯機關ハ運轉靜穩ニシテ音響ナク至極便利ナル原動機ナリ而モ電氣作用ニヨル点火装置ナルヲ以テ火災ノ憂ヒ更ニナシ

一 鋸屑用吸入瓦斯機關ハ最初運轉ヲ始ムルニハ瓦斯發生迄ニ僅カ廿分間ニテ足レリ

有効馬力	價額	有効馬力	價額
4	1.620円	64	7.320円
6	1.800	71	8.130
9	2.230	85	9.180
12	2.500	100	10.790
15	3.020	115	11.660
22	3.430	130	13.180
29	4.070	145	14.150
36	4.500	170	16.580
43	5.370	200	18.200
50	5.920		
57	6.750		

回轉洗滌機ヲ附設スレバ本定價ノ五分増

名古屋市東區東二葉町(通稱清水坂上)

河合機械製作所

電話(主宅 長一一七番 / 工場 長三六九番)

日本船主同盟會所屬船舶代理店

回漕業

並ニ滊車積貨物取扱

本店　四日市港海岸　電話園四六番園四八番

支店　名古屋市西區大船町　電話長四四〇番

支店 陸送部　名古屋停車塲前　電話園三七〇九番三四三一番

出張所　四日市停車塲前　電話園四七番

支店 荷扱所　名古屋港棧橋通　電話園四一四四番

濱松米原間

武豊線

名古屋龜山間

名古屋木曽福島間

汽車時刻便覽

大正四年八月改訂

(廻) 便宜合資會社

濱松米原間
武豐線
名古屋龜山間
名古屋木曾福島間

大正四年八月改訂

汽車時刻便覽

(迴) 便宜合資會社

日本船主同盟會所屬船舶代理店

回漕業

並ニ汽車積貨物取扱

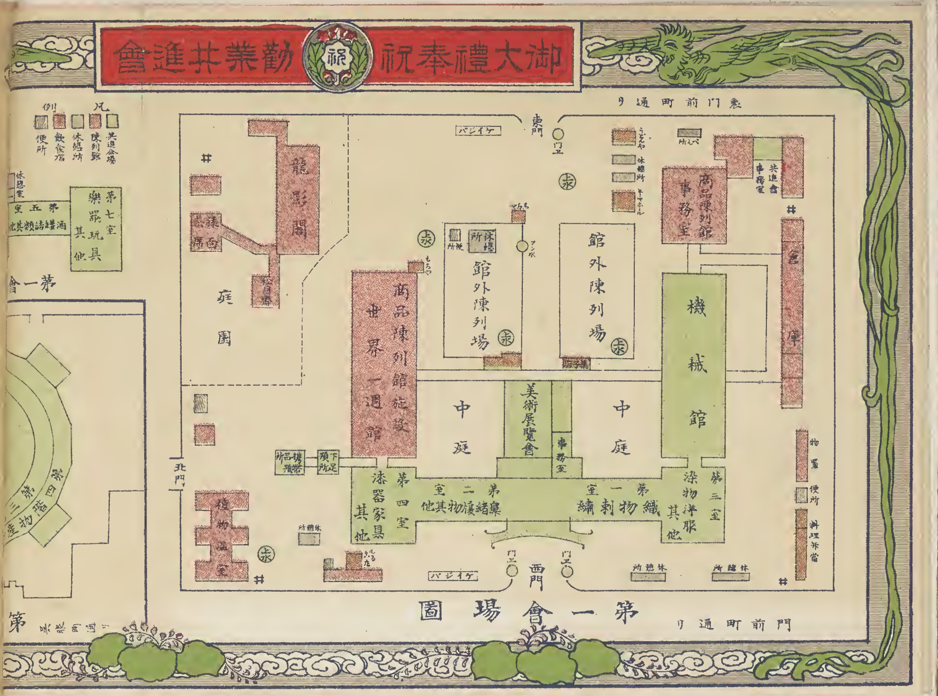
本店 四日市港海岸 電話長四六番 長四八番

支店 名古屋市西區大船町 電話長四四〇番

支店 陸送部 名古屋停車場前 電話長三七〇九番 三四三一番

出張所 四日市停車場前 電話長四七番

支店 荷扱所 名古屋港棧橋通 電話長四一四四番



一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ尤モ安全經濟ナル原動機ナリ燃料タル鋸屑ハ地方ニヨリテハ無價値ノモノニ付無代價ノ動力ヲ得ルハ實ニ鋸屑用吸入瓦斯機關ノ特長ナリ仮リニ壹叺(十二貫目入)八錢トスルモ一時間一馬力ノ燃料ハ僅ニ參厘ニテ足レリ蒸氣機關ニ於ケル普通壹時間一馬力三錢五厘ノ燃料費ト批較セバ殆ンド十二分ノ一ノ費用ニテ運轉ス

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ運轉靜穩ニシテ音響ナク至極便利ナル原動機ナリ而モ電氣作用ニヨル点火裝置ナルヲ以テ火災ノ憂ヒ更ニナシ

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ最初運轉ヲ始ムルニハ瓦斯發生迄ニ僅カ廿分間ニテ足レリ

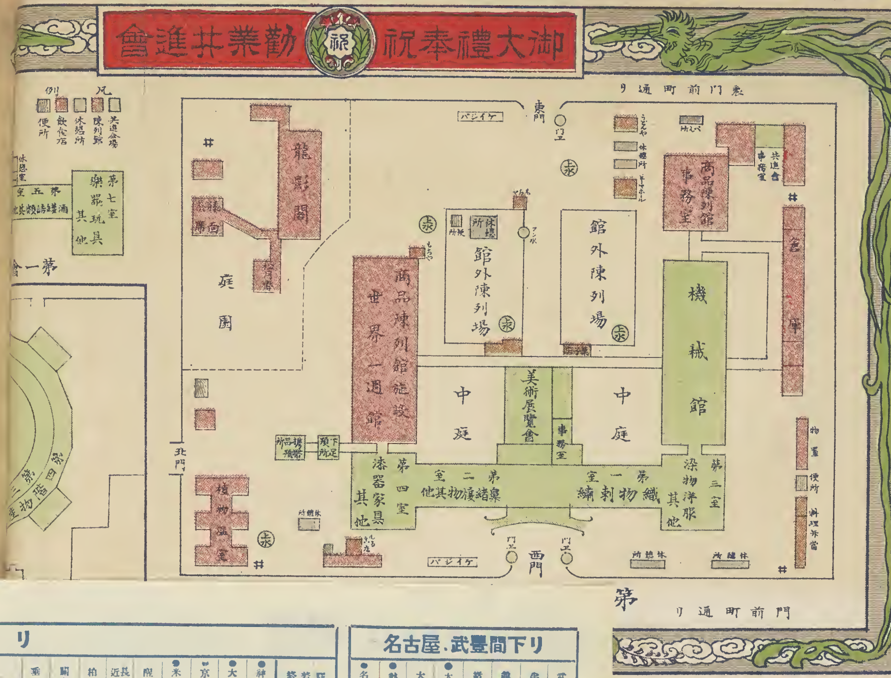
有効馬力	價額	有効馬力	價額
4	1.620円	64	7.320円
6	1.800	71	8.130
9	2.230	85	9.180
12	2.500	100	10.790
15	3.020	115	11.660
22	3.430	130	13.180
29	4.070	145	14.150
36	4.500	170	16.580
43	5.370	200	18.200
50	5.920		
57	6.750		

回轉洗滌機ヲ附設スレバ本定價ノ五分增

名古屋市東區東二葉町(通稱清水坂上)

河合機械製作所

電話(主宅 長七一一番 工場 長九六三番)



濱松、米原間下リ

始發驛及時刻	列車番號	靜岡發	濱松發	舞坂發	辨天島發	新居町發	鷲津發	二川發	豊橋着	豊橋發	御油發	蒲郡發	幸田發	岡崎發	安城發	刈谷發	大府發	大高發	熱田發	名古屋着	名古屋發	枇杷島發	稲澤發	一宮發	木曾川發	岐阜發	穂積發	大垣着	大垣發	垂井發	關ケ原發	柏原發	長岡近江發	醒ケ井發	米原着	京都着	大阪着	神戸着	終着驛及時刻
東京 7.00	* 3	11.39	1.19	…	…	…	…	…	2.02	2.05	…	…	…	…	…	…	…	…	…	3.29	3.36	…	…	…	…	4.15	…	4.33	4.36	…	…	…	…	…	5.25	7.11	8.07	9.00	神戸
東京 7.30	⊠* 11	12.09	1.49	…	…	…	…	…	2.32	2.35	…	…	…	…	…	…	…	…	…	3.59	4.05	…	…	…	…	4.44	…	5.02	5.05	…	…	…	…	…	5.55	7.42	8.45	9.40	神戸
東京 8.00	* 7	1.06	2.52	…	…	…	…	…	3.33	3.42	…	…	…	…	…	…	…	…	…	5.13	5.20	…	…	5.45	…	6.05	…	6.23	6.26	…	…	…	…	…	7.16	9.06	10.04	11.00	神戸
	151	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	5.30	5.40	5.51	6.02	6.12	6.27	6.33	6.49	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
東京 9.00	* 9	2.10	3.56	…	…	…	…	…	4.42	4.46	…	…	…	5.29	…	…	…	…	…	6.20	6.28	…	…	…	…	7.10	…	7.28	7.31	…	…	…	…	…	8.21	10.13	11.11	12.05	神戸
	19	…	…	…	…	…	…	…	…	5.00	5.13	5.27	5.40	5.52	6.04	6.16	6.26	6.37	6.49	6.57	7.05	7.15	7.26	7.37	7.47	8.02	8.13	8.24	8.29	8.43	8.57	9.14	9.23	9.32	9.41	12.16	1.32	2.39	明石 3.28
武豊 6.52	541十	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	7.39	7.52	8.06	8.15	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
東京 9.50	⊠ 21	3.50	5.42	6.00	6.05	6.10	6.17	6.32	6.43	6.47	7.00	7.14	7.27	7.39	7.51	8.03	8.13	8.24	8.36	8.44	8.51	9.01	9.12	9.23	9.33	9.49	10.00	10.11	10.16	10.30	10.44	11.01	11.10	11.19	11.28	2.00	3.17	4.23	明石 5.11
東京 11.00	15	4.56	7.01	…	…	…	…	…	7.51	7.56	…	8.22	…	8.46	…	…	9.18	…	9.40	9.48	10.00	…	…	10.28	…	10.53	…	11.14	11.19	…	…	…	…	…	12.20	2.39	3.44	4.48	下關 8.40
	23	5.45	8.02	8.20	8.25	8.30	8.37	8.52	9.03	9.07	9.20	9.34	9.47	9.59	10.11	10.23	10.33	10.44	10.56	11.04	11.12	11.22	11.33	11.45	11.55	12.11	12.22	12.33	12.38	12.52	1.06	1.23	1.32	1.41	1.50	4.24	5.40	6.47	明石 7.35
沼津 5.50	25	7.36	10.08	10.26	10.31	10.36	10.43	10.58	11.09	11.13	11.26	11.40	11.53	12.06	12.18	12.30	12.41	12.52	1.04	1.12	1.22	1.32	1.43	1.54	2.04	2.19	2.30	2.41	2.46	3.00	3.14	3.31	3.40	3.49	3.58	6.32	7.35	8.43	明石 9.33
國府津 5.20	27	9.37	12.0[illegible]	12.26	12.31	12.36	12.43	12.58	1.09	1.14	1.27	1.41	1.5[illegible]	2.0[illegible]	2.18	2.30	2.41	2.52	3.04	3.12	3.23	3.33	3.44	3.56	4.06	4.22	4.33	4.44	4.50	5.27	5.42	5.59	6.08	6.17	6.26	9.04	…	…	
東京 8.30	⊗ 1	12.41	2.1[illegible]	…	…	…	…	…	2.50	2.53	…	…	…	…	…	…	…	…	…	4.08	4.14	…	…	…	…	…	…	5.04	5.07	…	…	…	…	…	5.54	7.32	8.25	9.15	下關 9.38
武豊 3.20	543十	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	4.12	4.25	4.38	4.48	4.55	5.05	5.16	5.27	5.37	5.52	6.03	6.14	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
東京 6.20	17	12.49	3.0[illegible]	3.19	3.24	3.29	3.36	3.50	4.01	4.04	4.17	4.30	4.4[illegible]	4.5[illegible]	5.07	5.19	5.29	5.40	5.51	5.59	6.06	6.16	6.27	6.38	6.48	7.03	7.14	7.25	7.29	7.43	7.57	8.13	8.21	8.29	8.38	10.56	11.54	12.48	下關 7.45
	135	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	7.40	7.50	8.02	8.13	8.23	8.38	8.49	9.00	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
武豊 6.58	545十	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	7.37	7.50	8.03	8.13	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
東京 8.35	31	3.11	5.2[illegible]	5.45	5.50	5.56	6.03	6.17	6.28	6.32	6.45	6.59	7.1[illegible]	7.2[illegible]	7.36	7.48	7.58	8.09	8.21	8.29	8.35	8.45	8.56	9.07	9.17	9.33	9.44	9.55	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
東京 10.00	537	4.38	6.5[illegible]	7.14	7.19	7.24	7.31	7.46	7.57	8.02	8.15	8.29	8.4[illegible]	8.5[illegible]	9.06	9.18	9.28	9.39	9.51	9.59	10.10	10.20	10.31	10.43	10.53	11.09	11.20	11.31	11.36	11.50	…	…	…	…	12.40	…	…	…	直江津 1.48
東京 11.30	13	6.02	8.1[illegible]	8.35	8.40	8.45	8.52	9.07	9.18	9.21	9.34	9.48	10.01	10.1[illegible]	10.25	10.37	10.46	10.57	11.08	11.16	11.24	11.34	11.45	11.55	12.05	12.20	…	12.41	12.46	…	…	…	…	…	1.47	4.09	5.14	6.15	岡山 12.05
東京 4.00	* 5	9.10	10.5[illegible]	…	…	…	…	…	11.40	11.44	…	…	…	…	…	…	…	…	…	1.17	1.26	…	…	1.53	…	2.15	…	2.34	2.37	…	…	…	…	…	3.31	5.27	6.26	7.24	下關 8.24
	407	…	7.10	7.32	7.38	7.45	7.54	8.17	8.32	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	

米原、濱松間上リ

始發驛及時刻	列車番號	神戸發	大阪發	京都發	米原發	醒ケ井發	長岡近江發	柏原發	關ケ原發	垂井發	大垣着	大垣發	穂積發	岐阜發	木曾川發	一宮發	稲澤發	枇杷島發	名古屋着	名古屋發	熱田發	大高發	大府發	刈谷發	安城發	岡崎發	幸田發	蒲郡發	御油發	豊橋着	豊橋發	二川發	鷲津發	新居町發	辨天島發	舞坂發	濱松着	靜岡着	終着驛及時刻
神戸	* 10	9.00	9.56	10.56	12.54	…	…	…	…	…	1.45	1.47	…	2.08	…	…	…	…	2.46	2.56	…	…	…	…	…	…	…	…	…	4.25	4.29	…	…	…	…	…	5.12	7.00	東京 12.10
下關 9.50	* 6	10.34	11.32	12.34	2.27	…	…	…	…	…	3.17	3.20	…	3.41	…	4.01	…	…	4.23	4.31	…	…	…	…	…	5.25	…	…	…	6.04	6.08	…	…	…	…	…	6.51	8.39	東京 1.50
	26	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	5.50	6.02	6.13	6.25	6.34	6.46	6.58	7.09	7.21	7.34	7.45	7.49	8.02	8.16	8.22	8.28	8.33	8.48	11.07	東京 5.50
	28	…	…	…	4.30	4.42	4.53	5.03	5.16	5.26	5.37	5.42	5.54	6.06	6.20	6.31	6.41	6.53	7.00	7.08	7.21	7.32	7.44	7.53	8.05	8.17	8.28	8.40	8.53	9.04	9.08	9.21	9.35	9.41	9.47	9.52	10.07	12.26	東京 7.05
	542十	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	7.26	7.37	7.50	8.14	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	武豊 8.55
	30	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	7.00	7.12	7.24	7.38	7.49	7.59	8.11	8.18	8.27	8.40	8.51	9.03	9.12	9.24	9.36	9.47	9.59	10.12	10.23	10.26	10.39	10.53	10.59	11.05	11.10	11.25	1.43	東京 8.10
京都	32	…	…	5.00	7.38	7.50	8.01	8.11	8.24	8.34	8.45	8.50	9.02	9.13	9.27	9.37	9.47	9.59	10.06	10.13	10.25	10.36	10.48	10.57	11.09	11.21	11.32	11.44	11.57	12.08	12.11	12.24	12.38	12.44	12.50	12.55	1.10	3.28	沼津 5.01
下關 10.15	18	5.00	5.55	6.55	9.18	9.30	9.39	9.48	10.00	10.09	10.19	10.21	10.33	10.45	10.59	11.09	11.18	11.29	11.36	11.42	11.53	12.04	12.16	12.24	12.36	12.48	12.59	1.10	1.23	1.33	1.36	1.48	2.01	2.07	2.13	2.18	2.33	5.03	東京 11.00
下關 7.10	⊗ 2	7.40	8.28	9.24	11.05	…	…	…	…	…	11.49	11.52	…	…	…	…	…	…	12.41	12.47	…	…	…	…	…	…	…	…	…	2.01	2.04	…	…	…	…	…	2.44	4.14	東京 8.30
神戸	50	5.50	6.55	8.15	11.17	11.29	11.40	11.50	12.03	12.13	12.24	12.29	12.41	2.54	1.08	1.20	1.30	1.42	1.49	2.00	2.13	2.24	2.37	2.46	2.58	3.11	3.22	3.34	3.47	3.58	4.03	4.16	4.30	4.36	4.42	4.47	5.02	7.19	沼津 8.52
	546十	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	3.10	3.30	3.49	4.17	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	武豊 5.12
明石 7.30	34	8.18	9.24	10.39	1.20	1.32	1.43	1.53	2.06	2.16	2.27	2.32	2.44	2.57	3.11	3.23	3.33	3.45	3.52	4.05	4.18	4.29	4.42	4.51	5.04	5.17	5.28	5.40	5.53	6.04	6.10	6.23	6.37	6.43	6.49	6.54	7.09	9.28	沼津 11.05
	150	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	3.50	4.02	4.14	4.28	4.39	4.49	5.01	5.08	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
岡山 5.50	14	10.44	11.44	12.58	3.32	3.44	3.55	4.05	4.18	4.28	4.39	4.44	4.56	5.09	5.23	5.35	5.45	5.57	6.04	6.18	6.31	6.42	6.54	7.03	7.15	7.27	7.38	7.50	8.03	8.14	8.19	8.32	8.46	8.52	8.58	9.03	9.18	11.38	東京 5.25
	548十	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	5.45	5.57	6.09	6.23	6.34	6.44	6.56	7.03	7.13	7.25	7.36	8.00	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	武豊 8.51
姫路 9.40	⊠ 36	11.40	12.45	2.05	4.44	4.56	5.07	5.17	5.30	5.40	5.51	5.56	6.08	6.20	6.34	6.45	6.55	7.07	7.14	7.22	7.35	7.46	7.59	8.08	8.20	8.32	8.43	8.55	9.08	9.17	9.23	9.36	9.50	9.56	10.02	10.07	10.23	12.42	東京 6.30
下關 8.05	16	12.25	1.34	2.56	5.31	5.43	5.54	6.04	6.17	6.27	6.38	6.43	6.55	7.08	7.22	7.33	7.43	7.55	8.02	8.12	8.25	8.36	8.48	8.57	9.09	9.21	9.32	9.44	9.57	10.08	10.11	10.24	10.38	10.44	…	10.53	11.08	1.14	東京 7.05
明石 1.27	38	2.15	3.21	4.41	7.20	7.32	7.43	7.53	8.06	8.16	8.27	8.32	8.44	8.57	9.11	9.22	9.32	9.44	9.51	9.59	10.12	10.23	10.35	10.44	10.56	11.08	11.19	11.31	11.44	11.55	…	…	…	…	…	…	…	…	
	152	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	10.20	10.32	10.44	10.58	11.09	11.19	11.31	11.38	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
神戸	* 4	6.30	7.22	8.20	10.09	…	…	…	…	…	10.56	10.59	…	11.18	…	…	…	…	11.54	12.02	…	…	…	…	…	…	…	…	…	1.25	1.28	…	…	…	…	…	2.12	3.55	東京 8.40
神戸	* 12	7.10	8.00	8.58	10.49	…	…	…	…	…	11.39	11.42	…	12.01	…	…	…	…	12.39	12.47	…	…	…	…	…	…	…	…	…	2.16	2.19	…	…	…	…	…	3.02	4.50	東京 9.35
神戸	* 8	7.30	8.24	9.23	11.17	…	…	…	…	…	12.08	12.11	…	12.32	…	12.52	…	…	1.14	1.22	…	…	…	…	…	…	…	…	…	2.51	2.55	…	…	…	…	…	3.38	5.26	東京 10.35

(御注意)
一藍字ハ午前. 赤字ハ午後. …ハ通過. ⊗ハ特別急行列車. *ハ普通急行列車. 十ハ武豊線直通列車. ●印ハ途中下車驛ヲ示ス.
一急行列車第一.二(一.二等特急)。第三.四(一.二等)。第五.六(各等)。第七.八(三等)、第九.一〇(二.三等)。第一一.一二(一.二等不定期)列車ハ急行列車券ヲ要ス
一⊠印アル第一一.一二急行列車ハ多客ノ時期ノ際運轉ス. 又東京濱松間第二一. 米原東京間第三六列車ハ自三月十五日至四月末日. 自六月二十五日至九月二十日. 自十二月十五日至一月二十日期間ノミ運轉ス. 又大垣大府間第五四八列車ハ第三六列車(米原東京間)ヲ運轉セザルトキニ限リ運轉ス. 濱松豊橋間第四〇七列車ハ自十一月一日至翌年四月末日運轉ス.

名古屋、武豊間下リ

名古屋發	熱田發	大高發	大府發	緒川發	龜崎發	半田發	武豊着
…	…	…	6.33	6.40	6.54	7.04	7.13
7.26	7.37	7.50	8.14	8.21	8.36	8.46	8.55
…	…	…	9.27	9.37	9.58	10.13	10.23
…	…	…	11.02	11.10	11.25	11.35	11.44
…	…	…	12.45	12.53	1.08	1.18	1.27
…	…	…	2.57	3.05	3.20	3.30	3.39
3.10	3.30	3.49	4.17	4.27	4.47	5.02	5.12
…	…	…	5.45	5.55	6.15	6.30	6.40
…	…	…	6.57	7.03	7.18	7.27	7.34
7.13	7.25	7.36	8.00	8.08	8.27	8.41	8.51
…	…	…	8.57	9.05	9.20	9.30	9.39
…	…	…	10.48	10.56	11.11	11.21	11.30

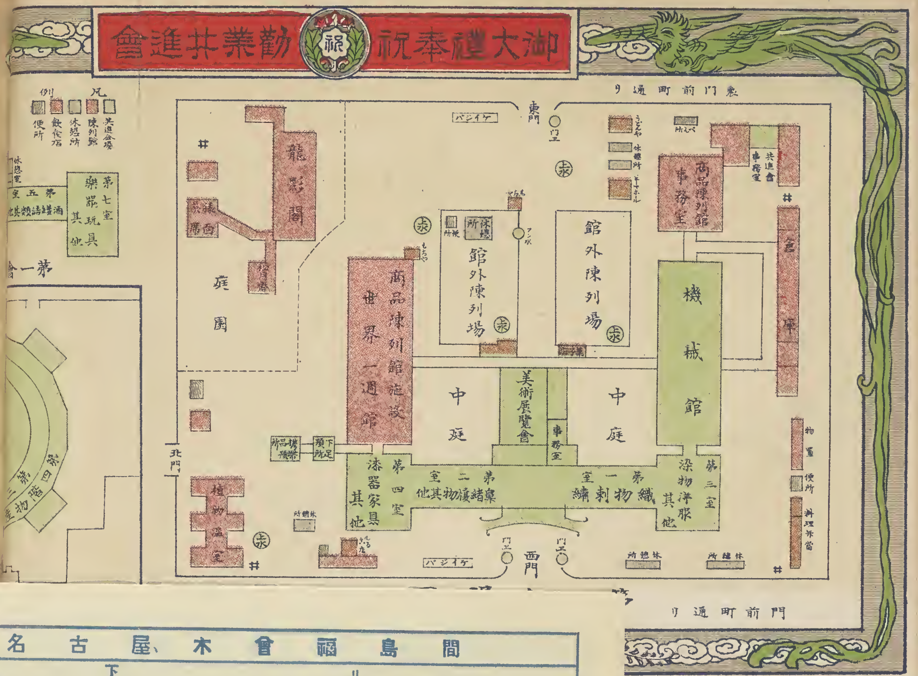
武豊、名古屋間上リ

武豊發	半田發	龜崎發	緒川發	大府着	大高着	熱田着	名古屋着
5.32	5.43	5.54	6.08	6.15	…	…	…
6.52	7.03	7.13	7.27	7.34	7.51	8.04	8.15
8.12	8.23	8.35	8.49	8.56	…	…	…
9.24	9.40	9.56	10.13	10.20	…	…	…
11.22	11.36	11.50	12.06	12.13	…	…	…
1.48	1.59	2.09	2.23	2.30	…	…	…
3.20	3.31	3.41	3.55	4.02	4.24	4.37	4.49
4.20	4.35	4.50	5.07	5.14	…	…	…
5.42	5.57	6.12	6.29	6.36	…	…	…
6.58	7.06	7.17	7.29	7.35	7.49	8.02	8.13
8.04	8.13	8.24	8.36	8.42	…	…	…
9.49	9.59	10.09	10.23	10.30	…	…	…

武豐線列車ハ一等車ヲ連結セズ

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ尤モ安全經濟ナル原動機ナリ燃料タル鋸屑ハ地方ニヨリテハ無價値ノモノニ付無代價ノ動力ヲ得ルハ實ニ鋸屑用吸入瓦斯機關ノ特長ナリ仮リニ壹叺(十二貫目入)八錢トスルモ一時間一馬力ノ燃料ハ僅ニ參厘ニテ足レリ蒸氣機關ニ於ケル普通壹時間一馬力三錢五厘ノ燃料費ト批較セバ殆ンド十二分ノ一ノ費用ニテ運轉ス

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ運轉靜穏ニシテ音響ナク至極便利ナル原動機ナリ而モ電氣作用ニヨル点火装置ナルヲ以テ火災ノ憂ヒ更ニナシ



名古屋、木曾福島間

下り

名古屋發	千種發	大曾根發	勝川發	高藏寺發	多治見着	多治見發	土岐津發	瑞浪發	釜戸發	大井發	中津川着	中津川發	坂下發	三留野發	野尻發	須原發	上松發	木曾福島着	長野着	終着驛	
…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	6.00	6.35	7.10	7.45	8.12	8.53	9.15	…		
5.45	6.01	6.09	6.20	6.39	7.04	7.12	7.30	7.44	8.01	8.29	8.55	9.03	9.27	9.49	10.16	10.37	11.08	11.28	4.56	飯田町	11.30
8.25	8.40	8.48	8.59	9.18	9.43	9.50	10.07	10.21	10.38	11.05	11.31	11.40	12.04	12.26	12.51	1.12	1.44	2.04	7.26		
12.00	12.18	12.26	12.37	12.56	1.21	1.33	1.51	2.05	2.22	2.59	3.25	3.33	3.57	4.19	4.45	5.06	5.38	5.58	11.03		
2.00	2.21	2.29	2.41	3.02	3.31	3.40	4.01	4.16	4.34	5.05	5.35	5.47	6.13	6.40	7.03	7.31	8.06	8.27	…	松本	11.22
4.50	5.06	5.16	5.27	5.46	6.11	6.25	6.43	7.01	7.18	7.45	8.11	…	…	…	…	…	…	…	…		
…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	8.30	9.07	9.40	10.17	10.46	11.29	11.51	…		
7.00	7.18	7.26	7.37	8.03	8.28	8.45	9.02	9.22	9.39	10.09	10.32	10.40	11.04	11.26	11.51	12.12	12.44	1.04	6.10		
10.10	10.34	10.45	10.59	11.21	11.50	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…		

上り

發驛		長野發	木曾福島發	上松發	須原發	野尻發	三留野發	坂下發	中津川着	中津川發	大井發	釜戸發	瑞浪發	土岐津發	多治見着	多治見發	高藏寺發	勝川發	大曾根發	千種發	名古屋着
		…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	6.10	6.40	6.59	7.12	7.30	7.44
		…	…	…	…	…	…	…	…	6.05	6.33	7.00	7.15	7.31	7.45	7.55	8.18	8.33	8.50	9.02	9.14
		…	…	…	…	…	6.06	6.42	7.07	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
		12.15	5.50	6.08	6.34	6.48	7.09	7.31	7.50	8.00	8.30	8.56	9.11	9.25	9.39	9.47	10.10	10.25	10.36	10.46	10.58
松本	6.30	…	9.17	9.35	10.01	10.17	10.37	10.59	11.18	11.33	12.02	12.28	12.43	12.57	1.11	1.23	1.46	2.01	2.12	2.24	2.36
		6.45	12.25	12.43	1.09	1.23	1.43	2.04	2.23	2.31	3.00	3.29	3.44	4.00	4.14	4.24	4.47	5.02	5.15	5.27	5.39
		10.00	3.42	4.00	4.26	4.44	5.04	5.26	5.45	5.52	6.19	6.45	7.02	7.15	7.29	7.40	8.02	8.17	8.28	8.40	8.52
飯田町	5.25	12.30	6.07	6.25	6.51	7.06	7.26	7.47	8.06	8.13	8.40	9.06	9.21	9.34	9.48	9.55	10.17	10.32	10.43	10.52	11.04
		…	7.40	8.10	8.47	9.09	9.41	10.13	10.38	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…

名古屋、龜山間

下り

名古屋發	蟹江發	彌富發	長島發	桑名發	富田發	四日市發	河原田發	加佐登發	龜山着	山田着	湊町着
5.45	5.58	6.08	6.15	6.23	6.35	6.44	6.54	7.05	7.19	9.37	11.18
6.48	7.01	7.11	7.18	7.26	7.38	7.48	7.58	8.09	8.23	10.06	…
8.23	8.42	8.55	9.03	9.12	9.26	9.37	9.49	10.03	10.19	12.39	2.44
9.18	9.34	9.44	9.51	9.59	10.11	10.20	…	…	…	…	…
10.00	10.17	10.29	10.37	10.47	11.01	11.12	11.24	11.37	11.53	1.27	4.08
11.18	11.38	11.51	11.59	12.09	12.23	12.36	12.48	1.01	1.17	3.38	4.57
1.40	1.59	2.11	2.19	2.28	2.44	2.55	3.07	3.20	3.36	5.40	7.58
2.46	3.02	3.15	3.23	3.32	3.46	3.59	4.13	4.26	4.42	…	…
4.12	4.25	4.35	4.42	4.51	5.03	5.13	5.23	5.34	5.48	…	…
5.00	5.18	5.30	5.38	5.47	6.01	6.12	6.25	6.38	6.54	9.35	…
6.10	6.25	6.38	6.46	6.57	7.11	7.22	7.36	7.49	8.05	…	…
7.00	7.22	7.36	7.45	7.55	8.10	8.22	8.35	8.50	9.07	11.20	…
8.44	9.00	9.12	9.20	9.29	9.43	9.55	10.07	10.20	10.36	…	…
10.20	10.46	11.04	11.13	11.26	11.41	11.59	12.12	12.27	12.44	…	…

上り

湊町發	山田發	龜山發	加佐登發	河原田發	四日市發	富田發	桑名發	長島發	彌富發	蟹江發	名古屋着
…	…	4.00	4.15	4.28	4.48	4.59	5.17	5.27	5.41	6.00	6.18
…	5.00	5.41	5.56	6.09	6.22	6.36	6.51	7.01	7.12	7.26	7.43
…	…	6.53	7.06	7.16	7.27	7.39	7.51	7.59	8.06	8.16	8.31
…	5.05	7.29	7.44	7.59	8.11	8.22	8.36	8.45	8.54	9.06	9.23
…	5.50	8.38	8.51	9.02	9.14	9.27	9.41	9.52	10.01	10.16	10.31
6.00	7.28	9.50	10.02	10.12	10.22	10.32	10.46	10.54	11.01	11.11	11.25
…	8.00	10.53	11.08	11.25	11.42	11.54	12.10	12.20	12.33	12.48	1.06
…	9.33	11.59	12.13	12.24	12.37	12.48	1.02	1.11	1.19	1.31	1.48
9.15	11.57	1.53	2.06	2.17	2.30	2.42	2.56	3.05	3.14	3.26	3.41
11.20	1.34	3.48	4.01	4.12	4.24	4.35	4.50	4.59	5.07	5.19	5.34
…	…	…	…	…	5.20	5.32	5.50	5.59	6.08	6.24	6.39
…	3.40	6.02	6.13	6.24	6.34	6.44	6.56	7.04	7.11	7.21	7.34
…	…	7.08	7.23	7.37	7.57	8.11	8.26	8.36	8.45	9.02	9.20
5.00	6.58	9.17	9.30	9.41	9.54	10.05	10.19	…	10.33	10.45	11.00

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ尤モ安全經濟ナル原動機ナリ燃料タル鋸屑ハ地方ニヨリテハ無價値ノモノニ付無代價ノ動力ヲ得ルハ實ニ鋸屑用吸入瓦斯機關ノ特長ナリ仮リニ壹叺（十二貫目入）八錢トスルモ一時間一馬力ノ燃料ハ僅ニ參厘ニテ足レリ蒸氣機關ニ於ケル普通壹時間一馬力三錢五厘ノ燃料費ト批較セバ殆ンド十二分ノ一ノ費用ニテ運轉ス

一鋸屑用吸入瓦斯機關ハ運轉靜穩ニシテ音響ナク至極便利ナル原動機

名古屋市南區堀川筋瓶屋橋西詰

名古屋木材株式會社

電話 長 三一九番
四五六番
一、二七三番

電信略符（ナ）又ハ（ナモク）

名古屋木材株式會社案内

一委托品ニ對スル金融

仕切前金　荷物到着荷受ノ手續ヲナシタル上ハ其評價額ノ十分ノ七以內ニ於テ前金ノ融通ヲナス

利息割合　仕切前金及運賃始メノ諸立替金ニ對シテハ金百圓ニ付壹ケ月金九拾錢ノ割ヲ以テ利息ヲ申受ク

但金融ノ繁閑ニ依リ更正スルコトアルベシ

一仕切期限左ノ如シ

桴市賣　翌月末日（市日ガ末ナルトキハ總分延期スルコトアルベシ）

木場市賣　市賣當月ヨリ起算シ貳ケ月目ノ末日トス（市日ガノ二十五日以後ナルトキハ更ニ一ケ月ヲ延ブ）

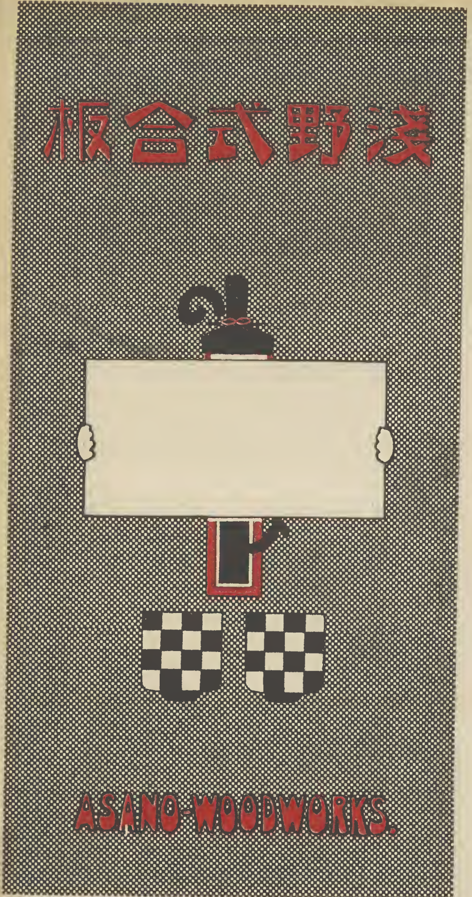
小口市賣　翌月末日

直組賣　其月末日（特ニ約束アルトキハ此限ニアラズ）

一當會社市賣ノ特色

一、當會社ノ市賣ハ荷主立會シテ仲買同樣入札ノ際元札ヲ入ル、定メナレバ荷主ノ見込直段ニ達セザルトキ賣却ヲ見合ハスコトハ荷主ノ隨意ナリ故ニ一度市賣ニ付シタリトモ氣配不頁ナルトキハ進退ヲ決シ更ニ時機ニ投シ賣却シ得ルノ利益アリ

二、他地方ノ委托品ニシテ荷主立會セザルモノハ當會社ハ荷主ニ代リ現品ニ就キテ詳細下見評價ノ上元札ヲ入ル、モノトス依テ指直ノ有無ニ拘ハラズ濫ニ成行ニ任セテ放賣スルコトヲ爲サズ力メテ親切ニ荷主ノ利益ヲ保護スベシ



製造販賣元

名古屋市西區上畠町

淺野木工場

電話長 二一四番
二〇八〇番

振替貯金口座大阪二三七四二番

大阪販賣店

三陽商會

大阪市西區西道頓堀二丁目

長電話西二八五九番

東京市神田區鎌倉河岸

淺野木工場東京販賣店

電話長本二九四一番

（名古屋三成社印行）

大阪販賣店

三陽商會

大阪市西區西道頓堀二丁目

長電話西二八五九番

東京市神田區鎌倉河岸

淺野木工場東京販賣店

電話長本二九四一番

（名古屋三成社印行）

一保管物ニ對スル金融

擔保貸金　評價額ノ十分ノ八以内ニ於テ精々貸出ノ需ニ應ズ

利息割合　金融ノ繁閑ニ應ジ時々之ヲ定ムト雖モ及ブ限リ低率ニ取扱フベシ

一諸懸リ費用

水揚桝積品譯ニ要スル人夫賃等ノ諸費用ハ其實際額ニ依リ申受ク

人夫賃ハ當會社常備ノ人夫ヲ以テ當地普通割合以下ニ取扱フ

一當會社水面倉庫ノ特色

當會社ノ貯木池ハ左ノ特色アリ以テ木材保存ノ目的ヲ全フスルコトヲ得ベシ

一、堅牢ナル水門二箇ノ設備アリテ出入便利保管最安全ナルコト

二、常ニ一定ノ水位(深約六尺)ヲ保チ干滿ノ差ナキヲ以テ水圍ノ目的ヲ全フスルコト

三、池水淡鹹其度ニ適セルヲ以テ材質ヲ美ररナラシメ且永ク貯材スルモ腐蝕ノ憂ナキコト

四、肋骨式ノ池骨ニ依リ一定ニ區劃シテ風波ヲ防ギ混亂ヲ禦グコト

五、池底硬固平坦且淤泥ヲ止メザルヲ以テ紛失及埋沒ノ虞ナキコト

六、操業便易ニシテ著シク運材費用ヲ節減シ得ラル丶コト

營業案内概要

○委託販賣部

一販賣方法左ノ如シ

一、市　賣　入札法又ハ糶賣法ニ依ル

市賣ヲ分テ左ノ三種トス

イ、桴　市　水中桴尺〆二三十本ヲ以テ一口トナシ入札ニ付スルモノ

每月一回開催ス

ロ、木場市　陸桝尺〆十本内外ヲ以テ一口トナシ入札ニ付スルモノ

每月約五回開催ス

ハ、小口市　各種製材及材木ヲ小口ヲ以テ糶賣スルモノ

每月約五回開催ス

二、直組賣　買受希望者ト直組ヲ以テ賣買スルモノ

一手數料及諸懸リ費用

手　數　料　賣上金額ノ百分ノ五

市賣ト直組賣トヲ問ハズ同率ナリ

諸懸リ費用　賣上金額ノ約百分ノ五

運搬及圍桝ニ要スル人夫賃幷ニ置場料等都テ其實費ヲ申受クルモノナルヲ以テ販賣ノ方法及賣行ノ遲速ニ依リ一定シ難シト雖モ概略前揭ノ通リ

市賣ニ付スルモノハ少額ノ市懸費ノ賦課アリ

製造販賣元

名古屋市西區上畠町

淺野木工場

電話長二一四番

　　　二〇八〇番

振替貯金口座大阪二三七四二番

大阪販賣店

三陽商會

大阪市西區西道頓堀二丁目

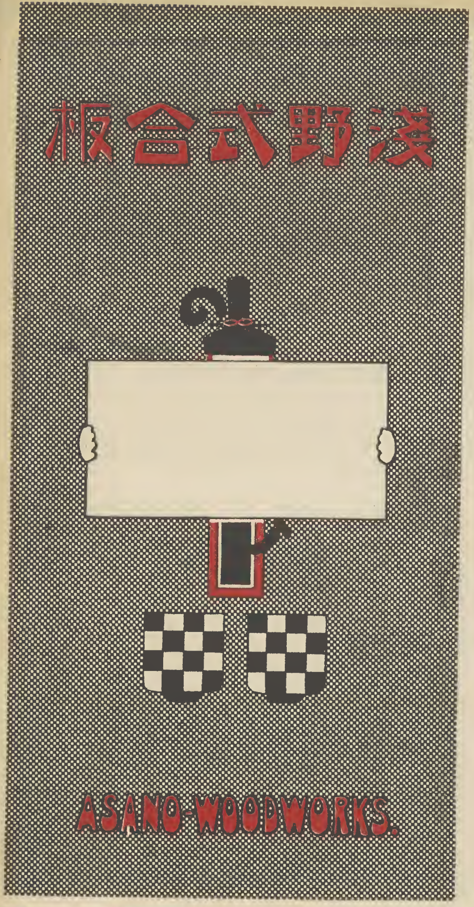
長電話西二八五九番

東京市神田區鎌倉河岸

淺野木工場東京販賣店

電話長本二九四一番

(名古屋三成社印行)



大阪販賣店

三陽商會

大阪市西區西道頓堀二丁目

長電話西二八五九番

東京市神田區鎌倉河岸

淺野木工場東京販賣店

電話長本二九四一番

(名古屋三成社印行)

◎木材を賣らんとする方………買はんとする方………保管を托せんとする方………金融を求めんとする方は名古屋に名古屋木材株式會社あることを御記臆ありたし

一當會社ハ木材ノ賣買、委托販賣、保管、擔保附貸金ヲ以テ營業ノ目的トス

一當會社ノ資本金ハ壹百萬圓ナリ

一當會社ハ既設愛知材木株式會社（明治三十年舊三會社合併ニ依リ設立）ヲ買收シ其營業ヲ繼承シテ明治四十年五月開業セリ

一當會社ハ當市材木問屋業ノ白眉タリ當市ハ勿論汎ク各地ヨリノ委托物ヲ取扱フハ獨リ當會社アルノミ

一當會社ハ當市唯一ノ水面倉庫ヲ備フル材木倉庫營業者ナリ

一當會社ノ貯木場ハ水陸廣袤三萬二千餘坪アリ

一當會社ノ貯木池ハ堀川ヨリ引水シ堀川筋ニ開閉自在ニシテ構造完全ナル水門二箇ノ設備アルヲ以テ出入便利保管尤モ安全ナリ

一當會社ハ木材ニ關スル各般ノ事業ヲ兼營スルヲ以テ迅速簡易ニ取引ヲ結了スルコトヲ得ル利便アリ

一當會社ハ公平誠實ヲ旨トシ熱心勉勵顧客ノ便宜ヲ圖リ誓テ厚顧ニ背カザランコトヲ期ス

○倉庫部

一倉庫部營業科目左ノ如シ

一、諸木材ノ保管
二、倉庫ノ賃貸
三、保管物擔保ノ貸金及金融ノ紹介

一保管料規定

保管料ハ從量從價ノ兩率ヨリ算定シ出入トモ月ノ十五日ヲ以テ界トシ全月分若クハ半月分ヲ申受クベシ其料率左ノ如シ

一普通材木　壹ヶ月 從量 尺〆壹本ニ付金壹錢 / 從價 千分ノ貳半

例之尺〆壹本評價金四圓ノ材木ニ對シテハ尺〆壹本ニ付壹ヶ月從量率金壹錢從價率金壹錢合計金貳錢ノ保管料ヲ申受ク

特ニ長大重量ノ物品小丸太類其他尺〆ニ據リ難キモノ又ハ圖栟ノ方法位置等特ニ指圖アルモノハ其都度協定ノ上相當料金ヲ申受クベシ

一貸庫料規定

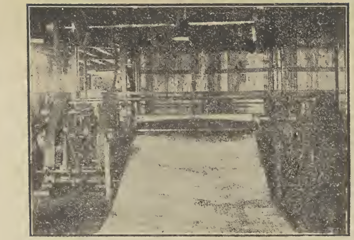
一、水面　壹坪ニ付壹ヶ月金拾壹錢
二、陸上　壹坪ニ付壹ヶ月約金八錢

但陸上ニ限リ地位ノ良否ニ依リテ等差アリ

板
ASANO-
ASANO-

専賣特許 淺野式合板（一名ベニア板）説明

淺野式合板剝機械



一材料 木ノ種類ハ如何ナルモノニテモ適用セラル現在多ク使用セラル、ハ概ネ左ノ如シ
楢、栓、黄蘗、椈、櫧、楓、胡桃、櫻、樺、榛、榀、桂、朴、欅、槐、檜、樅、松、杉、桐、桑、其他唐木類

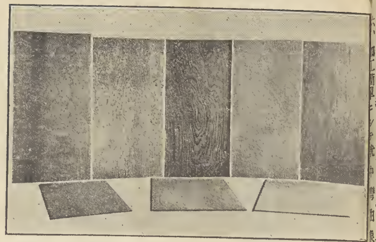
一製法 久敷水中ニテ木汁抜キシタル木材ヲ蒸溜ニテ蒸シ之レヲ薄ク剝取再ビ蒸溜ニテ乾燥セシメ充分収縮セシメタル後特種ノ藥品ヲ以テ縱横ニ三枚或ハ數枚密着セシメタルモノナリ

一用途
一、和洋建築材料幷ニ裝飾用
二、家具類一式
三、船舶、車輛、飛行機、自動車材料幷ニ裝飾用
四、漆器素地幷ニ象嵌細工用
五、彎曲細工幷ニ荷造外箱用

一特長
一、木材ノ外圍ヨリ周縁ノ方向ヘ剝キ取リタルモノナルカ故ニ巾廣キ大形ノモノヲ一枚板トシテ提供スルコトヲ得
二、外觀美麗ニシテ板全面ノ色彩ヲ全フシ殊ニ鳥目杢、渦卷杢、玉杢、笹杢、砂子杢等其他優艶奇抜ナル杢目ヲ現ハス
三、新發見ノ混合藥ニテ縱横ニ練合セタルヲ以テ普通板材ニ比シ數倍ノ負擔耐久力ヲ有シ毫モ剝離割裂スルコトナシ殊ニ釘付木捻等便利ナリ
四、木性ノ狂歪ヲ乾燥矯正シアルヲ以テ伸縮割裂ノ虞更ニナシ
五、密着ノ際殺菌藥ヲ混加シアルヲ以テ虐蝕ノ憂ナシ
六、加工簡單ニシテ[illegible]中彎曲、象嵌細工等[illegible]製作ヲ得
七、製造中數回ノ蒸溜高熱ヲ浸透シアルヲ以テ極メテ衛生ニ適ス
八、從來無價物視セラレタル雜木ヲ利用スルヲ以テ製品ノ價格亦從ツテ低廉ナリ

淺野式合板應用製作品

淺野式合板見本

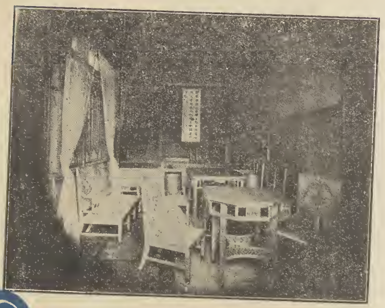


一主ナル製品
一、天井板、鏡天井板、壁張板、腰張板、寄セ木張、襖戸、欄間、衝立、敷込、床板、椽板、違棚板、建具類
二、簞笥、机、デスク、書棚、掛書棚、隅棚、丸卓子、椅子、紅茶卓、長椅子、花臺、帽子臺、鏡臺、火鉢臺
三、船舶、車輛ニシテハ天井、床板、凭板等其他重量ノ負擔ヲ減シ堅固ヲ尙フ箇所
四、漆器ノ素地用其他象嵌細工トシテ額面、額椽、器具類其他裝飾用
五、彎曲用トシテハ火鉢、桶類又荷造用トシテハ二等品ニテ茶箱、護謨函、包裝箱等其他抽手裏板横板等枚擧ニ遑アラス

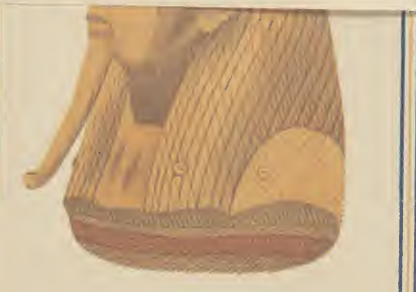
賜宮内省御買上光榮

授賞鑑

金牌	東京大正博覽會
金牌	京都戰捷記念博覽會
一等賞金盃	國産獎勵品評會
名譽金牌	第一回第二回木製品競技會
名譽金賞牌	日獨戰捷記念全國特産品博覽會
名譽賞金牌	大阪第七回日本産業博覽會
名譽賞金牌	大阪衛生大博覽會
名譽大賞牌	大典記念全國特産品共進會
名譽賞牌	米國桑港萬國大博覽會



淺野式合板應用室内



ASANO-MOKKŌJŌ.

大阪販賣店
三陽商會
大阪市西區道頓堀二丁目
電話長西二八五九番

東京市神田區鎌倉河岸
淺野木工場東京販賣店
電話長本二九四一番

（名古屋三成社印行）

……對スル金融
荷物到着荷受ノ手續ヲナシタル上ハ其評價額ノ十
内ニ於テ前金ノ融通ヲナス
仕切前金及運賃始メノ諸立替金ニ對シテハ金百圓
月金九拾錢ノ割ヲ以テ利息ヲ申受ク
ノ繁閑ニ依リ更正スルコトアルベシ
左ノ如シ
翌月末日（市日月末ナルトキハ幾分延期スルコトアルベシ）
市賣當月ヨリ起算シ貳ケ月目ノ末日トス（市日月ノ二十五日以後ナルトキハ更ニ一ケ月ヲ延ブ）
翌月末日
其月末日（特ニ約束アルトキハ此限ニアラズ）

買ノ特色
ノ市賣ハ荷主立會シテ仲買同樣入札ノ際元札ヲ入
ナレバ荷主ノ見込直段ニ達セザルトキ賣却ヲ見合
ハ荷主ノ隨意ナリ故ニ一度市賣ニ付シタリトモ氣
ルトキハ進退ヲ決シ更ニ時機ニ投シ賣却シ得ルノ
ノ委託品ニシテ荷主立會セザルモノハ當會社ハ荷
現品ニ就キテ詳細下見評價ノ上元札ヲ入ル、モノ
指直ノ有無ニ拘ハラズ濫ニ成行ニ任セテ放賣スル
サズカメテ親切ニ荷主ノ利益ヲ保護スベシ

大正四年十月十五日

製造販賣元
名古屋市西區上畠町
淺野木工場
電話長 一四番
二〇八〇番
振替貯金口座大阪二三七四二番

大阪販賣店
三陽商會
大阪市西區西道頓堀二丁目
長電話西二八五九番

東京市神田區鎌倉河岸
淺野木工場東京販賣店
電話長本二九四一番

(名古屋三成社印行)

直段表

樹	種	一平方尺ニ付
楢	ナラ	拾五錢以上各種
栓	セン	拾五錢以上各種
黄蘗	キハダ	拾五錢以上各種
桛	タモ	拾錢以上各種
楓	カエデ	貳拾錢以上各種
栃	トチ	拾八錢以上各種
椈	ブナ	拾貳錢以上各種
胡桃	クルミ	拾五錢以上各種
櫻	サクラ	貳拾錢以上各種
樺	カバ	拾五錢以上各種
榛	ハンノキ	拾五錢以上各種
椙	シナ	拾貳錢以上各種
桂	カツラ	拾五錢以上各種
朴	ホウ	拾五錢以上各種
楢柾	ナラマサ	參拾錢以上各種
欅	ケヤキ	貳拾五錢以上各種
槐	エンジユ	貳拾五錢以上各種
檜	ヒノキ	貳拾五錢以上各種
松	マツ	貳拾錢以上各種
栂	ツガ	貳拾錢以上各種
杉	スギ	貳拾五錢以上各種
桐	キリ	參拾錢以上各種
桑	クワ	五拾錢以上各種

●但シ鉋仕上ゲハ毎一平方尺ニ付貳錢宛可申受候

(但シ原料價格ノ變動ニ因リ多少ノ相違ヲ生スルヿ可有之候)

右ノ內近來賣行宜敷ハ楢(ナラ)、楓(カエデ)、栃(トチ)、樺(カバ)、椙(シナ)、杉(スギ)、松(マツ)、檜(ヒノキ)、桐(キリ)等ニ有之候

右直段表ノ品質ハ左記ノ通リニ候

一、品位　普通品ニシテ杢目、色合等御指定ナキモノ

一、厚　三枚張リニシテ出來上リ一分五厘(十六分ノ三吋)

一、寸法　巾三尺以下、長六尺以下

一、表板片面使用ノモノ、裏板ハ二等品以下

御使用向ニヨリ特別御注文ノ節ハ凡ソ左記ノ通リ割增相願候

一、揃物ニテ特別吟味ヲ要スルモノハ一割以上

一、三枚張ニシテ厚サ一分五厘以上トナル片ハ中板ノ厚サ五厘(十六分ノ一吋)ヲ增ス每ニ一平方尺ニ付壹錢增

一、三枚張ニシテ厚サ三分(八分ノ三吋)以上ノ厚物又ハ特ニ耐力強度ヲ增ス爲メ三枚張以上ノモノハ二枚增ス每ニ一平方尺ニ付金五錢增

一、巾三尺以上長サ六尺以上ノモノハ巾四尺迄五割增

一、兩面用ニシテ品質御指定ノ節ハ五割增

右ノ外特別御注文ノ節ハ精々廉價ニ御相談可致候

御取引ハ總テ現金トシ每一平方尺ニ付計算シ割引割戾等ハ一切不仕候

對スル金融

荷物到着荷受ノ手續ヲナシタル上ハ其評價額ノ十內ニ於テ前金ノ融通ヲナス

仕切前金及運賃始メノ諸立替金ニ對シテハ金百圓月金九拾錢ノ割ヲ以テ利息ヲ申受クノ繁閑ニ依リ更正スルコトアルベシ

左ノ如シ

翌月末日(市日月末ナルトキハ幾分延期スルコトアルベシ)

市賣當月ヨリ起算シ貳ケ月目ノ末日トス(市日月ノ二十五日以後ナルトキハ更ニ一ケ月ヲ延ブ)

翌月末日

其月末日(特約アルトキハ此限ニアラズ)

賣ノ特色

ノ市賣ハ荷主立會シテ仲買同樣入札ノ際元札ヲ入ナレバ荷主ノ見込直段ニ達セザルトキ賣却ヲ見合ハ荷主ノ隨意ナリ故ニ一度市賣ニ付シタリトモ氣ルトキハ進退ヲ決シ更ニ時機ニ投シ賣却シ得ルノ

ノ委託品ニシテ荷主立會セザルモノハ當會社ハ荷現品ニ就キテ詳細下見評價ノ上元札ヲ入ル、モノ指直ノ有無ニ拘ハラズ濫ニ成行ニ任セテ放賣スルサズカメテ親切ニ荷主ノ利益ヲ保護スベシ

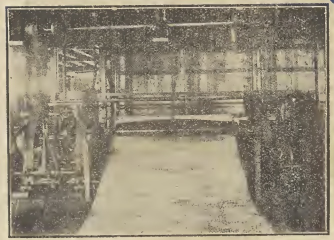
大正四年十月十七日

直段表

樹種		一平方尺ニ付
楢	ナラ	拾五錢以上各種
栓	セン	拾五錢以上各種
黄蘗	キハダ	拾五錢以上各種
梻	タモ	拾錢以上各種
楓	カエデ	貳拾錢以上各種
栃	トチ	拾八錢以上各種
椈	ブナ	拾貳錢以上各種
胡桃	クルミ	拾五錢以上各種
櫻	サクラ	貳拾錢以上各種
樺	カバ	拾五錢以上各種
榛	ハンノキ	拾五錢以上各種
榀	シナ	拾貳錢以上各種
桂	カツラ	拾五錢以上各種
朴	ホウ	拾五錢以上各種
楢柾	ナラマサ	參拾錢以上各種
欅	ケヤキ	貳拾五錢以上各種
槐	エンジュ	貳拾五錢以上各種
檜	ヒノキ	貳拾五錢以上各種
松	マツ	貳拾錢以上各種
栂	ツガ	貳拾錢以上各種
杉	スギ	貳拾五錢以上各種
桐	キリ	參拾錢以上各種
桑	クワ	五拾錢以上各種

●但シ鉋仕上ケハ毎一平方尺ニ付貳錢宛可申受候

淺野式合板剝機械



專賣特許 淺野式合板(一名ベニア板)説明

一材料 木ノ種類ハ如何ナルモノニテモ適用セラル現在多ク使用セラルヽハ概ネ左ノ如シ
楢、栓、黄蘗、梻、椈、楓、胡桃、櫻、樺、榛、榀、桂、朴、欅、槐、楢柾 檜、松、杉、桐、桑、其他唐木類

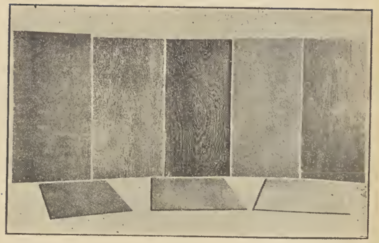
一製法 久敷水中ニテ木汁拔キシタル木材ヲ蒸溜ニテ蒸シ之レヲ薄ク剝取再ビ蒸溜ニテ乾燥セシメ充分收縮セシメタル後特種ノ藥品ヲ以テ縦横ニ二枚或ハ數枚密着セシメタルモノナリ

一用途 一、和洋建築材料幷ニ裝飾用
二、家具類一式
三、船舶、車輛、飛行機、自動車材料幷ニ裝飾用
四、漆器素地幷ニ象嵌細工用
五、彎曲細工幷ニ荷造外箱用

一特長
一、木材ノ外圍ヨリ周縁ノ方向ヘ剝キ取リタルモノナルカ故ニ巾廣キ大形ノモノヲ一枚板トシテ提供スルヿヲ得
二、外觀美麗ニシテ板全面ノ色彩ヲ全フシ殊ニ鳥目杢、渦卷杢、玉杢、笹杢、砂子杢等其他優艶奇拔ナル杢目ヲ現ハス
三、新發見ノ混合藥ニテ縦横ニ練合セタルヲ以テ普通板材ニ比シ數倍ノ負擔耐久力ヲ有シ毫モ剝離割裂スルヿナシ殊ニ釘付木捻等便利ナリ
四、木性ノ狂歪ヲ乾燥矯正シアルヲ以テ伸縮割裂ノ虞更ニナシ
五、密着ノ際殺菌藥ヲ混加シアルヲ以テ虐蝕ノ憂ナシ
六、加工簡單ニシテ就中彎曲象嵌細工等尤モ美術的ニ製作シ得ル
七、製造中數回ノ蒸溜高熱ヲ浸透シアルヲ以テ極メテ衞生ニ適ス
八、從來無價物視セラレタル雜木ヲ利用スルヲ以テ製品ノ價格亦從ツテ低廉ナリ

淺野式合板應用製作品

淺野式合板見本



一主ナル製品
一、天井板、鏡天井板、壁張板、腰張板、寄セ木張、襖戸・欄間、衝立、敷込、床板、椽板、違棚板、建具類
二、簞笥、机、書棚、デスク、掛書棚、隅棚、丸卓子、椅子、紅茶卓、長椅子、花臺、帽子臺、鏡臺、火鉢臺
三、船舶、車輛ニシテハ天井、床板、凭板等其他重量ノ負擔ヲ減シ堅固ヲ尙フ箇所
四、漆器ノ素地用其他象嵌細工トシテ額面、額椽、器具類其他裝飾用
五、彎曲用トシテハ火鉢、桶類又荷造用トシテハ二等品ニテ茶箱、護謨函、包裝箱等其他抽手裏板横板等枚擧ニ遑アラス

賜宮內省御買上光榮

授賞鑑

金牌	東京大正博覽會
金牌	京都戰捷記念博覽會
一等賞金盃	第一回第二回木製品競技會
名譽金牌	國產奬勵品評會
名譽金賞牌	日獨戰捷記念全國特產品博覽會
名譽賞金牌	大阪第七回日本產業博覽會
名譽賞金牌	大阪衞生大博覽會
名譽大賞牌	大典記念全國特產品共進會
名譽賞牌	米國桑港萬國大博覽會

淺野式合板應用室內

大正十年十月十七日 愛知縣山林會記念帖

國幣中社 眞清田神社 （尾張一宮）

直段表

樹種		一平方尺ニ付
楢	ナラ	拾五錢以上各種
栓	セン	拾五錢以上各種
黄蘗	キハダ	拾五錢以上各種
梻	タモ	拾錢以上各種
楓	カエデ	貳拾錢以上各種
栃	トチ	拾八錢以上各種
椈	ブナ	拾貳錢以上各種
胡桃	クルミ	拾五錢以上各種
櫻	サクラ	貳拾錢以上各種
樺	カバ	拾五錢以上各種
榛	ハンノキ	拾五錢以上各種
榀	シナ	拾貳錢以上各種
桂	カツラ	拾五錢以上各種
朴	ホウ	拾五錢以上各種
楢柾	ナラマサ	參拾錢以上各種
欅	ケヤキ	貳拾五錢以上各種
槐	エンジユ	貳拾五錢以上各種
檜	ヒノキ	貳拾五錢以上各種
松	マツ	貳拾錢以上各種
栂	ツガ	貳拾錢以上各種
杉	スギ	貳拾五錢以上各種
桐	キリ	參拾錢以上各種
桑	クワ	五拾錢以上各種

●但シ鉋仕上ケハ毎一平方尺ニ付貳錢宛可申受候

直段表

樹種		一平方尺ニ付
楢	ナラ	拾五錢以上各種
栓	セン	拾五錢以上各種
黄蘗	キハダ	拾五錢以上各種
梻	タモ	拾錢以上各種
楓	カエデ	貳拾錢以上各種
栃	トチ	拾八錢以上各種
椈	ブナ	拾貳錢以上各種
胡桃	クルミ	拾五錢以上各種
櫻	サクラ	貳拾錢以上各種
樺	カバ	拾五錢以上各種
榛	ハンノキ	拾五錢以上各種
榀	シナ	拾貳錢以上各種
桂	カツラ	拾五錢以上各種
朴	ホウ	拾五錢以上各種
楢柾	ナラマサ	參拾錢以上各種
欅	ケヤキ	貳拾五錢以上各種
槐	エンジユ	貳拾五錢以上各種
檜	ヒノキ	貳拾五錢以上各種
松	マツ	貳拾錢以上各種
栂	ツガ	貳拾錢以上各種
杉	スギ	貳拾五錢以上各種
桐	キリ	參拾錢以上各種
桑	クワ	五拾錢以上各種

●但シ鉋仕上ケハ毎一平方尺ニ付貳錢宛可申受候

（但シ原料價格ノ變動ニ因リ多少ノ相違ヲ生スルヿ可有之候）

右ノ内近來賣行宜敷ハ楢、梻、楓、栃、樺、榀、杉、松、檜、桐等ニ有之候

右直段表ノ品質ハ左記ノ通リニ候

一、品位　普通品ニシテ杢目、色合等御指定ナキモノ

一、厚　三枚張リニシテ出來上リ一分五厘（十六分ノ三吋）

一、寸法　巾三尺以下、長六尺以下

一、表板片面使用ノモノ、裏板ハ二等品以下

御使用向ニヨリ特別御注文ノ節ハ凡ソ左記ノ通リ割増相願候

一、揃物ニテ特別吟味ヲ要スルモノハ一割以上

一、三枚張ニシテ厚サ一分五厘以上トナル片ハ中板ノ厚サ五厘（十六分ノ一吋）ヲ増ス毎ニ一平方尺ニ付壹錢増

一、三枚張ニシテ厚サ三分（八分ノ三吋）以上ノ厚物又ハ特ニ耐力強度ヲ増ス爲メ三枚張以上ノモノハ二枚増ス毎ニ一平方尺ニ付金五錢増

一、巾三尺以上長サ六尺以上ノモノハ巾四尺迄五割増

一、兩面用ニシテ品質御指定ノ節ハ五割増

右ノ外特別御注文ノ節ハ精々廉價ニ御相談可致候

御取引ハ總テ現金トシ毎一平方尺ニ付計算シ割引割戻等ハ一切不仕候

愛知縣山林會通信カード

大正十年十月十五日 愛知縣山林會記念帖

直段表

樹種		一平方尺ニ付
楢	ナラ	拾五錢以上各種
栓	セン	拾五錢以上各種
黄蘗	キハダ	拾五錢以上各種
梻	タモ	拾錢以上各種
楓	カエデ	貳拾錢以上各種
栃	トチ	拾八錢以上各種
椈	ブナ	拾貳錢以上各種
胡桃	クルミ	拾五錢以上各種
櫻	サクラ	貳拾錢以上各種
樺	カバ	拾五錢以上各種
榛	ハンノキ	拾五錢以上各種
榀	シナ	拾貳錢以上各種
桂	カツラ	拾五錢以上各種
朴	ホウ	拾五錢以上各種
楢柾	ナラマサ	參拾錢以上各種
欅	ケヤキ	貳拾五錢以上各種
槐	エンジユ	貳拾五錢以上各種
檜	ヒノキ	貳拾五錢以上各種
松	マツ	貳拾錢以上各種
栂	ツガ	貳拾錢以上各種
杉	スギ	貳拾五錢以上各種
桐	キリ	參拾錢以上各種
桑	クワ	五拾錢以上各種

●但シ鉋仕上ケハ毎一平方尺ニ付貳錢宛可申受候

直段表

樹種		一平方尺ニ付
楢	ナラ	拾五錢以上各種
栓	セン	拾五錢以上各種
黄蘗	キハダ	拾五錢以上各種
梻	タモ	拾錢以上各種
楓	カエデ	貳拾錢以上各種
栃	トチ	拾八錢以上各種
椈	ブナ	拾貳錢以上各種
胡桃	クルミ	拾五錢以上各種
櫻	サクラ	貳拾錢以上各種
樺	カバ	拾五錢以上各種
榛	ハンノキ	拾五錢以上各種
榀	シナ	拾貳錢以上各種
桂	カツラ	拾五錢以上各種
朴	ホウ	拾五錢以上各種
楢柾	ナラマサ	參拾錢以上各種
欅	ケヤキ	貳拾五錢以上各種
槐	エンジユ	貳拾五錢以上各種
檜	ヒノキ	貳拾五錢以上各種
松	マツ	貳拾錢以上各種
栂	ツガ	貳拾錢以上各種
杉	スギ	貳拾五錢以上各種
桐	キリ	參拾錢以上各種
桑	クワ	五拾錢以上各種

●但シ鉋仕上ケハ毎一平方尺ニ付貳錢宛可申受候

（但シ原料價格ノ變動ニ因リ多少ノ相違ヲ生

右ノ内近來賣行宜敷ハ楢、梻、楓、栃、樺、榀、杉、松、檜、桐等ニ有之候

右直段表ノ品質ハ左記ノ通リニ候

一、品位　普通品ニシテ杢目、色合等御指定ナキモノ

一、厚　三枚張リニシテ出來上リ一分五厘（十六分ノ三吋）

一、寸法　巾三尺以下、長六尺以下

一、表板片面使用ノモノ、裏板ハ二等品以下

御使用向ニヨリ特別御注文ノ節ハ凡ソ左記ノ通リ割増相願候

一、撰物ニテ特別吟味ヲ要スルモノハ一割以上

一、三枚張ニシテ厚サ一分五厘以上トナル片ハ中板ノ厚サ五厘（十六分ノ一吋）ヲ増ス毎ニ一平方尺ニ付壹錢増

一、三枚張ニシテ厚サ三分（八分ノ三吋）以上ニ…

中島郡一宮町　公會堂　（山林會總會々場）

日本材木業聯合協會會則

愛知縣愛知郡八幡村大字西古渡字中島五八番地
（名古屋市山王橋電車停留所前）

但任期ヲ定メテ本會ノ推薦ニ依ル

第十三條　副會長ハ必要ノ場合ニ於テ會長ノ代理ヲナスモノトス
但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル

第十四條　本部（常務）幹事ハ常ニ會長ヲ補佐シ會計其他ノ事務ヲ分擔ス
支部幹事ハ各支部ニ一名乃至二名ヲ置ク
但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル

第十五條　評議員ハ會務ヲ議定ス
但任期ヲ二年トシ各支部ニ於テ其會員中ヨリ十名ニ付一名ノ割合ヲ以テ選擧ス

第十六條　幹事ハ必要ノ場合ニ於テ書記ヲ置キ相當ノ報酬ヲ支給スルコトアルベシ

第四章　集會

額田郡男川村荒廢地復舊工事施行地アカシアノ繁茂

愛知縣有造林　（東加茂郡賀茂村）

砂防工事實施中ノ光景　（愛知郡幡山村）

名古屋市堀川木材市場

小樽支
河村
秋田支
井坂
相澤
愛媛支
赤林
大阪支
北村
靜岡支
澤內
奈良支
中畑
羽根
和歌山支
坪井
小倉
京都支
兒玉
三重支
角田
兵庫支
喜多

日本材木業聯合協會會則

愛知縣愛知郡八幡村大字西古渡字中島五八番地
（名古屋市山王橋電車停留所前）
日本材木業聯合協會本部

但任期ヲ定メス本會ノ推薦ニ依ル

第十三條　副會長ハ必要ノ場合ニ於テ會長ノ代理ヲナスモノトス
但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル

第十四條　本部（常務）幹事ハ常ニ會長ヲ補佐シ會計其他ノ事務ヲ分擔ス
支部幹事ハ各支部ニ一名乃至二名ヲ置ク
但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル

第十五條　評議員ハ會務ヲ議定ス
但任期ヲ二年トシ各支部ニ於テ其會員中ヨリ十名ニ付一名ノ割合ヲ以テ選擧ス

第十六條　幹事ハ必要ノ場合ニ於テ書記ヲ置キ相當ノ報酬ヲ支給スルコトアルベシ

第四章　集會

ホフマン氏設計ノ砂防工石堰堤

愛知縣有苗圃（南設樂郡新城町）

砂防工事實施中ノ光景（愛知郡幡山村）

名古屋市堀川木材市場

定の旨及び斯
ものなれば左
らしむべく努
川副會長に依
べきや否や熟
り

協會靜岡縣支部
興ニ鐵道各管理局

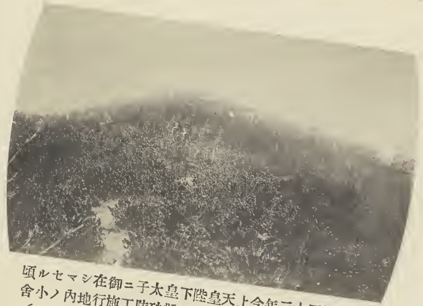
他ノ貨物トハ其性
大ニ異ナル處アリ
モノトス殊ニ近年
非常ノ苦境ニ陥
鐵道木材運賃ハ
タルノミナラス
業ノ隆替ニモ關ス
回日本材木業聯
願ノ決議アリシモ
機ニアラサルヲ以
ニ至リシモノトス
議ニ因リ全國各支
チ管轄スル鐵道
書提出ヲ爲サント

協會愛知縣支部
積算出法ノ石數計

御拂下材材積ヲ算
年來ノ習慣タル
ラレタルヲ以テ

名古屋市堀川木材市場

ホフマン氏設計ノ砂防工石堰堤



明治四十三年今上天皇陛下皇太子ニ御在マシセル頃
御立寄リアラセラレタル本縣砂防工施行地内ノ小舎
（全部砂防設備ノタメ植栽繁茂セルヲ萩以テ作ル）

日本材木業聯合協會會則

愛知縣愛知郡八幡村大字西古渡字中島五八番地
（名古屋市山王橋電車停留所前）

日本材木業聯合協會

小樽支
河村
秋田支
井坂
相澤
愛媛支
赤林
大阪支
北村
靜岡支
澤内
奈良支
中畑
羽根
和歌山支
坪井
小倉
京都支
兒玉
三重支
角田
兵庫支
喜多

但任期ヲ定メス本會ノ推薦ニ依ル

第十三條　副會長ハ必要ノ場合ニ於テ會長ノ代理ヲナスモノトス

但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル

第十四條　本部（常務）幹事ハ常ニ會長ヲ補佐シ會計其他ノ事務ヲ分擔ス

支部幹事ハ各支部ニ一名乃至二名ヲ置ク

但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル

第十五條　評議員ハ會務ヲ議定ス

但任期ヲ二年トシ各支部ニ於テ其會員中ヨリ十名ニ付一名ノ割合ヲ以テ選擧ス

第十六條　幹事ハ必要ノ場合ニ於テ書記ヲ置キ相當ノ報酬ヲ支給スルコトアルベシ

第四章　集會

定の旨及び斯
ものなれば左
らしむべく努
川副會長に依
べきや否や熟
り

協會靜岡縣支部
並ニ鐵道各管理局

他ノ貨物トハ其性
大ニ異ナル處アリ
モノトス殊ニ近年
ノ非常ノ苦境ニ陷
ノ鐵道木材運賃ハ
タルノミナラス
業ノ隆替ニモ關ス
回日本材木業聯
議ノ決議アリシモ
議ニアラサルヲ以
ニ至リシモノトス
議ニ因リ全國各支
ヲ管轄スル鐵道
書提出ヲ爲サント

協會愛知縣支部
積算出法ノ石數計
御拂下材材積ヲ算
百年來ノ習慣タル
ラレタルヲ以テ

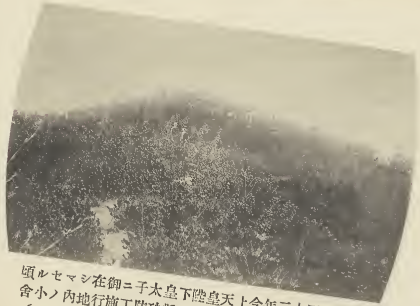
第十三條　副會長ハ必要ノ場合ニ於テ會長ノ代理ヲナスモノトス
但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル
第十四條　本部(常務)幹事ハ常ニ會長ヲ補佐シ會計其他ノ事務ヲ分擔ス
支部幹事ハ各支部ニ一名乃至二名ヲ置ク
但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル
第十五條　評議員ハ會務ヲ議定ス
但任期ヲ二年トシ各支部ニ於テ其會員中ヨリ十名ニ付一名ノ割合ヲ以テ選擧ス
第十六條　幹事ハ必要ノ場合ニ於テ書記ヲ置キ相當ノ報酬ヲ支給スルコトアルベシ

第四章　集會

日本材木業聯合協會會則

愛知縣愛知郡八幡村大字西古渡字中島五八番地
（名古屋市山王橋電車停留所前）

ホフマン式設計ノ砂防工石堰堤


明治四十三年今上天皇陛下皇太子ニ御在シマセル頃
御立寄リアラセラレタル本縣砂防工施行地内ノ小舎
（全部砂防設備ノタメ植栽繁茂セル萩ヲ以テ作ル）

本縣知事ノ北設樂郡有林鶚山視察ノ景

額田郡男川村

愛知縣

砂防工

名古屋市堀川材木市場

日本材木業聯合協會會則

第一章　總　則

第一條　本會ハ日本材木業聯合協會ト稱ス

第二條　本會ハ日本全國材木業者ヲ以テ組織ス

第三條　本會ハ本部ヲ名古屋ニ設置シ各府縣ニ支部ヲ置ク

第四條　本會ハ日本全國材木業ノ改善統一ヲ期シ協心戮力斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第五條　本會ハ目的ヲ達スルノ方法トシテ左ノ條項ノ實行ヲ期ス

集會ヲ開キテ斯業上ノ問題ヲ討究シ必要ノ場合ニハ本會ノ意見トシテ當事者ニ建議スルコト

本會々員タルト否トヲ問ハズ本會ニ利益アリト認ムルトキハ特ニ招請シテ其意見ヲ聽キ或ハ講演ヲ求ムルコト

本會ノ基礎ヲ鞏固ニスル爲メ會員ノ入會金及寄附金ヲ以テ基本財産ト爲スコト

但金額參萬圓ヲ以テ目的トス

本會ノ機關トシテ會報ヲ發行スルコト

第二章　會　員

第六條　本會々員ヲ分テ名譽會員特別會員及正會員トス

學識名望ヲ有シ本會ノ主旨ヲ賛同セラル、モノニシテ特ニ本會ノ推薦ニ依ルモノヲ名譽會員トス

本會ニ入會金拾圓以上ヲ納ムルモノヲ特別會員トシ金貳圓以上ヲ納ムルモノヲ正會員トス

第七條　特別會員又ハ正會員タラント欲スル者ハ住所氏名ヲ記シ其旨本會ニ申込ミ承諾ヲ受クベシ

第八條　會員ニハ入會ノ際入會金ヲ納ムルト同時ニ會員章ヲ交付ス

本會ニ功勞アルモノ又ハ本會ヘ金五拾圓以上ヲ納ムルモノニハ有功章ヲ贈與ス

第九條　退會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申出同時ニ會員章ヲ返還スベシ

但既納ノ入會金ハ返付セズ

第十條　會員ニシテ本會ノ體面ヲ瀆ス者アルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルベシ

但既納ノ入會金ハ返付セズ

第三章　役　員

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名	副會長　一名
本部(常務)幹事　五名乃至七名	評議員　會員十名ニ付一名
支部幹事　若干名	

第十二條　會長ハ一切ノ會務ヲ總理ス

但任期ヲ定メズ本會ノ推薦ニ依ル

第十三條　副會長ハ必要ノ場合ニ於テ會長ノ代理ヲナスモノトス

但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル

第十四條　本部(常務)幹事ハ常ニ會長ヲ補佐シ會計其他ノ事務ヲ分擔ス

支部幹事ハ各支部ニ一名乃至二名ヲ置ク

但任期ヲ三年トシ會長ノ指名ニ依ル

第十五條　評議員ハ會務ヲ議定ス

但任期ヲ二年トシ各支部ニ於テ其會員中ヨリ十名ニ付一名ノ割合ヲ以テ選擧ス

第十六條　幹事ハ必要ノ場合ニ於テ書記ヲ置キ相當ノ報酬ヲ支給スルコトアルベシ

第四章　集　會

但必要ノ場合ニハ臨時發行スルコトアルベシ
第二十二條　會報ハ會員外ト雖モ會長又ハ幹事ノ見込ミニ依リ寄贈スルコトアルベシ

第十七條　集會ヲ分テ通常總會臨時總會幹事會及評議員會トス
通常總會ハ毎年一回各支部ニ於テ順次之ヲ開キ前年ノ會計其他會務ニ係ル事項ヲ報告シ本會將來ノ企畫ヲ議定ス
臨時總會ハ重要ニシテ緊急ナル事件アルトキニ開設ス
幹事會及評議員會ハ必要ノ場合ニ於テ隨時之ヲ開ク
第十八條　總會ノ場所及日時ハ其都度會員ニ通知スベシ

第五章　會費

第十九條　本會ノ經費ハ基本財産ノ利金ヲ以テ支辨シ尚必要ノ場合ニハ各支部ヨリ臨時徵收スルコトアルベシ

第六章　會報

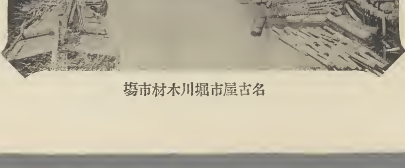
第二十條　斯業ニ關スル有益ナル記事及本會ニ關スル重要ナル事項ヲ登載シテ日本材木業聯合協會々報ト稱シ會員ニ頒布ス
第二十一條　會報ハ年一回發行スルモノトス
但必要ノ場合ニハ臨時發行スルコトアルベシ
第二十二條　會報ハ會員外ト雖モ會長又ハ幹事ノ見込ミニ依リ寄贈スルコトアルベシ

第七章　會計

第二十三條　收支ノ決行ハ本部(常務)幹事之ヲ爲ス
第二十四條　支部ノ經費ハ各支部ニ於テ負擔スルモノトス
第二十五條　經費ノ剩餘金アルトキハ基本財産中ヘ組入ル丶モノトス

第八章　雜則

第二十六條　金圓物品等ヲ本會ニ寄贈アリタルトキハ受領證ヲ發シ之ヲ帳簿ニ登載シ永ク其厚意ヲ銘記スルモノトス
第二十七條　總會ニハ木材ノ標本其他有益ノ物品圖書等ヲ展列シテ會員ノ參考ニ供シ又ハ公衆ニ示スコトアルベシ
第二十八條　本會ノ事務ハ渾テ本部ニ於テ取扱フモノトス
第二十九條　各支部ハ其部內ニ於ケル斯業ノ狀況及木材產出年額ノ統計ヲ調査シ毎年二月本部ヘ報告スルモノトス
第三十條　支部ニ關スル特別ノ規定ハ會長ノ認許ヲ受クベシ
第三十一條　本則ヲ施行スルニ必要ナル細則ハ會長之ヲ定ム
第三十二條　本則ハ評議員二分ノ一以上出席アル評議員會ノ決議ヲ經ルニアラザレバ變



名古屋市堀川木材市場

第十八回日本材木業聯合大會

府縣委員會の概況

第十八回日本材木業聯合大會に於ては豫定の如く府縣委員會を昨四日午後五時より市內東陽町東陽館に於て開催したるが定刻に至れば會長を始めとして各府縣の委員續々として來會せられ左の四十有餘名に及べり

小樽支部
河村正雄　岡田省吾　村林巳之助
秋田支部
井坂直幹　畠山小文治　下村助次郎
相澤治一郎
愛媛支部
赤林松太郎　杉森政吉
大阪支部
北村正次郎　篠崎髓三郎
靜岡支部
澤內宗次郎　天野廉　石龜文七
奈良支部
中畑愼一郎　前田利雄　福田榮一郎
羽根增次郎　土居平次
和歌山支部
坪井半三郎　林近藏　中曾榮治
小倉勇助　小野田庄助
京都支部
兒玉武次郎
三重支部
角田彌五郎　山下四郎治　松田幸吉
兵庫支部
喜多嘉七　入江孝治郎　葛野友槌
岐阜支部
長谷川金左衛門　前島秀雄　山口三吉
東京支部
笠原小十郎　大澤伊之助
愛知支部
鈴木鈴四郎　鈴木虎之助　杉山安次郎
大鹿梅三郎　大口勝治郎
會長　田中芳男　副會長　長谷川糾七
準備副委員長　山岸清太郎　協會幹事　長谷川武七
協會幹事　服部小十郎　仝　吉村喜兵衛
仝　杉山安次郎

聽て席定まるや聯合協會副會長長谷川糾七氏座長席に就き多數來會者に對する謝辭を述べたる後今夕本會準備委員長鈴木摠兵衛氏出席の筈なりしも曩に已むを得ざる所用ありて上京し先刻漸くにして歸名せられたるも疲勞の爲め缺席せらるゝの旨を謝し次いで本十八回大會が昨年來德島、靜岡、京都等各支部所在地方に照會したるも不幸開會の運びに至らざりしが折々會長よりの勸告等もありて其の御厚意もだすべくもあらず且商況不振なれば不振なる程斯業振興上大會の開催は一層必要なることを認め遂に當市に於て開會のことゝなりたるが今回は極めて質素を旨となしたれば萬事不行屆の段は宜敷御諒恕ありたし云々と述べ夫れより會長田中芳男氏は徐ろに老軀を起して多數會員の來會に對する滿足の旨及び斯る會合は單に形式的に流れ易きものなれば左る弊に陷ることなく有終の美あらしむべく努力せられたき由を述べ再び長谷川副會長に依りて明日左の議案を議事に付すべきや否や熟議攻究せられたき旨宣せられたり

第一號議案
提出者　日本材木業聯合協會靜岡縣支部
一全國鐵道木材運賃低減ノ儀ニ付鐵道院竝ニ鐵道各管理局ニ對シ請願スルコト
(理由)木材ハ重量粗大ノ物件ニシテ他ノ貨物トハ其性質ニ於テモ亦其價格ニ於テモ大ニ異ナル處アリテ運賃負擔力ノ最モ薄弱ナルモノトス殊ニ近年材木業ノ不振ニ因リ其當業者ハ非常ノ苦境ニ陷リ一層悲慘ヲ極ムル現時ニ於テ鐵道木材運賃ハ此處數年來屢々運賃增率ヲ行ヒタルノミナラス今日尙ホ增率ノ傾向アルハ斯業ノ隆替ニモ關スヘキ一大事タリトス既ニ第十七回日本材木業聯合大會ニ於テ本件ニ關スル請願ノ決議アリシモ其實行ニ付今ヤ猶豫スヘキ時機ニアラサルヲ以テ茲ニ更ニ本案ノ建議ヲ爲スニ至リシモノトス而シテ請願ノ方法ハ大會ノ決議ニ因リ全國各支部ニ於テ其地方ノ實狀ヲ具シ之ヲ管轄スル鐵道管理局竝ニ鐵道院ニ對シテ願書提出ヲ爲サントスルニ在リトス

第二號議案
提出者　日本材木業聯合協會愛知縣支部
一帝室林野管理局及政府ニ於ケル木材材積算出法ノ石數計算ヲ廢シ尺締計算ニ復舊方請願ノ件
(理由)帝室林野管理局及政府ニ於テ御拂下材材積ヲ算出スルニ當リ大正三年以來數百年來ノ習慣タル尺締法ヲ廢シテ石數計算法トセラレタルヲ以テ

取引上從來ニ比シ甚タ不便且種々ノ支障ヲ來シ加フルニ檢尺箇所ニ於テ妥當ヲ缺ケルノ點アルヲ以テ速カニ石數計算法ヲ廢シ尺締計算法ニ復舊セラレンコトヲ切望スルニアリ

第三號議案

一水難救護法中改正ノ件

提出者　日本材木業聯合協會愛知縣支部
　　　　日本材木業聯合協會三重縣支部

（理由）海上風波又ハ河川洪水ノ爲メニ漂流セシ材木ニ就テハ明治三十二年法律第九十五號水難救護法ニ據リ沿岸地方ニテ拾得シタル漂流木材ハ到着シタル地ノ町村役場カ取扱フヘキ規定ナルカ其實際ハ遭難ノ木材所有者ノ不便不利多クシテ往々非常ノ損害ヲ蒙ムルコトアリ依テ之レカ取扱ヲ警察署ニ移シ以テ遭難者保護ノ實ヲ擧ケラレンコトヲ切望シ數年前ヨリ本大會決議ニ基キ貴衆兩院ヘ改正請願書ヲ提出シタルモ政府ニ於テ未タ實行ナキヲ以テ其實行ヲ見ンコトヲ希望スルニアリ

右議案に對しては座長の注意に依り夫々提出支部より記載理由に對する詳細の具體的說明ありたる後採否の討議に入りたるが第一號議案に對しては座長先づ甚だ尤もなる提案なれば明日の議事に付する事としては如何と述べ滿場異議なく可決したるが第二號議案に對しては秋田縣の井坂氏先づ尺〆算出法を廢して石數計算法に統一の議は十六回大會の際既に可決され居るを以て今更ら又これを復舊するの不可なる旨を述べ本案の撤回を要求せられたるも愛知支部より幷は可決にあらず單に宿題として殘り居れる旨を述べ東京、大阪、新宮等各支部の委員諸氏より種々贊否の諸說出で爲めに議席は一時騷然たるに至りしが結局本案を議事に付すべき事に一決し第三號議案直に亦附議すべき事となりたる際愛媛縣支部杉本氏より杣及木挽職に對する職業稅として縣稅附加廢止の件なる新議案提出あり口頭を以つて縷々說明ありたるが是亦第四號議案として付議の事となり座長は同支部委員に於て書類作成の上本部に提出せられたき旨及びこれにて今夕の議事は終末を告げたればたゞ空腹を凌がるゝ程度の粗酒粗肴なれど召上られたしとて女中の配膳と共に滿場の拍手喝采裡自己の席に復し夫れより獻酬の酒盃座中を廻り或は久濶を叙する者或は商況を談ずるもの等賑やかにも亦和氣融々たる宴は開かれ十時を過ぐる頃無事散會出席員諸氏は各定めの旅館に取引られたり

聯合大會　委員會覗き　　幽谷生

昨夜東陽館で本會の各府縣委員の打合せ會が開かれた▲開會前の玄關受付は準備委員の面々殊に少壯者のお顏揃ひで追大に賑ふ▲來會者は秋田縣の畠山小文治氏を先登にして追ひ〳〵に馳せ參ずるが肝腎の長谷川白髭翁は姿を見せない▲どういふ譯かと委員は氣を揉んで居る處へ巨軀を現はし電車故障の爲めに遲刻したと斷はると▲誰やら透かさず脫線の箇所は門前町七ツ寺附近であつたでせうと彌次る翁は苦笑默して答へなかつた▲暫くして吉村さんお宅から電話でございますト女中が取り次ぐ吉村君電話口にかゝることと約三十分間▲豫て家庭圓滿を以て名高き吉村君の事だから定めし奧方との御對話綿々の情緒罄き難きものがあつたらうと鈴木鈴四郎氏が揶揄する▲程なく鈴木鈴四郎氏何用あつてか宅へ電話して席に復するを吉村氏仇を報ずるは此時と鈴四郎氏に向ひ▲妻から呼ばれて電話へ出る僕よりも妻君の電話しないのに自ら進んで妻君へ電話する君は僕以上の家庭圓滿家だ……は髄に御面一本の價値あると一同笑ひ興ずる▲時移るも委員は未だ揃はぬ御退屈凌ぎにもと御菓子を運ぶ▲オイ我々もまだ脈が通つて居るよコチラへも菓子を出してはどうだト女中に催促するのが例の健胃家鈴木虎之助氏▲運び來た煎餅一盆口にこそ言はね一同健胃家に同意と見えて眼たゝく間に平らげ盡された▲會長閣下の御來臨の聲に一同玄關に出で迎へ大廣間の正座へ導き申上げ尋て一同着席した總員約五十名實に綺羅星の如くであつた▲聽て長谷川糾七翁は場の中央に進み出で準備委員長差支へ代つて挨拶する事から說き起し縷々數千萬言細を極め微に入り頗る鄭重を極めた挨拶振りは到底他人の企て及ぶべきでない▲此間會長閣下にはコクリ〳〵華胥の國へ幾往復せられた程だから其長さは大凡察し得られる▲議案整理の會議に入り第一號鐵道運賃輕減に關する件は提出者靜岡縣の澤内君頭に唾しつゝ熱心な說明眉唾でなく頭唾だけに一同傾聽直に滿場一致可決した▲次に愛知支部提出の石數算出法を廢し尺〆計算に復舊の件に入る▲秋田縣井阪氏は尺〆法を廢し石數計算に改正すべく去る第十六回大會に秋田縣より提出し滿場一致を以て可決確定せるを今爰に全然矛盾の事を議するは本會の威信に關する違法なりと反對する▲鈴木虎之助氏は左樣の決議ありたる事なし確かに宿題として研究する事となり居る筈なり如何と井坂君に抗する▲井坂氏はア、ソウでしたか子ーと主張の强かりしと同時に擢け方も亦速かで結局本會の議に上ぼすことになつた▲最後の水難救護法改正の件は幾度も〳〵繰り返へされる宿題で說明も討論も用ゐず直に可決して本會は終りを告げた▲續て晚餐の饗應があつたが設備は全く空腹凌ぎの食膳のみで而かも御手酌脂粉の香は毫も無い土地柄商賣柄近頃珍らしい神聖なる會合であつた▲まだ書くべき事は澤山だが一先これで筆を擱くことにしよう左樣なら！

第十八回日本材木業聯合大會議案

第一號議案

一全國鐵道木材運賃低減ノ儀ニ付鐵道院竝ニ鐵道各管理局ニ對シ請願スルコト

提出者　日本材木業聯合協會靜岡縣支部

〔理由〕木材ハ重量粗大ノ物件ニシテ他ノ貨物トハ其性質ニ於テモ亦其價格ニ於テモ大ニ異ナル處アリテ運賃負擔力ノ最モ薄弱ナルモノトス殊ニ近年材木業ノ不振ニ因リ其當業者ハ非常ノ苦境ニ陷リ一層悲慘ヲ極ムル現時ニ於テ鐵道木材運賃ハ此處數年來屢々運賃增率ヲ行ヒタルノミナラス今日尙ホ增率ノ傾向アルハ斯業ノ隆替ニモ關スベキ一大事タリトス既ニ第十七回日本材木業聯合大會ニ於テ本件ニ關スル請願ノ決議アリシモ其實行ニ付今ヤ猶豫スベキ時機ニアラサルヲ以テ茲ニ更ニ本案ノ建議ヲ爲スニ至リシモノトス而シテ請願ノ方法ハ大會ノ決議ニ因リ全國各支部ニ於テ其地方ノ實狀ヲ具シ之ヲ管轄スル鐵道管理局竝ニ鐵道院ニ對シテ願書提出ヲ爲サントスルニ在リトス

第二號議案

一帝室林野管理局及政府ニ於ケル木材材積算出法ノ石數計算ヲ廢シ尺締計算ニ復舊方請願ノ件

提出者　日本材木業聯合協會愛知縣支部

第三條　各部ノ事務ノ豫ノ起案ハ……
第四條　各部ニ於テ其部ニ係ル經費豫算ヲ編纂シ委員長ヲ經テ會計ニ廻付スルモノトス
第五條　他部ニ關聯スル事項ハ互ニ合議ヲナスコトヲ要ス

以上

取引上從來ニ比シ甚ダ不便且種々ノ支障ヲ來シ
加フルニ檢尺箇所ニ於テ妥當ヲ缺ケルノ點アル

で爲めに議席は一時騷然たるに至りしが結局
本案を議事に付すべき事に一決し第三號議案

〔理由〕帝室林野管理局及政府ニ於テ御拂下材材積ヲ算出スルニ當リ大正三年以來數百年來ノ習慣タル尺締法ヲ廢シテ石數計算法トセラレタルヲ以テ取引上從來ニ比シ甚ダ不便且種々ノ支障ヲ來シ加フルニ檢尺箇所ニ於テ妥當ヲ缺ケルノ點アルヲ以テ速カニ石數計算法ヲ廢シ尺締計算法ニ復舊セラレンコトヲ切望スルニアリ

第三號議案

提出者　日本材木業聯合協會愛知縣支部

一水難救護法中改正ノ件

〔理由〕海上風波又ハ河川洪水ノ爲メニ漂流セシ材木ニ就テハ明治三十二年法律第九十五號水難救護法ニ據リ沿岸地方ニテ拾得シタル漂流木材ハ到着シタル地ノ町村役場ガ取扱フベキ規定ナルガ其實際ハ遭難ノ木材所有者ノ不便不利多クシテ往々非常ノ損害ヲ蒙ムルコトアリ依テ之レガ取扱ヲ警察署ニ移シ以テ遭難者保護ノ實ヲ擧グラレンコトヲ切望シ數年前ヨリ本大會決議ニ基キ貴衆兩院ヘ改正請願書ヲ提出シタルモ政府ニ於テ未ダ實行ナキヲ以テ其實行ヲ見ンコトヲ希望スルニアリ

第四號議案

提出者　日本材木業聯合協會三重縣支部

一水難救護法中改正ノ件

〔理由〕第三號議案ノ理由ト同ジ

以　上

第十八回日本材木業聯合大會順序

◎第一日　十一月五日

△午前九時　愛知縣々會議事堂ニ於テ開會式擧行

一諸員着席　（第一振鈴）
一開　　會　（第二振鈴）
一準備委員長挨拶
一會長式辭
一有功章贈與
一來賓祝辭演説
一會員祝辭演説
一答　　辭

以　上

一講　　演

△正　午　晝食

△午後一時

一諸員着席　（振鈴）
一會務報告
一議　　事
一準備委員長挨拶
一閉　　會　（振鈴）

△午後五時　愛知縣商品陳列館第一會場ニ於テ懇親宴會開會

◎第二日　十一月六日七日各會社工場及貯木場視察

一名古屋木材株式會社　（堀川筋瓶屋橋西詰）
一山岸製材合資會社　（本店 中區水主町 / 支店 愛知郡八幡村）
一淺井製材合名會社　（南區千年）
一日本車輛製造株式會社　（南區熱田東町）
一熱田貯木場　（南區東築地）
一帝室林野管理局熱田出張所白鳥貯木場　（南區熱田白鳥）

以　上

取引上從來ニ比シ甚タ不便且種々ノ支障ヲ來シ
加フルニ檢尺箇所ニ於テ妥當ヲ缺クルノ點アル

〔理由〕帝室林野管理局及
ノ習慣タル尺締法
便且種々ノ支障ヲ
石數計算法ヲ廢シ

第三號議案

一水難救護法中改正ノ件
〔理由〕海上風波又ハ河川
水難救護法ニ據リ
扱フベキ規定ナル
ヲ蒙ムルコトアリ
コトヲ切望シ數年
府ニ於テ未ダ實行

以上

第四號議案

一水難救護法中改正ノ件
〔理由〕第三號議案ノ理由

本

で爲めに議席は一時騷然たるに至りしが結局

うと鈴木鈴四郎氏が揶揄する▲程なく鈴木鈴四郎氏何用あ

第拾八回日本材木業聯合大會順序概要

十一月四日 午後五時ヨリ各府縣委員會開會

十一月五日 午前八時ヨリ愛知縣々會議事堂ニ於テ大會開會式及有功章授與式ヲ行ヒ引續キ本會議開會

午後五時ヨリ懇親會開催（會場未定）

十一月六日 午前八時ヨリ名古屋市內重要ノ貯木場及製材工場並ニ築港巡視

以上

大會ニ關スル注意事項

一、大會ノ事務所

名古屋市山王橋電車停留場前

名古屋材木商同業組合事務所內

（電話三九〇二番）

二、各府縣支部（支部ナキ府縣ハ其一地方）ニ於テ五名以內ノ委員ヲ適宜御選定ノ上**十月十五日**迄ニ大會事務所へ御通報相成度候

三、議案提出ノ方ハ**十月二十日**迄ニ必ズ大會事務所へ御差出相成度候

但支部ノ設ケアル府縣ハ支部ニ於テ議題御取纏メノ上本文ノ期間ニ御提出相成度候

四、大會出席ノ有無ハ同封ノ**はがき**ニテ御通報煩度其申込期限ハ**十月三十一日**限リト相定メ候ニ付右期限ニ後レザル樣御申込被下度期限後御申込ノ向ハ乍遺憾御斷リ申上候場合モ可有之候間豫メ御承知被下度候

五、會費ハ第拾七回大會ニ於テ爾來ハ金五圓ト決議アリシモ現今ノ時情ニ鑑ミ今回ハ特ニ**金參圓**ト相定メ候ニ付前例ニ依リ**御出席ノ御申込ト同時**ニ大會事務所へ御拂込被下度候

六、會費ヲ受領シタルトキハ受領證ニ代ヘテ出席章票ヲ差上申ス可キニ付御出席ノ際ハ必ズ該章ヲ御携帶被下度候

以上

うと鈴木鈴四郎氏が揶揄する▲程なく鈴木鈴四郎氏何用あ
で爲めに議席は一時騒然たるに至りしが結局

取引上従來ニ比シ甚タ不便且種々ノ支障ヲ來シ
加フルニ検尺箇所ニ於テ妥當ヲ欠ケルノ點アレ

〔理由〕

第三號

一水難救

〔理由〕

第四號

一水難救

〔理由〕

第十八回日本材木業聯合大會準備委員事務分掌規程

第一條　委員中ヨリ委員長一名、副委員長一名ヲ選定ス委員長ハ委員ヲ代表シ一切ノ事務ヲ統理ス副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキハ之カ代理ヲ爲ス

第二條　事務處辨ノ爲メ理事長一名、理事若干名ヲ置キ左記ノ部署ヲ定メテ之ニ從事ス

庶　務　部

一、文書ノ立案發受
一、諸記錄ノ編纂
一、議事ニ關スル一切ノ事務
一、議場整理及受付ニ關スル事務
一、其他他部ニ屬セサル事務

會　計　部

一、金錢出納ニ關スル事項
一、經費ノ豫算及決算
一、寄附金ノ勸募

用　度　部

一、記念品ノ選定
一、物品購入賣却ニ關スル事項

會　場　部

一、議場宴會場及休憩所ノ設備
一、裝飾ニ關スル事項
一、宴會場受付ニ關スル事務

接　待　部

一、來賓及會員ノ送迎接待ニ關スル事項
一、旅宿ニ關スル事項
一、議場及宴會場ニ於ケル接待

第三條　各部ノ事務ハ豫メ起案ノ上委員長ノ決裁ヲ經テ執行スヘシ

第四條　各部ニ於テ其部ニ係ル經費豫算ヲ編纂シ委員長ヲ經テ會計ニ廻付スルモノトス

第五條　他部ニ關聯スル事項ハ互ニ合議ヲナスコトヲ要ス

以　上

取引上從來ニ比シ甚タ…
加フルニ檢尺箇所ニ於…

〔理由〕

第三號…

一水難救…

〔理由〕

第四號…

一水難救

〔理由〕

第十八回日本材木業聯合大會委員及理事氏名表

庶務部

委員長 鈴木摠兵衛

副委員長 山岸製材合資會社 山岸清太郎

理事長 名古屋木材株式會社 鈴木虎之助 秋田木材會社出張所 濱木屋合資會社

飛驒林業會社出張所 松田清七 伊藤源助

森田太兵衛 尾崎才市 阿知波重次郎

後藤榮太郎 香川用吉

會計部

理事長 服部小十郎 吉見德四郎 江口猪三郎

鬼頭清八 加藤金六 鹿島富三郎

枕木合資會社

用度部

理事長 長谷川武七 大鹿梅三郎 愛知木材株式會社 杉山安太郎

杉山安次郎 淺野吉次郎 吉野房次郎

竹內廣吉 相羽恒次郎

會場部

理事長 大口勝次郎 淺井製材合名會社 合資會社 牧茂商店

梅村太郎 半谷新助 野田常吉

橋本鉄三郎 大正組出張所 竹內錠太郎

永田音吉 夏目善太郎 森庄七

木谷又吉 服部清太郎 水口庄藏

淺井鉄次郎 淺井喜三郎 村上榮治

村瀨武兵衛 中井善兵衛 吉田馬太郎

渡邊鎌吉 水野增吉 今津鍵三郎

伊藤作次郎 岡田長作 小出平藏

百善出張所 今井喜太郎 北三合資會社 岩田助次郎

中越治郎吉

日本材木大會

日本材木業聯合協會第十八回大會は五日午前十時より愛知縣々會議事堂に於て開會さる、當日の出席會員二百八十四名の多數に及びたるが、先づ開會劈頭大會準備委員長鈴木摠兵衛氏開會の挨拶を述べ、續いて會長田中芳男氏の式辭ありたる後、同會特別の功勞者たる三井物產名古屋支店、淺井製材會社、大鹿梅三郎、今井佐一郎の四氏に有功章を贈與し、夫れより左記諸氏の祝辭朗讀及演說ありたり

▲來賓 岡本山林局長代理宮崎農商務省技師、松井愛知縣知事、阪本名古屋市長、田中帝室林野管理局名古屋支所長 ▲會員 小樽木材組合長、東京材木問屋組合長、大阪材木商組合長、吉野木材販賣組合長、神戶木材組合長、三重縣宮川材木組合長、材木業聯合協會愛知縣支部

右終つて準備副委員長山岸清太郎氏答辭を述べたる後、宮崎農商務省技師及三溝愛知縣技師は本邦に於ける木材の現況及前途に就て約一時間に亘る講話ありて午前中の大會を終れり、引續き午後一時開會長谷川副會長議長席に着き先づ聯合協會幹事鈴木虎之助氏より會務の報告を爲し夫れより大會議事に移る、其議案幷びに提出者は左の如し

(一)全國鐵道木材運賃低減の議に付鐵道院並に鐵道各管理局に對し請願する事(靜岡縣支部)

(二)帝室林野管理局及政府に於ける木材材積の石數計算方廢し尺締計算に復舊の請願の件(愛知縣支部)

(三)水難救護法中改正の件(愛知縣三重縣兩支部)

(四)柚及木挽職に對する職業稅としての縣稅賦課廢止の件(愛媛縣支部)

(五)筏稅全廢建議の件(靜岡縣支部)

前記議案に對し各提出者は書面若くば口頭を以て本案の提出理由を說明せり而して各號議案に對し一々討議する所ありしが、結局第一號議案は可決、提出者たる靜岡、奈良、小樽の三支部にて調査し、之を本部にて取纏め請願するに決し、第二號議案は贊否兩說にて議論紛々たるものありしかば、宿題として更に研究する事となり、第三號議案は請願書提出するに決定、第四號議案も滿場一致可決の上各支部に於て各府縣當局に向け請願書を提出するに決し、第五號議案も矢張原案を可決し、本部に於て政府及各府縣に請願書を提出せる上尙各支部にて極力運動する事に確定、三時半大會は無事終了せしが、引續き五時より愛知縣商品陳列館に於て懇親會を開催し、全國會員快談數刻に亘り八時過ぎ散會せり、尙六日は名古屋築港及日本車輛其他重なる製材工場を視察する豫定なりと

日本材木業聯合協會本部

〔理由〕取引上從來ニ比シ甚タ加フルニ検尺箇所ニ於

第三號議

一水難救

〔理由〕

第四號議

一水難救

〔理由〕

第十八回日本材木業聯合大會委員及理事氏名表

庶務部

委員長 鈴木摠兵衛

副委員長 山岸製材合資會社 山岸清太郎

理事長 名古屋木材株式會社 鈴木虎之助　秋田木材會社出張所　濱木屋合資會社

飛驒林業會社出張所　松田清七　伊藤源助

森田太兵衛　尾崎才市　阿知波重次郎

後藤榮太郎　香川用吉

會計部

理事長 服部小十郎　吉見德四郎　江口猪三郎

鬼頭清八　加藤金六　鹿島富三郎

枕木合資會社

吉野丈太郎　伊藤菊三郎　川口元吉

三輪文次郎　佐藤恒助　鈴木和太郎

接待部

理事長 吉村喜兵衛　三井物産會社支店　井上信八

日下部合名會社　鈴木熊次郎　北海木材商會

長瀬忠治　吉村松太郎　深谷竹三郎

高濱與七　竹内與七　富田彦吉

吉田太助　吉田久三郎　富士九合名會社支店

合資會社 前島商店　星野喜兵衛　早瀬鍵太郎

木谷又吉　服部清太郎　水口庄藏

淺井鉄次郎　淺井喜三郎　村上榮治

村瀬武兵衛　中井善兵衛　吉田馬太郎

渡邊鎌吉　水野增吉　今津鍵三郎

伊藤作次郎　岡田長作　小出平藏

百善出張所 今井喜太郎　北三合資會社　岩田助次郎

中越治郎吉

日本材木大會

日本材木業聯合協會第十八回大會は五日午前十時より愛知縣々會議事堂に於て開會さる、當日の出席會員二百八十四名の多數に及びたるが、先づ開會劈頭大會準備委員長鈴木摠兵衛氏開會の挨拶を述べ、續いて會長田中芳男氏の式辭ありたる後、同會特別の功勞者たる三井物産名古屋支店、淺井製材會社、大鹿梅三郎、今井佐一郎の四氏に有功章を贈與し、夫れより左記諸氏の祝辭朗讀及演説ありたり

▲來賓　岡本山林局長代理宮崎農商務省技師、松井愛知縣知事、阪本名古屋市長、田中帝室林野管理局名古屋支所長　▲會員　小樽木材組合長、東京材木問屋組合長、大阪材木商組合長、吉野木材販賣組合長、神戸木材組合長、三重縣宮川材木組合長、材木業聯合協會愛知縣支部

右終つて準備副委員長山岸清太郎氏答辭を述べたる後、宮崎農商務省技師及三溝愛知縣技師は本邦に於ける木材の現況及前途に就て約一時間に亘る講話ありて午前中の大會を終れり、引續き午後一時開會長谷川副會長議長席に着き先づ聯合協會幹事鈴木虎之助氏より會務の報告を爲し夫れより大會議事に移る、其議案并びに提出者は左の如し

（一）全國鐵道木材運賃低減の議に付鐵道院並に鐵道各管理局に對し請願する事（靜岡縣支部）

（二）帝室林野管理局及政府に於ける木材材積の石數計算を廢し尺締計算に復舊の請願の件（愛知縣支部）

（三）水難救護法中改正の件（愛知縣三重縣兩支部）

（四）杣及木挽職に對する職業税としての縣税賦課廢止の件（愛媛縣支部）

（五）筏税全廢建議の件（靜岡縣支部）

前記議案に對し各提出者は書面若くば口頭を以て本案の提出理由を説明せり而して各號議案に對し一々討議する所ありしが、結局第一號議案は可決、提出者たる靜岡、奈良、小樽の三支部にて調査し、之を本部にて取纏め請願するに決し、第二號議案は賛否兩説にて議論紛々たるものありしかば、宿題として更に研究する事となり、第三號議案は請願書提出するに決定、第四號議案も滿場一致可決の上各支部に於て各府縣當局に向け請願書を提出するに決し、第五號議案も矢張原案を可決し、本部に於て政府及各府縣に請願書を提出せる上尚各支部にて極力運動する事に確定、三時半大會は無事終了せしが、引續き五時より愛知縣商品陳列館に於て懇親會を開催し、全國會員快談數刻に亘り八時過ぎ散會せり、尚六日は名古屋築港及日本車輛其他重なる製材工場を視察する豫定なりと

日本材木業聯合協會本部

日本材木業聯合協會本部

第十八回材木業大會出席員数

東京	二七	和歌山	七
兵庫	七	福岡	一
奈良	二六	長崎	一
岐阜	七	静岡	一九七
三重	二八	秋田	五
岡山	七	北海道	九
徳島	一	大阪	八
愛媛	二	福島	一
新潟	一	愛知	六
名古屋市	一〇七		
小計	二六八		
来賓	三六		
計	三〇四		

日本材木業聯合協會本部

第十八回日本材木業聯合大會委員及理事氏名表

委員長 鈴木摠兵衛

副委員長 山岸製材合資會社 山[illegible]

取引上従来ニ比シ甚ダ

加フルニ検尺箇所ニ於

第十八回日本材木業聯合大會委員及理事氏名表

委員長　鈴木摠兵衛

副委員長　山岸製材合資會社　山岸［illegible］

取引上從來ニ比シ甚タ
加フルニ檢尺箇所ニ於

第十八回日本材木業聯合大會議案

第一號議案

提出者　日本材木業聯合協會靜岡縣支部

一全國鐵道木材運賃低減ノ儀ニ付鐵道院竝ニ鐵道各管理局ニ對シ請願スルコト

〔理由〕木材ハ重量粗大ノ物件ニシテ他ノ貨物トハ其性質ニ於テモ亦其價格ニ於テモ大ニ異ナル處アリテ運賃負擔力ノ最モ薄弱ナルモノトス殊ニ近年材木業ノ不振ニ因リ其當業者ハ非常ノ苦境ニ陷リ一層悲慘ヲ極ムル現時ニ於テ鐵道木材運賃ハ此處數年來屢々運賃增率ヲ行ヒタルノミナラス今日尙ホ增率ノ傾向アルハ斯業ノ隆替ニモ關スベキ一大事タリトス既ニ第十七回日本材木業聯合大會ニ於テ本件ニ關スル請願ノ決議アリシモ其實行ニ付今ヤ猶豫スベキ時機ニアラサルヲ以テ茲ニ更ニ本案ノ建議ヲ爲スニ至リシモノトス而シテ請願ノ方法ハ大會ノ決議ニ因リ全國各支部ニ於テ其地方ノ實狀ヲ具シ之ヲ管轄スル鐵道管理局竝ニ鐵道院ニ對シテ願書提出ヲ爲サントスル

決議ニ在リトス　◎可決

靜岡、奈良、北海道ノ各支部ニ於テ調査シ之レヲ本部ニ取纏メ當局ヘ請願スル事

第二號議案

提出者　日本材木業聯合協會愛知縣支部

一帝室林野管理局及政府ニ於ケル木材材積算出法ノ石數計算ヲ廢シ尺締計算ニ復舊方請願ノ件

〔理由〕帝室林野管理局及政府ニ於テ御拂下材材積ヲ算出スルニ當リ大正三年以來改正尺〆

日本材木業聯合協會本部

第十八回日本材木業聯合大會順序

◎第一日　十一月五日

△午前九時　愛知縣々會議事堂ニ於テ開會式ニ挙行

一 諸員着席

一 開會

一 準備委員長挨拶

一 會長式辭

一 有功章贈呈

一 来賓祝辭演説

（第一振鈴）（第二振鈴）

第十八回日本材木業聯合大會委員及理事氏名表

委員長　鈴木捴兵衛

副委員長　山岸製材合資會社

取引上從來ニ比シ甚ダ

加フルニ検尺箇所ニ於

ノ習慣タル尺締法ヲ廢シテ石數計算法トセラレタルヲ以テ取引上從來ニ比シ甚ダ不便且種々ノ支障ヲ來シ加フルニ検尺箇所ニ於テ妥當ヲ缺ケルノ點アルヲ以テ速カニ石數計算法ヲ廢シ尺締計算法ニ復舊セラレンコトヲ切望スルニアリ

提出者　日本材木業聯合協會愛知縣支部

日本材木業聯合協會三重縣支部

第三號議案　決議◎當題トシ尚研究スル事

一 水難救護法中改正ノ件

〔理由〕海上風波又ハ河川洪水ノ爲メニ漂流セシ材木ニ就テハ明治三十二年法律第九十五號水難救護法ニ據リ沿岸地方ニテ拾得シタル漂流木材ハ到着シタル地ノ町村役場ガ取扱フベキ規定ナルガ其實際ハ遭難ノ木材所有者ノ不便不利多クシテ往々非常ノ損害ヲ蒙ムルコトアリ依テ之レガ取扱ヲ警察署ニ移シ以テ遭難者保護ノ實ヲ擧ゲラレンコトヲ切望シ數年前ヨリ本大會決議ニ基キ貴衆兩院へ改正請願書ヲ提出シタルモ政府ニ於テ未ダ實行ナキヲ以テ其實行ヲ見ンコトヲ希望スルニアリ

提出者　日本材木業聯合協會愛媛縣支部

第四號議案　決議◎可決　從來ノ通リ請願書ヲ貴衆両議院ヘ提出スル事

一 杣及木挽職ニ對スル職業税トシテノ縣税賦課附加廢止ノ件

〔理由〕口頭

提出者　靜岡縣支部

決議◎可決　各支部ニ於テ府縣當局ニ請願書提出スル事

第五号議案　中止

第十八回日本材木業聯合大會委員及理事氏名表

委員長　鈴木摠兵衛

副委員長　山岸製材合資會社

取引上從來ニ比シ甚ダ
加フルニ檢尺箇所ニ於

ノ習慣タル尺締法ヲ廢シテ石數計算法トセラレタルヲ以テ取引上從來ニ比シ甚ダ不
便且種々ノ支障ヲ來シ加フルニ檢尺箇所ニ於テ妥當ヲ缺クルノ點アルヲ以テ速カニ
……ランコトヲ切望スルニアリ

一　會員祝辞演説
一　答辞
以上
一　講演
△正午　晝食
△午後一時
一　諸員着席
一　會務報告
一　議事
一　準備委員長挨拶

（根鈴）

△閉會
△午後五時　愛知縣商品陳列館ヲ會場ニ於テ懇親會開催

（根鈴）

◎第二日　十一月七日
各會社工場及貯木場視察
一　名古屋木材株式會社
一　山岸製材合資會社
一　帝室林野管理局白鳥貯木場
一　浅井製材合名會社
一　日本車輛株式會社

日本材木業聯合協會本部

日本材木業聯合協會本部

報告要旨

曩ニ本會役員任期滿了ノ節會則ニ基キ
副會長（長谷川鉎七）
及幹事五名（鈴木摠兵衞）（服部小十郎）
（長谷川武七）（井上信八）
（永田甚藏）
ヲ指名重任シタル處今回幹事中永田甚藏氏
辞任セラレタルヲ以テ其後任ニ
名古屋市　吉村喜兵衞氏
ヲ指名シタルニ就任アリタリ

一熱田貯木場
以上

柏製

取引上從來ニ比シ甚ダ
加フルニ檢尺箇所ニ於

第十八回日本材木業聯合大會委員及理事氏名表

委員長　鈴木摠兵衞
副委員長　山岸製材合資會社

三重支部

各府縣中出委員名

小樽支部　諸五郎　山下四郎

　河村正雄　窪田省吾

兵庫支部　村林己之助

秋田支部

　井坂直幹　畠山小文治

　下村勝次郎

愛媛支部

　赤木松太郎　杉浦啓吉

大阪支部

　北村正治郎　篠崎槌三郎

書記 石黒文七
澤田宗次郎 天野仙斎
奈良支部
中岡恒一郎 前田利雄
福西栄一郎 関根増太郎
会長 土居甚蔵 副会長 長谷川利七
和歌山支部
拝井半三郎 林
中里栄治 小倉
小野田庄助
京都支部
児玉武太郎

褒状

名古屋市
合 三井物産株式會社名古屋支店
淺井製材合名會社

第十八回日本材木業聯合大會開催ニ際シ熱誠盡瘁セラルヽ依テ茲ニ本會規定ノ有功章ヲ贈リ其功勞ヲ表彰ス

大正四年十一月五日
日本材木業聯合協會々長
正三位勲三等 田中芳男

褒狀

名古屋市
大鹿梅三郎君
仝
今井佐一郎君
殿

日本材木業聯合協會之為熱心盡力セラルヽ依テ本會規定ノ有功章ヲ贈リ其功勞ヲ表彰ス

大正四年十一月五日

日本材木業聯合協會々長
正三位勲一等 田中芳男

東京市本郷區

田中芳男殿

名古屋市山王橋電車停留場前

(名古屋材木商同業組合事務所内)

第十八回日本材木業聯合大會事務所

電話三九〇二番

今井佐一郎

日本材木業聯合會本部

No.140 大正九年十月二七日

甲賀會長殿

今井佐通郎

[illegible]

[illegible]

（名古屋材木商同業組合事務所内）
名古屋市山王稲置車停留場前
電話三九〇二番

御禮

第十八回日本材木業聯合大會

日本材木業聯合會本部

大阪柳瀬印行

No.　　　　年　　月　　日

文字共宜敷候既ニ銅版ハ要相成候ニ付差出し申候
来ル六日出立致し送り申候以来八月三十日ニ而御伺申し
一両日中ニ御出張ヲ乞フ万事協定願度候右ハ
其節何分ともよろしく御願申上候左ヨリ和歌山ノ大会ニ而
加盟会員ノ経過報告ハ総テ出席者ニ而出来候間
生一先ツ帰阪之上何分之御返事申上候　御相談ニ
皆様ニハ万事宜敷
一昨日大会出席者ハ他府県百二十名市内百名来賓
五十名合計二百七十名ニ而盛会ヲ極メ候
右ニ付長谷川ハ当日病気ニ而出席不致候
来月三日四日頃御出張願度候

（大阪柳瀬印行）

No. 171. 大正[illegible]年九月廿九日

付テハ孔陰ヲ以テ式場ハ公園下ニテ差支ナク使ヲ以テ奉慶
加ヘ候陸軍其他ヨリ候モ大会申込アリタル目下
他府県申込百三十名市内百名ニ相成リ居リ会
サゴウト有之候而シテ昌平ハ豊富ニテ仕セ候ヘハ最適ノ
出来ニハ大会ニ於テ準備委員会ヘ会長ハ来ラレ
委細打合候様致シ候ハ大会中ニ於テ技術者
ノコト大阪府長ヲ招待致サレ候様ニ相成リ其他
本書ヲ御覧ノ上ハ至急十五日頃ニ御寄附ヲ願ヒ度、農
商務省相大臣閣下海軍ノ各工場長ヘ招待状及
講演者派遣ノ御書面ヲ以テ其筋ヘ照会致シ候

第一七一號

大阪柳瀬印行

No. 171　　大正　年　月三〇日

大三氏ら欠席之通報にも接し居り候而て折角の

大会なれば出席せさるて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]詳報

[illegible]

[illegible]

会長

田中芳男殿

名古屋市山王橋電車停留場前
（名古屋材木商同業組合事務所内）
第十八回日本材木業聯合大會事務所
電話[illegible]

[illegible]

日本材木業聯合會本部

No. 17 又、大正七年 十月三〇日 於十

本件ハ存外ニ御心配を極め、当方何角不都合ニ付返居中ニ候
本月十日頃より出張致し、其間ニ出張先ニ而
一、絹代議之一件ハ御承知之事と存候
一、農商務大臣及山林局・工務局長ニ面会之件も種々御配慮
ニ付、右之件ハ出張致、右件局長宛ニも御照会致し置候
尚、其後ハ其次第書ヲ差送り、猶二十九日御返書致候旨
着手之様相成、御了承相伺候通り大臣局長ニも来る
九月頃を期し御高配を願候所、実ハ延期致し度存候
今ハ寒さも不堪候へ共、依而九月頃を期し可申候旨ニて
欠席之儀ハ通知致し、且又三通ニ而可申候間御高覧下

大阪柳瀬印行

No. 202　大正四年十一月八日

田中芳男様

拝呈　七日附け端書にて拝見仕候　閣下には予定之如く
御出京に相成り候處　大慶の極に存申候　扨大会中は
種々は有益なる[illegible]を以て意外なる盛会
を見るを得[illegible]会之為[illegible]
以上[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

第十八回日本材木業聯合大會事務所
（名古屋材木商同業組合事務所内）
電話三九〇二番

大阪柳瀬印行

日本材木業聯合會本部

No.　　年　　月　　日

[illegible]御元気[illegible]右に付大臣局長も臨席[illegible]

[illegible]嘆賞[illegible]

[illegible]御指導[illegible]又大臣局

長[illegible]

御[illegible]

[illegible]大会[illegible]

御肖像写真及[illegible]

呈上[illegible]御査収[illegible]

[illegible]

田中[illegible]殿 [illegible]

今井[illegible]

大阪柳瀬印行

名古屋市山王橋電車停留場前
（名古屋材木商同業組合事務所内）
第十八回日本材木業聯合大會
事務所 御中

事務所 御中

第十八回日本材木業聯合大會
事務所 御中

郵便はがき

第十八回日本木材業聯合大會
事務所
御中

郵便はがき

第十八回日本木材業聯合大會
事務所
御中

名古屋市山王橋電車停留場前
（名古屋材木商同業組合事務所内）

合資會社 高田商會

東京 大阪

郵便はがき

名古屋市山王橋電車停留場前
（名古屋材木商同業組合事務所内）
第十八回日本材木業聯合大會
事務所
御中

出席
缺席
（姓名）

缺席
（姓名）

一手製造及販賣

合資會社 高田商會

東京 大阪

タクマ式汽罐

一手製造及販賣

合資會社 高田商會

東京 大阪

出席

缺席

(姓名)

出席

缺席

農商務省商工局

(姓名) 岡 實

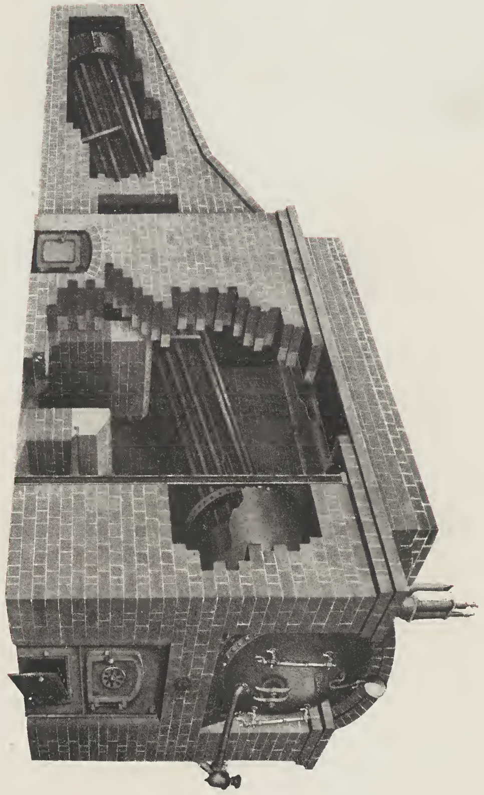
缺席

(姓名)

主要營業種目

○「サクション」式、壓力式、瓦斯發生裝置及瓦斯機關、石油發動機
○軍艦、兵器、彈藥
○汽機、汽罐、並ニ機關車各種、ウルフ式ロコモビール、矢野式ストーカー、タクマ式汽罐
○築港及土木工事用諸機械、浚渫船、鐵橋及鐵道諸材料、建築用材料
○紡績、織物、染物諸機械及材料
○麥酒釀造、製糖、製紙、製粉、セメント製造、肥料製造諸機械及材料
○起重機、水壓機、喞筒各種、ゐのくち渦卷喞筒
○綱索、ブライハルト式鐵索道、ライナー鑿岩機、空氣壓搾機、鑛山用諸機械
○自働車、飛行機及附屬品
○船舶、船舶用諸機械及造船諸材料
○石炭瓦斯發生裝置
○煖房、通風、製氷及冷藏庫裝置
○電燈、電力、電車其他各種電氣裝置
○製鋼、製鐵諸機械、工場用諸機械及工具類
○石油鑿井並ニ精油用諸機械及送油鐵管
○理化學機械、測量機械
○船底塗料、カーボナイチングコーチング、ガルバナム、デヤボーン清罐劑、クレシン等、其他

合資會社 高田商會



タクマ式汽罐
特許第二三七五九號

◎理想とする汽罐の條件を タクマ式汽罐は 如何に具備せるか

理想とする汽罐の條件は

構造簡單にして耐久安全なるもの

タクマ式汽罐は

- 主體構造簡單なること殆んど世界無比(四頁參照)
- 觸火面に繼目なく過熱に對し極安全也(六頁參照)
- 罐體の伸縮自在にして歪を生せず耐久也(十二頁參照)
- 泥分の沈澱完全にして湯垢の附着を防ぐ(十三頁參照)
- 材料の選擇及工作の完全に對し責を負ふ

罐の設置並に掃除修繕の容易なるのみならず取扱至便なるもの

タクマ式汽罐は

- 重量輕く運搬据附並に据替甚容易也(五頁參照)
- 人孔及鏡板を取除かば内部の檢査自在也(六頁參照)
- 水管の取換に鏡板を除きて容易に行ふ(十二頁參照)
- 構造簡單なるを以て修繕も亦容易なり(六頁參照)
- 變化ある仕事に用ゆるも取扱至便なり(十四頁參照)

整然活潑にして對流による罐水の循環を有し汽泡の發生及給水の注入は共に循環を誘導するもの

タクマ式汽罐は

- 循環の行程整然と定まり對流に一致せり(十二頁參照)
- 裝置「カウンターカーレント」に適し循環を活潑にす(十三頁參照)
- 上昇及下降水流比重の差亦循環を催進す(六頁參照)
- 汽泡の上昇にて罐水を誘導し循環を促す(十四頁參照)
- 受水器内に給水を放出し以て循環を助く(十二頁參照)

傳熱面は普く高温の瓦斯に觸れ收熱作用有効なるもの

タクマ式汽罐は

- 火堰に依り普く火焔を水管に接觸せしむ(七頁參照)
- 水管に對し火焔は直角に衝り收熱良好なり(十三頁參照)
- 火焔と罐水の進路は「カウンターカーレント」に適す(九頁參照)
- 水管上部に最高熱を與へ專ら蒸發に資す(十三頁參照)
- 循環の良好と相待つて收熱最も有効なり(一頁參照)

火爐及煙道は燃料の完全燃焼に適し通風の調整自在なるもの

タクマ式汽罐は

- 煙道を形成せる煉瓦の輻射熱は有効也(十四頁參照)
- 火爐上部の容積大にして燃燒は完全なり(十頁參照)
- 燃燒室を設け燃料の發熱を充分ならしむ(九頁參照)
- 燃料に應じて火床の設定大小自在なり(十五頁參照)
- 通風は燃燒量に應じ容易に調整せらる(八頁參照)

一定量の蒸汽發生に對し要する時間重量容積及燃料消費高少きもの

タクマ式汽罐は

- 重量に對する蒸發率多きは世界無比(十一頁參照)
- 据附に要する容積も亦極めて少なり(十六頁參照)
- 冷水より使用壓力を得るに至る時間少し(二十三頁參照)
- 準備焚火時間僅少にして燃料を節約す(十六頁參照)
- 收熱有効なるを以て燃料の節約多大なり(二頁參照)

代價低廉にして据附費及經費少きもの

タクマ式汽罐は

- 代價の低廉なるを以て特に誇りとなす(十五頁參照)
- 据附容積小にして煉瓦積工費少なし(十六頁參照)
- 重量小なるを以て地形、据附費低廉なり(十六頁參照)
- 修繕掃除の容易なるため經費を省く(六頁參照)
- 燃料の節約多大にて他罐に比し利益甚大(十六頁參照)

◎緒　言

抑も蒸汽を使用する工場に於て汽罐の撰擇は最緊要なる問題にして殊に近時蒸汽の需用益々大なるに從ひ汽罐の燃料消費量が工場の經濟に及ぼす影響は決して輕視す可きものに非らず、今吾人が最理想とす可き汽罐に必要なる諸條件を擧れば概ね次の如くなるべし。

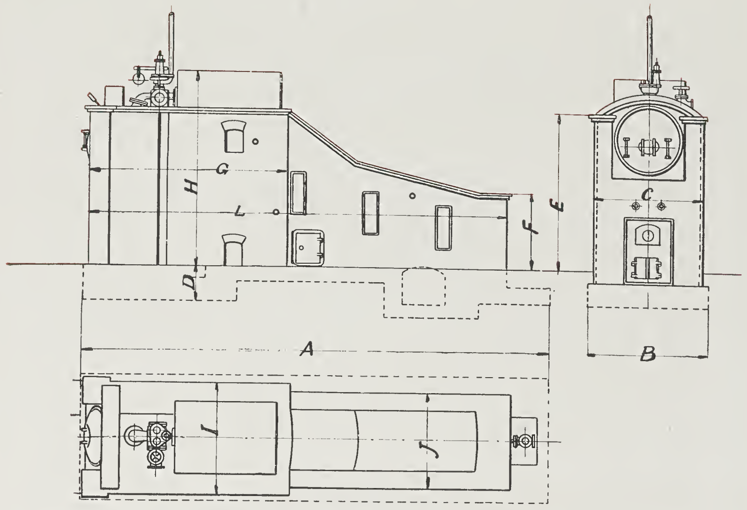
一、構造簡單、裝置完全にして安全に永く使用し得べく其代價は最低廉なる事。
一、容積、重量少にして能く少量の燃料を以て充分の蒸汽を發生し得る事。
一、循環作用最良好なる事。
一、傳熱作用の最有効なる事。
一、能く乾燥せる蒸汽を得る事。
一、火床面積廣く石炭の燃燒最完全にして發熱作用充分なる事。

◎タクマ式汽罐の特長

構造簡單にして高壓に絕え觸火面に鋲接手を有せず掃除及點檢容易にして罐體の膨脹亦自由なるを以て安全にして久しきに耐え特に其代價の廉なるは本汽罐の特長なり容積重量共に他汽罐に比して著しく小さく蒸發率大にして而かも燃料消費量少く使用甚だ容易なり。受水器内に給水したる罐水は漸次高溫に接し對流作用理想的にして其循環甚だ良好なり。水管全面に渉りて高熱瓦斯に接觸すると同時に火焰を直角に働かしむる故傳熱作用甚だ有効なり。乾燥室内に蒸汽を保治し之れを加熱するを以て常に極めて乾燥せる蒸汽を得べし。火床上には大なる容積を有し焰道に於ては火焰の曲折せる所に燃燒室を設け完全燃燒をなさしむるを以て發熱作用完全なり。

◎タクマ式汽罐と經濟

一、工作費。罐の構造は簡單にして重量輕少なるため材料費工作費少なく從つて價格低廉なり。
二、運搬据附。分解して運搬し得べく接合部僅少なるを以て山間僻地に於ても組立据附容易なり其容積重量等共に小なるにより運搬の便利なることは他に比すべきものなく基礎地形煉瓦積等の諸工費を省くこと多し。



要項＼型式		一番型	二番型	三番型	四番型	五番型	六番型	七番型
蒸發量(毎時)听 華氏212°ニテ		690	1,070	1,750	2,950	3,800	4.200	6,900
重量	主罐	噸 1	$1\frac{3}{4}$	$2\frac{1}{2}$	$3\frac{1}{2}$	5.	9.	$11\frac{1}{2}$
	附屬品	噸 $\frac{3}{4}$	1	$1\frac{3}{4}$	2	3.	3.	$3\frac{1}{2}$
解體シタル一個	最大重量	貫 70	130	200	355	470	640	780
	最大容積	立方呎 14	25	60	90	130	200	250
据付ニ關スル寸法	A	18′— 0″	21′— 6″	23′— 0″	26′— 6″	27′— 6″	30′— 0″	32′— 0″
	B	6′— 0″	6′— 6″	7′— 3″	7′— 9″	9′— 0″	10′— 0″	10′— 0″
	C	5′— 6″	5′— 9″	6′— 3″	6′— 9″	8′— 0″	8′— 6″	8′—11″
	D	* 1′— 0″	1′— 6″	2′— 0″	2′— 0″	2′— 6″	2′— 6″	2′— 6″
	E	7′— 0″	8′— 3″	9′— 2″	9′—$7\frac{1}{2}$″	10′— 9″	12′— 6″	12′— 9″
	F	3′— 6″	4′— 0″	4′— 9″	5′— 4″	5′— 9″	6′— 6″	7′— 0″
	G	8′— 0″	8′— 6″	10′— 0″	12′—$4\frac{1}{2}$″	14′— 4″	15′— 1″	15′—10″
	H	8′— 6″	10′— 0″	11′— 0″	12′— 0″	13′— 9″	14′— 7″	15′— 0″
	I	5′— 2″	5′—$4\frac{1}{2}$″	5′—11″	6′— 5″	7′—10″	8′—$1\frac{1}{2}$″	8′— 6″
	J	4′— 5″	4′—$7\frac{1}{2}$″	5′— 2″	5′— 8″	7′— 0″	7′—$4\frac{1}{2}$″	7′— 9″
	L	17′— 0″	20′— 0″	22′— 0″	25′— 6″	26′— 6″	28′— 0″	30′— 0″
煉瓦數	普通(赤)	4,000	5,800	6,500	9,000	11,000	14,000	18,000
	耐火(白)	1,500	2,200	2,500	3,500	4,500	5,100	6,000
代價								

* 地形ヲ完全ニ施シタル時ニシテ但シ地盤ノ有樣ニヨリテ加減アルベシ

三、据附場所。据附面積比較的狭少なるを以て工場の一隅に置くを得べく若し一室を設くるに於ても廣大なる場所を要せず。

四、修繕費。罐の構造簡單なるを以て故障を起すこと甚だ少く且つ修理容易にして多額の修繕費を要せず。

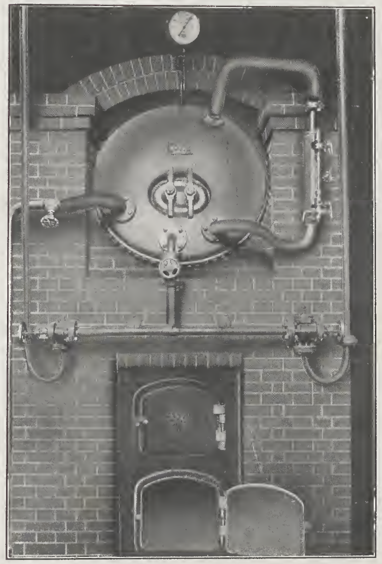
五、石炭消費量。蒸發率は良好にして蒸汽の發生甚だ迅速なり且つ一般圓筒型汽罐の如く過多の罐水を包容せざるを以て準備焚火時間尠く石炭消費量を減少せしむること多大なり。

◎タクマ式汽罐の主要部分

一、水管。蒸汽發生の要部にして上下部圓筒を連結する引抜鋼管なり而して其の配列は火焰を適當に接觸せしむるため其間隔を異にせる千鳥形とし又罐水の循環を促がすため十五度乃至二十度の傾斜を有せしむ。

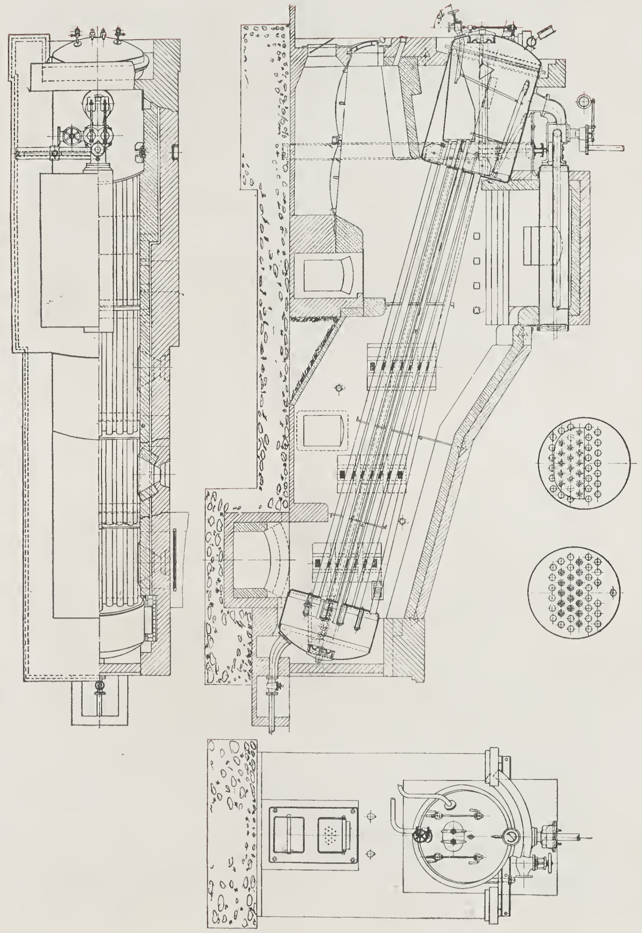
一、上部圓筒。罐體中の上部に位する圓筒にして水管を後部管集板の下方に取附け罐水をして其半を滿さしめ上半部を蒸汽溜場とす前部鏡板は特に**フランヂ**繼となし尚人孔を設けて掃除弁に水管の取替を自在ならしむ。

一、下部圓筒。水管の下端に取附けられたる圓筒にして罐水の溜場とし且其下部の大部分を泥溜場となすため水管を其の上方に挿入し加ふるに泥除板を裝置して降水管を支ふると同時に不純物の沈澱を容易ならしむ。



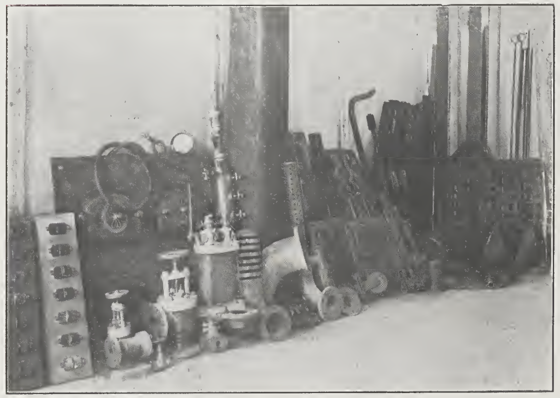
タクマ式汽罐

一、降水管。中央に位する一部の水管中に挿入したる内管にして上部圓筒内の受水器と下部圓筒とを連絡し特に水管の中心に居らしむるため屈曲自在なる繼合せとなし止金具を備ふ。此目的は受水器内に收容せる冷き罐水をば上昇する水流と混ずることなく直に下部圓筒に降下せし



タクマ式汽罐断面圖

据付ケ中ノタクマ式汽罐



タクマ式汽罐ノ附屬品

め給水は觸火面に觸るゝことなく唯水管中の熱に依て其不純物を分離せしめ以て水管内に**スケール**の附着を少からしむ。

一、**受水器**。上部圓筒内に裝置せる半圓箕形の器にして其の後部には直接降水管を取附くるものにして本汽罐中最重要なる部分なり。

其の目的は冷き給水を受けて直に一般罐水と混合せしむる事無く之れを降水管に送り常に比重最大なる冷き水を收容して最良好なる循環をなさしむるにあり。

一、**乾燥室**。汽罐主體の上部に位する二重裝置の圓筒にして蒸汽を貯溜し更に熱を加へて之を乾燥せしむるものとす、若し特に過熱蒸汽を必要とする時は之れを過熱管に改むる事を得。

一、**火　床**。上部圓筒の下部に設け其の面積は燃料の種類によりて大小任意に設計する事を得。

火床の上部には煉瓦の**アーチ**を築き以て上部圓筒の鋲接合部に對する火焔を遮ると共に爐中の高熱を保たしめ燃燒を完全ならしむ。

一、**火　堰**。水管間隙に設けたる遮煙板にして火焔を水管に直角に接觸せしめ傳熱の效率を增大せしむると共に普く水管を熱せしめ火焔の路程を長くし燃燒瓦斯を永く保有せしむるものなり。

一、**燃燒室**。火焔の曲折する部に煉瓦を以て包圍せる廣き場所を設け燃燒瓦斯を更に混和せしめ且第二空氣孔より高溫の空氣を補給して燃燒を一層完全ならしむ。

一、**ローラー**。水管及び圓筒の膨脹を自由ならしむるため下部圓筒の罐支に**ローラー**を附して伸縮を自在ならしむ。

◎附屬品概要

一、塞汽弁　一、給水弁　一、排水弁　一、安全弁　一、水準計　一、壓力計　一、噴汽掃除孔（側壁に設け煤煙を除く穴）一、覘穴金具　一、焚口並に調節扉　一、掃除口　一、節焔戸　一、罐釣柱　一、煉瓦締螺釘　一、上部排水器（浮游物を排出するもの）一、泥除板　一、熱氣扉（罐壁の熱を利用し焔道内に送る熱き空氣を加減する扉）

◎タクマ式汽罐の据付

一、運搬と組立。汽罐の運搬は通常上部圓筒、下部圓筒、水管並に附屬品等總て解體し各運搬するを便利とす。但し小型の物は工場に於て組立て運搬するを便とすることあり。

一般に汽罐の組立は据附の現場に於て爲すものにして百馬力内外のものに於ては二人の職工にて約五日間を以て終了すべし。

一、地形と築造。汽罐本體は前方を高く十五度乃至二十度の傾斜に据置くものとす此目的は(イ)罐水循環を促し(ロ)火床上に適當なる容積を與へ、(ハ)下部圓筒に不

純物沈滯の場所を作り、(ニ)上部圓筒に蒸汽溜場を造り、(ホ)蒸汽出口の高さを適當ならしむることを得べし。

一、据附を施すに當つては先づ地形及**コンクリート**をなし其の上に汽罐を据附け煉瓦壁を築造し內面には耐火煉瓦を用ゆ。

一、耐火煉瓦の部と普通煉瓦との間には幅凡そ一吋程の空隙を造りて熱の傳導を防ぎ且之に第二空氣を通じて加熱し焔道に送りて瓦斯の燃燒を助けしむ。

一、煉瓦積み工事に於て適時に焚口、噴汽掃除孔、覘穴、掃除口等の附屬品を取付け次で乾燥室を定位置に取付け側壁の積み上りと同時に上部**アーチ**を築造す。

一、煉瓦壁を積むには水管と壁との間隙に注意し所定の間隔を有せしむべく又下部圓筒の据附に當り自由に後方に移動し得る樣築造するを要す。

一、附屬品取付。煉瓦積を終りたる後は安全弁、塞止弁、排水弁等を取付け罐內の掃除を充分に施し降水管を挿入し受水器泥除板其の他を取付くべし前部鏡板は給水管上部排水器等を裝置したる後に完全に罐體に締付くるを要す水準計は最後に取付くべし。

一、煉瓦の數量。他の水管式汽罐に比し煉瓦の數は甚だ少く且つ特別なる異形煉瓦を要せず。

◎タクマ式汽罐の安全と耐久

一、構造簡單を極め故障を起すことなく水管は管巣板に直角に挿入するを以て其取付け易きのみならず管端を損傷することなし。

二、急速なる循環は汽罐各部の溫度を均一ならしめ膨脹を等しからしむるを以て漏洩を生ぜず又水管を過熱することなし。

三、沈澱作用の完全なると循環の良好なるとにより觸火面に**スケール**の附着する事甚だ少なし。

四、水管及罐體の膨脹自由なるを以て繼目に歪を生ずることなく且つ觸火猛烈なる部に繼目を有せざるを以て漏洩より起る腐蝕作用なく管取付部は火焔に觸るゝこと亦少し。

五、水管の取替及掃除に對しては前面鏡板を除き自由に行ふを得べし又水管は直條なるを以て內部檢査容易なり。

◎タクマ式汽罐設計に就て

第一項　**タクマ**式汽罐は圖に示すが如く上部圓筒內に半圓箕形の受水器を有し冷き給水を受け之れを一般罐水と混ずる事なく其比重の差により直接連通せられたる降水管を經て下部圓筒に送る然るに一方水管中に於ける罐水は漸次高熱の瓦斯に觸て汽泡を生じ上部に登るに從ひ汽泡の發生益々多量となりて降水管中の水との比重の差著しくなり循環を速進せしむ過重荷の際に於ては此の比重の差は益々大となり急激の循環を得るを以て此の際にも決して其効率を減ずることなし此の作用は**フイルダー**氏の方法を有効に且つ巧妙に實現せるものなり。

第二項　水管の上部は爐上に位して最も高熱の瓦斯に觸れ下部に至るに從つて漸次低下せる瓦斯に接觸するを以て水管內に於ける罐水の溫度及發生する汽泡量は上下部に多くの差を生じ水管內のみに於ても循環作用を催進し以て充分なる循環を行ふことを得せしむ。

第三項　循環作用良好なるを以て罐壁に沿ふ水速を增大するのみならず水管は火焔を直角に受くるを以て熱の傳導甚だ良好にて爲に比較的小なる傳熱面にて而かも少量の燃料を以てよく所要の蒸汽量を發生せしむることを得べし。

第四項　給水は燃燒瓦斯に觸れざる受水器內及び降水管に於て多少熱を受け其不純物は漸く分離して下部圓筒に入り此所に沈滯するを以て水管等に**スケール**の附着する事なし。

第五項　給水は最も低溫なる受水器內に放出せられ直ちに降水管を降る故に此の間殆んど高き熱を受くるの暇なく水管を昇るに當つて始めて漸次高溫なる傳熱面に觸るゝに至る故に罐水は罐內何れの部に於ても溫度の激變を受くることなし。

第六項　火焔內に保有する熱を一樣に且有効に吸收せしむるため水管を特殊の千鳥形に配列し水平層の數を減じて火焔の冷却に伴ふ不完全燃燒を防止し且つ遮煙板によりて火焔は常に水管に直角に觸れしむ。

第七項　火爐の面積は充分なる廣さとし爐格子上は燃燒室として充分の容積を存し且上部の**アーチ**によりて燃燒を助くるを以て燃料の燃燒を最完全にするを得焔道に於ては火焔の曲折せる部にも燃燒室を設け特に第一燃燒室に於ては高溫の空氣を補充し一層燃燒を助けしむ。

第八項　焔道は耐火煉瓦を以て包圍せり故に火力熾なる時は高熱を其の壁に收受し火力衰へたる時は此の收熱を放出して蒸汽發生を均等ならしむるを得。

◎タクマ式汽罐の取扱

試焚。(イ)汽罐据附を終了したる後更に手落なきかを調査し特に罐內に置忘れ物の有無を調べたる後罐水を滿すべし、(ロ)焚炭點火をなすには先づ節焔扉を加減し四五日間は徐々に焚炭して汽壓を常用壓力の三分の一內外より三分の二迄に保ち其の間煉瓦壁に耳を當てゝ靜かに罐水の循環を聽取すべし(異常あらば音響に不同あり)(ハ)循環に故障なきを確かめたる上は更に水準計排水弁を調べ常用汽壓に上ぼして安全弁を調査すべし、(ニ)總て故障なきことを確かめたる後塞汽弁を極僅かに開きて二三日間徐々に使用し愈々確かとなるに至るや普通の使用を始むべし、(ホ)最初は四壁の煉瓦積濕氣を含むを以て蒸汽發生の工合惡しく四五日間は往々**プライミング**をなすことあれども漸次煉瓦乾燥し十日間を經過せば成績次第に良好となり一ヶ月の後には全く其の特長を發揮するに至る可し。

汽壓及給水。一、當汽罐は循環良好にして蒸汽の發生甚だ迅速なる故普通五割の過重荷にも安全なり。

一、作業の平均せるものは勿論急激の變化を要する使用に

對しても常に一定の壓力を保有し汽罐の効率を害することなく火夫の勞力を省くこと多大なり。

一、作業の變化極めて多く時々急に蒸汽の使用を停止するが如き場合には使用壓力を常用汽壓よりも幾分低くして(常用百二十封度のものは百封度より百拾封度迄)用ふべし然らば作業停止せる時に於て給炭を止め調節戸を以て加減するを得べく安全弁より蒸汽を噴出せしむることなし。

一、汽罐の水位は之を一定せしむること一般汽罐と同樣に肝要なりされば**ポンプ**又は**インゼクター**を調整して給水間斷なく平均に送ることを怠るべからず。

始業及終業。一當汽罐は蒸發迅速にして罐水華氏二百十二度なれば約十五分間にて百二十封度の汽壓を得、故に火夫は毎朝始業前二、三十分に出勤せば充分なり而して(イ)水準計を調べ節焰扉を開きて爐内を調べ點火すべし(ロ)點火の際罐内に壓力なく却つて空氣を有する時は先づ水準計の**コツク**を開きて之を排出し又罐水多量に過ぐる時は排水弁を開きて排水し若し罐水全く水準計に現はれざる時は更に給水して點火すべし(ニ)塞汽弁は最初僅かに開き蒸汽の出づる音響止まりて後徐々に開弁すべし(ホ)汽罐を休止する時は必ず給水して壓力を四十封度以下に下げ水位を水準計の最上部迄になし置くべし若し汽壓高き儘になし置く時は煉瓦壁の放熱に依り引き續きて蒸汽を發生し壓力を上昇し安全弁より噴出せしむるの虞あり若し水量少ければ蒸汽の漏洩により て水位低下し水準計に現れざることあり故に必ず終業時に於ては充分給水し置くべし。

燃料と通風。通風の調整は燃料消費量に對し大なる關係を有す然れど是が加減は火夫の經驗と注意に任ず可し左に其要項を揭ぐれば(イ)火床面積、蒸汽の使用量、燃料の種類により常に加減をなすべし(ロ)石炭の投入は火床上に平均に撒布し投入口扉は迅速に開閉して過剩空氣の侵入することを少からしむべし(ハ)煉瓦の割れ目節焰扉の間隙等より冷氣の侵入することなき樣注意すべし(ニ)給炭せんとするに當り覘穴より火の色を窺ひ燃燒の工合を驗すべし(ホ)煤煙黑き時は燃燒完全ならざるを以て通風を加減すべし、(ヘ)特に蒸汽の使用少き時は焙炭法(火床の前方に石炭を多量に積み焚口の風孔を開き其の積みたる石炭が骸炭狀となりたるとき火床の後方へ押し送りて床上に擴る方法)を採りて焚くべし。

排水及掃除。(イ)罐水の排除は汽壓二十封度以下に降下したる時行ふべし(ロ)罐水善良なるときは五日間目毎に一回位を以てして可なるも不良なれば一日二三回排水するを要す(ハ)水管に附着する煤煙は通風燃料に依り差違あれども少くも三日間毎に一回は噴汽掃除器を以て除去すべし(ニ)煙道内の灰捽は三ヶ月目位に搔出すべし(ホ)定期檢査の時は前部鏡板を取外し受水器降水管を除き水管掃除器を以て水管の水垢を搔落し**ブラツシ**を以て掃除すべし。

其の他の取扱方は一般汽罐と同樣なり。

◎タクマ式汽罐の理論

(大正四年七月七日東京學士會に開れかたる機械學會に於てタクマ式汽罐設計部員水井雅典氏講演拔萃)

◎概　說

(前略)構造は前申上ました通りで更に罐水循環の概要を申上ますれば先づ給水は上部圓筒内に裝置してあります受水器に放出せられ器外の罐水と混合することなく直ちに降水管を通りて罐水の貯藏場とも見るべき下部圓筒に出て一旦殆ど静止の狀態となりて罐水中の不純物を茲に沈澱せしめ更めて水管を昇り初めます

而して外部分から充分熱を吸收して汽泡を生じ罐水と共に上部圓筒に出て蒸汽は上半部の蒸汽溜に昇騰し罐水は再び受水器内に入り新しき給水と共に次ぎの循環に移るのであります此蒸汽溜に集まれる蒸汽は更に乾燥室を通りて乾燥せられ塞止弁に至るのであります

如斯循環して熱を收受する罐水は温度の最も高き水管上部に最も高熱の火焰を受け順次火焰の熱度の低下するに從つて罐水温度の低き部分に接觸しますから所謂カウンターカーレントの方則に適合しております又焰道は適當なる温度を保ち適當なる大さを有する三個の燃燒室を形造つておりますから燃燒具合が良しき樣であります

實際使用の狀態を見ますと蒸發量の多大なるため驚かれるのでありまして各使用者よりは叮重なる感謝狀を頂て居る次第であります(自十九頁至二十三頁)

◎タクマ式汽罐の釣合と他の汽罐

扨各部分の釣合に就きましては第一表第二表第三表に示してあります通りでありますが是を定めますには頗る苦心したものであります

タクマ式汽罐の發達史に述ました通り汽罐の各部分は最初非常に無理な釣合の設計でありましたが夫にて得たる經驗と現在世間に廣く用ゐられてゐる汽罐の各部釣合とを對照的に研究して茲に現在の割合即ち設計の標準を定めたものであります

●今其の表に就きまして極めて簡單に說明致しますと第一表は主として**焰道及燃燒室**等の關係を示したのであります勿論是等の數字は燃燒作用に大なる關係を有しておるものでありますから餘程注意をして定めたものであります

實際タクマ式汽罐の焰道に於ける各部瓦斯の温度を高熱計で測つて見ましたが第一燃燒室の附近では常に華氏千二百度以上で漸次第二第三の燃燒室に至るに從ひまして夫々九百度七百度位となり遂に煙突へは五六百度で逃げて出るのであります

各燃燒室は火焰の曲折する所にありますから瓦斯の混合には至極適當で然かも其温度が瓦斯の自燃作用を催すに充分であり殊に第一燃燒室には高温の空氣を補充する事が出來るのは未燃瓦斯に完全燃燒をなさしめる一つの有効な方法と考へて居ります

第一表　　火床と焔路及燃燒室との關係

汽罐の名稱	商業馬力	火床面積（平方呎）	火床上面冷却面に至る垂直距離	焔路各部面積と火床面積との比：第一區劃（火床上部）	第二區劃	第三區劃	最后區劃	烟道に至る通路	火床毎平方呎に對する各燃燒室の容積：火爐燃燒室	第一燃燒室	第二燃燒室	第三燃燒室	此の表を作るに用ひし汽罐の据附場所
ハイネ式	303	51.	3′—0″	.215（火橋上の面積）	.28	—	.24	.285	2.8	2.2	—	—	京濱電氣鐵道
	230	47.3	2′—9″	.211	.275	—	.21	—	2.75	3.4	—	—	淺野セメント
	150	33.	3′—0″	.20	.242	—	.185	.21	2.8	3.45	—	—	關門製氷
タクマ式	180	40.	4′—0″	.35	.30	.25	.21	.18	3.2	4.2	2.3	1.8	—
	90	19.5	3′-10″	.345	.32	.25	.19	.173	3.08	4.1	2.8	1.65	高砂製油所
バブコックエンドウイルコックス		30.	4′—0″	.64	.413	.33	—	.22	3.5	5.	4.3	—	—
	145	33.5	4′—3″	.635	.412	.325	—	.20	3.85	4.2	3.6	—	住友別子銅山
		40.	5′—0″	.53	.345	.27	—	.174	4.	5.2	4.5	—	大阪專賣支局
		40.	5′—0″	.56	.31	.27	—	.26	4.2	5.2	4.25	—	岡山電燈
		30.	5′—0″	.68	.39	.31	—	.22	4.5	5.3	3.5	—	岡山電氣軌道
		26.5	4′—0″	.63	.38	.27	—	.19	3.25	4.07	4.0	—	富士製紙
宮原式	240	65.	4′—8″	.66	—	—	.31	—	4.8	—	—	—	富士製紙
	200	45.	4′—0″	.585	—	—	.50	.23	3.3	3.3	3.8	—	堺セルロイド
外焚多管式 5′—0″×14′—0″	60	20.	1′—0″	.25	—	—	.085（管切口）	—	2.5	1.8（罐後部空間）	—	—	小田原製氷
ランカシャアー 7′—0″×30′—0″		33.	1′—5″	.104（火橋上の面積）	.36（火爐圓筒部）	.265（下部煙路）	.365（側部煙路）	.485	1.1	1.78	—	—	佐渡鑛山
ヅルチャーコルニッシユ 6′—6″×25′—0″		20.	2′—0″	.16	.45	.59	.73	.25	1.5	4.2	—	—	大阪砲兵工廠
舶用スコッチ型		41.	1′—9″	.13	.44	—	.178（管切口）	—	1.4	3.12	—	—	汽船大榮丸
コクラン竪型 6′—0″×13″—6″		48.7	2′—6″	.088	.24	—	.155	.14	.44	.78	—	—	川崎造船所兵庫分工場

又火床上には大きな場所が取つてありますが今覘穴から爐上の火焔を觀察しますと室の大半は白熱となつて赤味を帶びた火焔は殆んど水管に觸れておらないのであります特に火床上に耐火煉瓦の「アーチ」を築きましたので爐を高熱に保たし得らるゝと同時に圓筒の鋲繼手を保護することが出來るのであります又圓筒の周圍には高熱の瓦斯があり「アーチ」に穴を穿つて瓦斯の通過を自由になさしめたこと其他煉瓦の輻射熱により上部圓筒は決して冷却することがありません

●第二表は汽罐各部の割合を示せるものでありまして夫々傳熱面に對する權衡を保たしむる樣に勉めて居ります

特に汽積や水面、並に水の容積等の割合に就きましては已に實驗上此の表にある數字よりも小さいものにて決して差支がなかつたのでありますが尙餘裕を取りまして表の如く**ハイ子**と**バブコツク**との間になる樣特に設計上注意を拂つて決定致しましたのでありますから實際使用して不便を感じないのみならず本汽罐に於て最も適當なる數字であらうと思ふ次第であります。尙是等の數字は皆實驗によつて決定致しましたので此の目的に用ゐました汽罐や設計表は現在八ッありますが然しながらまだ改良と研究を要すべき點もあることと考へて居りますから何卒皆樣の御援助を得たいのであります

●第三表は汽罐重量に對する蒸發量を比較したものでありまして本汽罐の蒸發力が大層他の汽罐に優りて居りますことは特に御認めを願ひたいのであります尙取扱上に就きまして不便を感ずる點がありませぬから火夫など喜んでおります

勿論此表は全部陸上汽罐のみを比較したのでありますが本汽罐の舶用として有望なることは推量し得らるゝのでありますいづれ改めて舶用汽罐に對する設計を發表致しますのも近き將來であらうと思ふのであります

第二表　　傳熱面積と汽罐各部の割合

汽罐の名稱	傳熱面積（平方呎）	火床面積（平方呎）	H.S./G.A. 實物	H.S./G.A. パウエル所載	管 外徑（吋）	管 長さ（呎 吋）	管 數	上昇路／下降路†	百平方呎傳熱面につき汽室の容積 實物（立方呎）	同 ハットン所載	百平方呎傳熱面につき水面の大さ（平方呎）	一平方呎傳熱面に對する汽罐水の容積 實物（立方呎）	同 ハットン所載	本表を作るに用ひし汽罐の据付場所
ハイネ（水管式）	2700	51.	53.	50～60	3½	18–0	163	1	2.4		2.5	.156		京濱電鐵
	2306	47.3	49.		,,	,,	127	,,	3.13		3.4	.168		淺野セメント
	1100	33.	33.2		,,	,,	68	,,	5.4		5.3	.162		關門製氷
タクマ（同）	1250	40.	31.2		3½	20–0	64	7	5.1		2.6	.16		
	640	19.5	32.8		3	18–0	43	,,	4.4		3.1	.15		高砂製油所
バブコックエンド*ウイルコックス*（水管式）	1619	30.	54.		4	18–0	72	1	6.8	9.1	4.9	.142	.15	—
	1827	33.5	54.5		,,	,,	81	,,	7.9		5.0	.144		住友別子
	2100	40.	52.5		,,	,,	,,	,,	6.75		4·35	.125		大阪專賣支局
	2300	40.	57.5		,,	,,	90	,,	6.2		4.00	.120		岡山電燈
	1619	30.	54.		,,	,,	72	,,	5.4		5.3	.162		岡山電氣軌道
	1265	26.5	48.		,,	,,	56	,,	6,35		5.4	.132		富士製紙
宮原（同）*	2550	65.	39.9		2½ / 1½	10—0 / 10—0	300 / 150		5.00		1.5	.092		富士製紙
*	1915	45.	42.7		2½ / 1½	,, / ,,	256 / 76		5.35		1.65	.102		堺セルロイド
ハリソン（水管式）										2.3			.06	
ルート（水管式）										4.3			.08	
ネーヤー（水管式）										5.2			.096	
ヤロー（水管式）°	200	5.75	42.		1	2–4	368	18	2.5		4.3	.07		艦載小蒸汽
外焚多管式 5′—0″×14′—0″	673	20.	33.7		2½	14–0	64	—	5.65	8.3～25	5.85	.28	.20	小田原製氷
ランカシャアー 7′—0″×30′—0″	850	33.	25.7	20～35	火爐 2—9	—	—	—	24.7	21～30	19.4	.75	.54	佐渡鑛山
ヅルチャーコルニッシユ 6′—6″×25′—0″×	525	21.	25.	20～30	火爐 3—5	—	—	—	22汽室 18.	24.～26	19.	1.1	.57	大阪砲兵工廠
舶用スコッチ型 11′—0″×10′—0″	1223	41.	30.	28～35	3	7–3	172	—	14.	11.5～16	7.4	.4	.44	汽船大榮丸
コクラン竪型 6′—0″×13′—6″	350	18.7	19.		2½	3-11	110	—	12.6		8.0	.323		川崎造船兵庫分工場

備考　＊スパーヒーターを有するもの　° 特種小型汽罐　×汽罐の上部に 2′—0″×24′—0 の汽室二個あり火焔に露出せり　† 兩者面積の比

第三表　　汽罐重量と蒸發量

汽罐の名稱	商業上馬力	傳熱面毎時毎平方呎に於ける蒸發量（華氏212°に於て）（听）	汽罐重量附屬品共（噸）	汽罐水量（噸）	毎時蒸發量 普通の効率に於ける（最大）（听）	汽罐重一噸につき毎時蒸發量（听）	摘要
タクマ式汽罐	**90**	**5.8**	**5.8**	**2.7**	**3700**	**635**	**實驗**
ランカシャー汽罐 6′—6″×26′—0″	90	5.7	14.8	11.4	3690	250	ラストン型錄
コルニッシユ汽罐 6′—6″×24′—0″	85	5.7	12·7	14.0	2900	228	同上
外焚多管式汽罐 6′—0″×12′—0″	90	3.5	9.7	10.0	3400	350	同上
內焚焔還式汽罐 7′—0″×13′—0″	90	3.6	12.3	—	3000	244	同上
バブコック・エンド・ウイルコックス汽罐	145	2.73	14.0	7.3	5000	356	住友別子鑛山据付

◎構造に就ての特徴

今構作上特に注意を拂つた點や特別なる裝置をせずして種々便利に設計致しました點を極簡單に說明致しますと

●**水管** は耐久並價格其他の關係から參吋、參吋半の引拔鋼管を用ゐて居ります尤も小馬力のものには特に二吋半を使用することもあります

●**上部圓筒** の上半部を蒸汽溜に用ひ下半部には罐水が充たされるのでありますから從つて管巢鏡板の管孔を出來るだけ下方に穿ちて蒸汽溜場を大きく取らしめるのであります。前方の鏡板は水管の取換や掃除を便ならしむるために「フランヂ」繼手としておるのであります「ウォルフロコモビル」では八百馬力のものに直徑八呎六吋もある「フランヂ」を採用しておりますから本汽罐では先づ徑六呎位迄此の方法を採用するつもりでありますそして充分參百五拾馬力や四百馬力をも供給し得られるのであります

●**下部圓筒** では水管の挿入し具合が丁度上部圓筒と反對で出來るだけ上部に管孔を穿ち下方の大きな場所には泥を溜める樣に工夫しておるのであります又此の所で泥を分離するに都合の良き事は降水管より降りた罐水は一旦殆んど靜止の狀態となるので沈澱作用を完全に行ふことが出來ます、又最上層の水管列中で中央の一、二、本は特に最高部に挿入して下部圓筒内に溜る蒸汽や空氣などを上部圓筒に逃げ出させる樣に致しました、「ブロー」曲管は四十五度の曲りでありますから他の汽罐よりも泥の排出にも便利であります

●**受水器** は上部圓筒內に裝置してある半圓箕形の器で降水管を直接其の後壁に取り付けるのであります。これ本汽罐中最も重要なる部分であります其目的は冷き給水を受けて高溫の罐水を混合せしめず直ぐに降水管に送る作用をなさしめ常に比重の最も大なる罐水を收容して居りまして最も良好なる循還をさせるのてあります

●**降水管** は外徑二吋、一吋四分の三、並に一吋半の細い管でありまして壓力には關係なきため薄いものを用ゐて居ります其目的は勿論罐水の下降通路となすので數は約水管の三分の一ばかりありまして中央の火に觸れることが少い水管内に挿入しております上端は受水器に下端は下部圓筒の中央迄延長して泥除け板で支へられて居ります。尙全長は數本の管を連ぎ合せたもので各管には水流を妨けない樣に工夫せる管支を三ヶ所に付けてありますから常に中心位置を保つことが出來又掃除の時は受水器などと共に皆別々に取り出すことが出來ますから便利であります

●**乾燥室** は汽罐の最上位にありまして蒸汽を保有し外部より熱を加へて至極輕便に乾燥したる蒸汽を得る所でありますから徑を小さくし長さを增す樣に且つ安全率を大きくして設計します構造は圖面によつて御覽になる通り二重裝置であります若し此の室が毀損しました場合には後方にある盲蓋を弁座の後方へ取付け乾燥室を取り除きましても汽罐として充分使用に堪へ得らるゝのであります

●其他汽罐の膨脹伸縮によりて起ります無理を避くるために「**ローラー**」を有するなど巨細な點まで注意しておる積りであります

◎罐水の循環と收熱作用

罐水の循環作用につきましては罐水と瓦斯との二樣に別けて申上げたいのであります

近頃最も進んだ說としては罐水循環に妨げのなき限り罐內低溫の所に給水を放出するのが最も利益であるといはれておりますが本汽罐は前にも申上げました通り上部圓筒中最も低溫の罐水は自然に受水器內に集りますから給水も受水器の下低に近く放出せねばなりません

此の給水は決して器外の汽泡多き罐水と混合せず比重が大

きいから直ちに降水管を通りて下部圓筒に出るのであります。此所は例の貯水場でありますから水は一旦殆んど靜止の狀態となり更めて水管を上昇致し始めます

そこで罐水は漸次高溫の瓦斯に觸れまして溫まり汽泡を發生しながらだん〳〵上の方へ昇ります、罐水が上昇するに從つて益々汽泡の發生が盛んになりますから水管上部の水は受水器降水管中の水に對して比重の差が著しく大となり循環を速進するのであります。此樣に比重の差や循環行程の整然なることや汽泡發生が共に循環を催進させることは全く「フィールドボイラー」の方法を有効に巧妙に實現したものであります

火焔の溫度は前にも申しました通り各燃燒室は夫々華氏千二百度九百度七百度位の割合に漸次順序正しく下つて煙突の下部では五百度より六百度の間にあります、勿論火爐は火の色などより推察しますのに華氏貳千度以上であることは疑もないことでありますから水と火焔とは所謂「カウンターカーレント」に適合して居ります然かも全體の裝置が活潑迅速なる循環を起させるため非常に適當であらうと思ふのでありますす又水管の上下端には「ヘッダー」の樣なものがありませんから循環を妨げる傾向は全くありません

一方收熱の點はどうかと云ひますと火焔の通路は遮煙板のために延長され從つて瓦斯を一樣に水管に擴がらせ同時に瓦斯は水管に直角に觸れるのでありますから收熱率はよろしい譯であります又水管の上半部は熱が全部水の蒸發作用にのみ用ひられるのでありますから一層有効なるのみならず特に炉上の放射熱を受けることも多大であります

給水は受水器降水管を經て下部圓筒に出るのでありますから途中で幾らか溫まり不純物を分離するのに都合よく又下部圓筒內に於ける罐水の停滯は完全なる分離作用をさせる譯であるのみならず水管中では循環の迅速なるため罐壁に「スケール」の附くことが少いのであります是れは傳熱面の收熱作用を減せしめない一つの大なる利益であります

此「スケール」に就て實例を申上ますと高砂製油所に据附けました八十五馬力「タクマ」式汽罐は去る大正三年八月より焚火し十月末迄晝間仝年末迄晝夜徹して作業を致しました所が不幸にも給水は鹽分鐵分を含んでおります上に泥分が多く且工場の植物性油が混入する樣な有樣ですから去る一月上旬に汽罐の掃除をなし且つ井戶を堀りかへまして使用して居ります此時丁度私が「スケール」の視察を致しましたのに水管內面には殆んど「スケール」はなく管掃除器を以て掃除しましたのに主に錆の樣なものが取れたばかりであります上部圓筒には四分三吋程の厚さの沈澱狀態ともいふべき鳶色の「スケール」があり下部圓筒では約八吋より六吋の深さに糊狀の沈澱物がありました、是れに依りて見ますと水管には餘程「スケール」の附かないものと思はれます

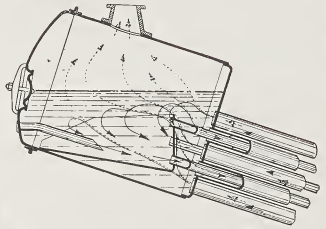
序に申上げますが普通水準位の範圍內では約廿分間蒸發を致しましても差支へがないだけの水量を有して居るのでありますから取扱上少しも心配はありません

◎「ステツデイ」なる蒸汽の供給

水面汽室及水の容積等のことは已にお話し致しましたが是等の數字は發生する蒸汽量に比較しますと他の汽罐よりは勿論小さいのでありますけれども實際使用致しまして決して頻繁に壓力の變化を生ぜず又「プライミング」などを起さず負荷曲線に現はれておる通り作業につれて適當の蒸發作用をなすのであります（廿一頁參照）

其理由は罐水の整然活潑なる循環及焔道煉瓦の輻射熱と水面の狀態等が普通の汽罐と異つて居るためであると思ひます

急激過當に蒸汽を使用しました時は汽室内に壓力の低下を催します所が汽水ドラムの上部や水管上部の罐水は普通の狀態では汽化することが出來ませぬけれども既に多量の熱を吸收して壓力が少しでも減じたならば直ちに汽化し得らるゝ狀態にあるのであります、故に此の際水管中には一層多くの汽泡が發生して急に上騰せんとし同時に充分收熱したる罐水をも誘導して益々迅速に上部圓筒内に出ますから蒸汽や熱を補ふのであります此の作用はつまり循環及蒸發作用を早からしめ從つて一層收熱作用が盛んになり直に壓力をも回復する譯であります



勿論使用蒸汽が急激に減少しました場合には壓力の高まる傾向を生し蒸發作用を阻止する譯で仕事の量に應じたる蒸發をなし自然に壓力が調整せらるゝ理で尤も此の傾向は何れの汽罐でも同じことでありますけれども特にタクマ式汽罐に於ては有理なる循環のため一層有効なる譯であります

而かも給炭して火力の衰へたる時ですら其影響を受けませぬのは全く罐水の少量なるに比し煉瓦の放散する幅射熱が多いため非常に有効な譯で決して熱の不足を感ずること無く恰も圓筒型汽罐が多量の罐水中に熱を貯藏して居るのと同様の作用をなすのであります

水面に近き罐水の狀態は普通の汽罐と餘程異つておるため泡立を起すことがない様に思はれます、なぜかと申ますと水管より昇つて來る汽泡の方向は水面に對して十五度でありますから罐水を眞上に向つて上騰させませぬ又受水器は汽泡なき罐水を集めて降水管に送る作用を掌るのでありますから此部の罐水は上騰せざるは勿論特に受水器を經て降水管へ降る傾向を持つて居りますから自然水面は下方に引かるゝ力が傳へられ泡立を防ぐのであります

蒸汽取出口は水面よりの距離高く又蒸汽は必ず乾燥室を通らねばならぬ事や塞止弁に至る距離の長いことなど綜合して濕潤したる蒸汽を供給する恐れがないのであります

現に乾燥室を通らない蒸汽でさへ九十六%の乾燥度を示しておるのであります

第四表　　材料及接合部比較

汽罐の種類	タクマ式汽罐を單位としたる重量の比較	鋲鋲の數	タクマ式汽罐を單位としたる鋲數の比較	鋲接合にあらざる接合の數（管取附の如きもの）	タクマ式汽罐を單位としたる同上比較
タクマ式汽罐	1.00	400	1.00	86	1.00
ランカシャー汽罐	2.55	2.450	6.12	—	—
コルニッシュ汽罐	2.33	1.750	4.37	—	—
外焚多管式汽罐	1.67	700	1.75	128	1.48
バブコック.エンド.ウイルコックス汽罐	1.64	530	1.32	220	2.55

第五表　　價格の低廉より生ずる利得の比較

汽罐の種類	タクマ式汽罐を單位としたる價格の割合	十五年間に於て同上に對する利息（年一割の複利）	管取換費及之に對する八ケ年間の元利金（年一割の複利）	十五ケ年に於ける元利金（前三行の合計）	タクマ式汽罐との差額	差金はタクマ式汽罐元價の何倍となるか
タクマ式汽罐	1.000	3.176	.611	4.787	0	—
ランカシヤ汽罐	1.450	4.605	—	6.055	1.268	1.3
コルニッシュ汽罐	1.300	4.128	—	5.428	641	.6
外焚多管式汽罐	1.150	3.652	.837	5.639	852	.9
内焚焔還式汽罐	1.300	4.128	.724	6.152	1.365	1.4
バブコック.エンド.ウイルコクック汽罐	1.600	5.081	1.030	7.711	2.924	2.9
備考	本表は型錄による蒸發量を基礎とせるものなり 管取換は何れも七ケ年半にして全部取換ふるものと假定す					

◎タクマ式汽罐と經濟

タクマ式汽罐の特長は殊に經濟的價値の優越せる點にありますして價格の低廉運搬の便利掃除の容易燃料の節約等使用者の利便經濟は莫大であります今少しく數字的に申しますれば次の樣であります

◎價格と耐久

汽罐の構造は簡單にして製作には材料を要すること少く加工個所も亦僅少なるを以て代價低廉なるのみならず安全耐久なり（第四表參照）

從て此價格に對する利息の差は他罐に比し優に汽罐の据換をなすに足るべく永遠新規資本を要することなし（第五表參照）

◎運搬据附費及場所

罐體は勿論解體したる一個の最大重量幷に容積共に小なるを以て運搬に便利なるのみならず組立簡單なるため山間僻地と雖も据附容易なり

所要の煉瓦數は少く（但し小馬力のものは其數を減ぜず）重量亦輕きを以て基礎地形費を節約することを得

据附場所は狹く且後方低きを以て小なる建物内にても納り方良し

（第六表參照）

◎時間と燃料

循環幷蒸發の迅速なるを以て速に使用壓力に達し得べく從て火夫の早出を要することなし特に燃料の節約は最も誇りとする所なり

火床の構成に制限なきを以て燃料には石炭木屑籾草等如何なる種類のものにても適宜に使用し得らる特に汽罐の調整及取扱の便利なるにより未熟なる火夫と雖もよく作業の變化に應じ調整することを得左に各工場に於ける實地使用の狀態と同一作業に於ける燃料の比較とを示さむ（第七表參照）

第　六　表　　重量煉瓦數並に据付場所の比較

汽罐の種類	蒸發量（毎時听）	汽罐重量		解體したる一個		据付用煉瓦		据付寸法	
		水を容れたる時	汽罐附屬品共	最大重量	最大容積	耐火	普通	長　巾　高	立積
		噸	噸	噸	立方呎	個	個	呎 吋　呎 吋　呎 吋	立方呎
タクマ式汽罐	3,700	8.5	5.8	1.3	96	3,000	7,500	26—6 × 6—8 × 12—0	1,430
ランカシャー汽罐	3,690	26.2	14.8	10.0	1,160	2,000	16,000	30—0 × 11—0 × 7—0	2,300
外焚多管式汽罐	3,400	19.7	9.7	3.4	432	1,420	17,850	18—0 × 9—5 × 11—0	1,800
バブコック.エンド.ウイルコックス汽罐	3,000	16.0	10.7	1.6	198	2,800	11,300	21—0 × 6—10 × 14—6	2,100

第　七　表　　同一作業に於て消費したる燃料の比較

符號	汽罐の種類及大さ	準備焚時間	準備焚用石炭消費量	一日石炭消費量（晝及晝夜）	一ヶ年間石炭代價概算	同一作業に對しタクマ式と取換へたる後の利益	作業
		時分	斤	斤			
A	タクマ式汽罐（50）馬力	0.35	120	2,600	——	——	熱力用
	コルニッシュ汽罐6′—0″×24′—0″	2. 0	490	3,850	——	——	晝間作業
B	タクマ式汽罐（110）馬力	——	——	5,000	6,500	2500	熱力用
	コルニッシュ汽罐 5′—0″×17′—6″ 3′—6″×12′—0″	——	——	7,000	9,000		晝夜作業
C	タクマ式汽罐（65）馬力	0.35	180	2,700	3,500	800	汽機用
	ランカシャー汽罐 6′—6″×20′—0″	1.30	450	3,500	4,300		晝間作業

備考
- Aは大阪府立職工學校教諭飯田吉三郎氏により染工場に於て比較せしもの
- Bは木村製薬所よりの報告による
- Cは平尾鐵工所の實際作業に就て得たるもの

準備焚時間とは華氏 60° の罐水より 120 听の壓力に至る時間とす

一日石炭消費量には準備焚に要する石炭を含まず

第八表　汽罐据付費比較表

工事名稱＼汽罐名稱	コルニッシュ 6′—00″×20′—0″ 六十五馬力	タクマ式 三十一馬力
水盛遣型及地形根切	円 24.60	円 10.00
地形杭打及コンクリート	91.40	36.00
燒過貳等煉瓦	一萬二千個 216.00	六千六百個 111.88
耐火白煉瓦	三千個 165.00	二千七百個 148.50
モルタル	85.00	36.00
耐火粘土	12.00	9.00
煉瓦積手間	60.00	27.00
仁科保温劑	200.00	—
目漆喰及色付	17.00	10.10
足場損料	20.50	5.50
後片付掃除	8.50	3.16
合計	900.00	397.14
馬力に對する据付費	14.00	12.80

備考　本表は府立大阪職工學校に据付けたる二汽罐の實費比較なり

◎專門家のタクマ式汽罐に對する批評

◎發明品博覽會の審査及授賞

大正三年四月大阪市ニ開催セラレタル第二回發明品博覽會ニ於テ

審査概評

田熊常吉出品の田熊式汽罐は在來圓形汽罐及水管式汽罐に比し價格低廉運搬輕便罐水循環の有理燃料の節約等の諸點に對し特に小規摸の蒸汽使用諸製作工場に用ひて當業者の利益を感ずること大なるべし

授賞

最高位の金賞を授與せらる

◎帝國大學工科大學教授加茂博士の所見

昨年の秋同僚渡邊浩一君の紹介によりて、始めて田熊常吉君と相識るに至つた、君は元來製材家であつて、機械學に關しては全然素人である、併しながら其際示された君の創案に係る蒸汽罐は、所謂黑人が多年の工夫に成つた罐に比べて敢て遜色がないばかりでなく、寧ろ優秀の點が多々ある事を認めた、殊に其構造上に現れた特殊の部分は、全く數年に涉る君の苦心と實驗とが產み出した精華であつて、夫等の點に就ては特に詳細の説明を與へられた、尤も説明中の用語並に其方法に關しては、機械屋の目から見て、多少感服し兼ぬる點がないでもなかつたが、其要領に至つては全然本職を首背せしむるものであつた、兎に角自分の知つておる範圍内に於て、構造上からも亦水の循環の上からも、無理の少ない罐であると思つた、其上是迄に据付けられた罐の使用上の成蹟も餘程良好であるとの事であつた、爾來好奇心に驅られて、一、二回實地使用の有樣を見、又蒸發量の試驗めいた事もやつて見たが、其際總ての狀態が正式の試驗としての要素を具備せず、且つ記錄の取り方も不完全であつた爲め、其結果は直ちに夫れに準據して、此罐の價値を判斷し得る位迄正確のものではない、併しながら唯田熊式蒸汽罐の圖面を見、其説明を聽いたばかりで、自分は既に友人に對して全責任を負ふて、此罐の採用を勸めた事實がある、其罐は未だ完成しておらぬが、本年の秋迄には其据付も了りて、十分友人を滿足させる丈けの成績を擧け得るものと信じておる。

昨年來歐洲に於ける戰爭の結果、我國に於ては頻りに國產獎勵とか內地製作品使用とかの聲が高まつて居る際、かゝる立派な蒸汽罐が、高田商會の手によりて世間一般に紹介さるゝに至つた事は、國家の爲め誠に慶賀すべき現象と考へる、曩日田熊君から近々型錄を拵へるから、何か此罐に就いて書い

て呉れとの依賴があつた節、少しも飾り氣なく事實を書き連ねた丈けで宜いとならば、と云ふ約束の下に書いたものが即ち之れである。

大正四年五月廿三日　於東京　加茂　正雄

◎帝國大學工科大學助敎授渡邊浩一氏の批評

帝大工科助敎授渡邊浩一氏は往訪の記者に語りて曰く田熊氏の該發明は實際專門家の意外とする所にして價格の低廉なると效率高きと乃至構造の簡單輕便にして故障少く無識者も能く之を取扱ひ若くは修繕し得る等多大の長所を有し受水器及び降水管の裝置等は從來多く見ざりし所なり該汽罐は其水管式を應用せる點に於て從來の舊式型に優り新工風を施して理想的に簡單ならしめたる點に於て在來の水管式に勝りたる者と謂ふべし斯く云はゞ夫れ程有益なる發明が何故今日迄等閑に附せられたりやとの疑問を起す者あらんか蓋し學者は常に機關の理想的完備を企圖するが故に往々にして理論に奔り複雜に流れ勢ひ機械は巧妙となるも其微妙なる丈に故障を起す場合多きが如き弊に陷り實際家は又蒸汽機關の改良によりて石炭消費額を減ぜんより水力電氣若くは瓦斯石油等の如き他の方面に動力を仰ぐの風を馴致して自ら汽罐の改良工風に冷淡となれる者なるべし而して發明界の事は進步又進步し複雜又複雜となりて愈其煩に堪へざるに至り玆に始めて簡單輕便なる發明の出づると普通の逕路にして田熊氏の夫れは正しく此間の消息を語るものと謂ふ可し今や動熱二力を併有する蒸汽罐にして此種の發明ありたるは誠に工業界の一福音と稱す可きなり云々と（時事新報大正二年六月一日記事拔萃）

◎大阪府立職工學校敎諭飯田吉三郎氏の所感

タクマ式汽罐は田熊常吉氏の發明に係り余は其完成に就て深き關係を有するものなるが最初に於て心窃に思へらく素人の考案恐らく體を成し居らざるべしと而して之れを實見するに先づ其然らざりしを見出し發明本人に接するに及んで經濟上の着眼凡ならざるを知り細部を調査するに至り其巧妙に感じ研究を進むるに從ひ益々其感を深くし豫期以上の好成績を得殆んど理想に近きものなることを斷定し得るに至れり

即ちタクマ式汽罐は現今最も進步せる水管式汽罐の長所を具備し更に罐水循環の好良收熱の有効等理論上優良なるのみならず實地使用に當り其成績の良好なるは意外とする所なり特に構造簡單なるより價格の非常に低廉なるの點亦本汽罐の特色にして本發明が工業界に及ぼす影響蓋し鮮少ならざるべしと信ず

玆に本發明の發表に當り所感を述ぶ

大正四年五月

大阪府立職工學校敎諭　飯田吉三郎

◎タクマ式汽罐の實績

田熊常吉氏は鳥取縣に生れ廿五歲にして神戶市に出で、製材業を營む以來製材家として各所の山間に機罐を使用せしが不便を感ずること一再ならず、玆に本汽罐考案の端緒を開く、之れ明治四十一年なり爾來八年間四種、三十餘個の汽罐を造り苦き經驗と偉大なる精力と多大なる資產とを犧牲として研究を進むるに至りたり、而して本發明に當りて眞髓とせし事項は一、運搬に便、二、安價、三、傳熱面の厚さを薄くす、四、据付組立及据換に便、五、火床面を大きくし得るもの等にて其の赤誠は遂に豫想以上の汽罐を得るに至りたるなり。

感謝狀

曩ニ貴下ノ熱誠努力ニ感シタクマ式汽罐ノ効果如何ニ掛念シツヽモ之レガ使用ヲナセシニ其成績頗ル良好ニシテ價格ノ低廉ナルハ勿論燃料ノ節約多大ナリシハ工場經濟上深ク滿足スル所ニ御座候殊ニ蒸汽發生ノ迅速ト汽壓調節自在ナルハ所員一同ノ意外トスル處ニ御座候

該汽罐ガ將來工業界ニ貢献スル處甚大ナルト共ニ我發明界ニ一新記元ヲ劃シタルハ邦家ノ爲メ深ク慶賀ス可キ事ニ有之候貴下益々自重シテ工業界ノタメ將發明界ノタメ愈々努力セラレンコトヲ希望致候

玆ニ蕪詞ヲ呈シ感謝ノ意ヲ表シ候

大正四年一月一日

合資會社高砂製油所
代表者　藤田長左衞門　印

田熊常吉殿

◎八十四馬力タクマ式汽罐

一兵庫縣高砂町合資會社高砂製油所は（大豆油浸出工場）熱力用として八十四馬力型を採用せられ大正三年八月据附を了る

一該工場は新設工場にして優劣を比較すること能はざるも實用上其優良なるを認められ感謝狀を與えらる

◎五十馬力タクマ式汽罐

一山口縣阿武郡篠生村鹿島組出張所に鐵道院線隧道工事動力用として五十馬力を採用せられ大正三年八月据附を了る

一該工場は汽罐使用狀態に非常なる變化あるのみならず計畫馬力よりも過役なり

其成績は左の如し　（次頁參照）

第九表　山口縣阿武郡篠生村鹿島組隧道工事場に於ける

タクマ式汽罐(五十馬力型)試驗成績表(其の壹)

時間 時分	壓力 听每平方吋	水準計高さ 吋	通風計水高 吋	カロリメーター 水銀柱高さ 吋	カロリメーター 同上絶對壓力 平方吋听	カロリメーター 同上全熱量 B.T.U.	カロリメーター 蒸氣温度 F°	カロリメーター 罐汽壓 听	カロリメーター 乾燥度 %	給水 毎時平均温度 F°	給水 毎時實際消費量 立方呎	給水 同上 听	給水 同上水準の高さにより訂正す 听	毎時間石炭消費量 听
3—0	75	0	.42											
3—20	115	$+\frac{1}{2}$												
3—40	115	$+4\frac{1}{2}$		2.	15.6	1151.5	225	115	96.40					
4—0	125	+5	.42							148	33.03	2018.3	1710.3	280
4—20	115	0												
4—40	110	$+2\frac{1}{2}$		1.8	15.5	1151.3	215	87	96.32					
5—0	100	+1	.45							145	24.00	1468.8	1715.2	210
5—20	110	+2		2.	15.6	1151.5	220	115	96.14					
5—40	115	−2		2.	15.6	1151.5	214	80	96.40					
6—0	75	0	.42							146	24.70	1509.2	1570.8	200
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	81.73	4996.3	4996.3	690
平均	109	—	.43	—	—	—	—	—	96.30	146.3	27.34	1665.4	1665.4	230

第十表　山口縣阿武郡篠生村鹿島組隧道工事に於ける

タクマ式汽罐使用試驗成績表(其の貳)　　(工學博士加茂正雄氏立會)

大正四年一月十五日施行午后三時より同六時迄三時間繼續　天候降雪甚だし　氣温華氏三十度　場所山腹

汽罐主要寸法

汽壓 120听(每平方吋)	下部圓筒　内徑37吋　長さ20吋	火床面積 12 平方呎	煙突 内徑 22吋
每時豫定蒸發量(華氏212°に於て) 1725听	水管 外徑 3吋　長さ16呎　數31本	傳熱面積 365 平方呎	火床上高サ 58呎
上部圓筒　内徑 37吋　長サ 4′—8″	降水管 外徑 $1\frac{3}{4}$吋　長さ18呎　數11本	水面積 13.2平方呎	每時豫定石炭燃燒量火床上一平方呎に於ける 20听
		汽罐水容積 50 立方呎	
		蒸汽室容積 13 立方呎	
		第一燃燒室容積 50 立方呎	

比					
	$\frac{H.S.}{G.A.} \fallingdotseq 30$	$\frac{第一燃燒室容積}{G.A.} \fallingdotseq 4.2$	$\frac{火焔通路(1)}{G.A.} \fallingdotseq .27$	$\frac{〃(2)}{G.A.} \fallingdotseq .34$	$\frac{〃(3)}{G.A.} \fallingdotseq .237$
	$\frac{〃(4)}{G.A.} \fallingdotseq .233$	$\frac{汽室積}{H.S.} \times 100 = 3.5$	$\frac{水面積}{H.S.} \times 100 = 3.6$	$\frac{水容積}{H.S.} = .14$	$\frac{烟突面積}{火床面積} = \frac{1}{5}$

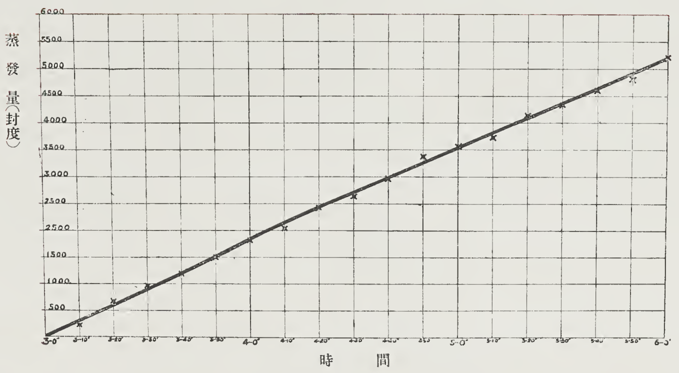
石炭		蒸汽	
焚火種類	手焚にして自然通風　火床上燃燒石炭の厚さ約 7吋なり	消費全水量	4,996.3 听
種類	山口縣厚狹郡宇部沖の山炭	蒸發全量(但し乾燥度を96.3%として)	4,811.4 听
燃燒全量	660听	每時蒸發量	1,603.8 听
灰滓	140听	同上華氏212°に於て	1,777. 听
灰滓百分率	20.25%	石炭一听に對する蒸發量	6.973听
火床上每時每平方呎に於ける燃炭量	19.15听	同上華氏2120に於て	7.726听
每時平方呎の傳熱面に對する燃炭量	.63听	每時每平方呎傳熱面に對する蒸發量	4.394听
石炭一听の發熱量	10,810.B.T.U	同上華氏212°に於て	4.87 听
石炭一听の蒸發能率(華氏212°に於ける)	11.19听	每時罐中に吸收せられたる熱量	1,736,350.B.T.U.
		每時一平方呎傳熱面に吸收せし熱量	4,784.B.T.U.
		一听の石炭中罐中に吸收せられし熱量	7,549.B.T.U.

汽罐効率　69.64%

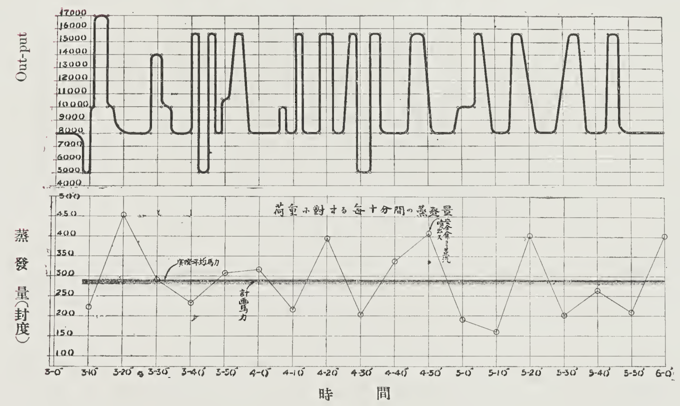
備考

本試驗は作業使用狀態に於て施行せるを以て每十分間の蒸發量は荷重に應じて異る事別圖の如し
石炭分析(%ニテ) S 0.32, C 64.64, H 4.19, O 16.25, N 0.43
$(14,500C+62.000(H-\frac{O}{8})+4030S)=B.T.U.$
煙突瓦斯分析器を使用することを能はざりしを以て熱量平衡表を作成し能はず

蒸發曲線



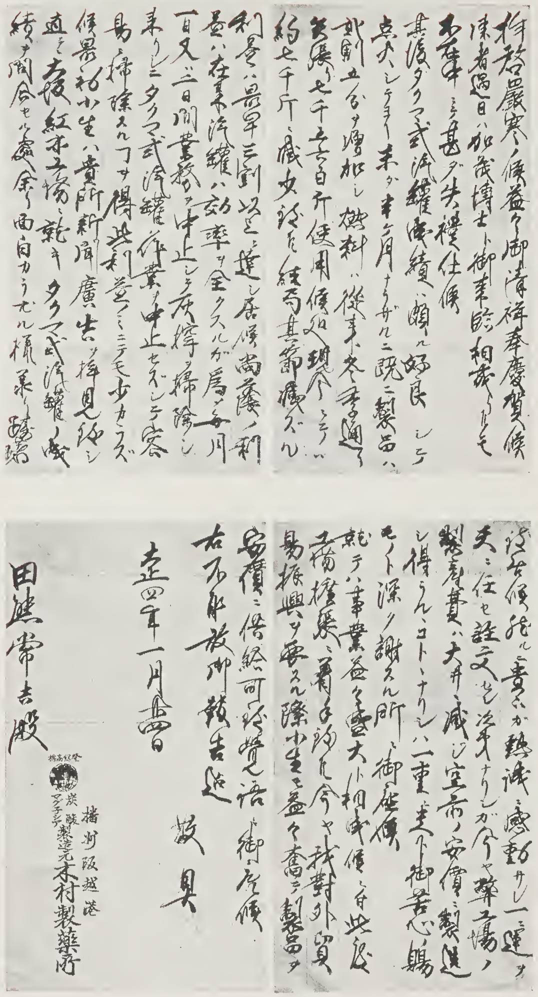
負荷曲線　蒸發量曲線



◎百十馬力タクマ式汽罐

一兵庫縣赤穂郡阪越村木村製藥所は炭酸マクチシウム（主として「ライヲン」齒磨粉用）製造のため熱力用として百十馬力型を採用せられ大正三年十一月据附を了る

一該工場の汽罐成績に關し左の報告を得たり



◎六十五馬力タクマ式汽罐

一大阪市西區西九條平尾鐵工所は動力用として特、六十五馬力型を採用せられ大正三年十一月据附を了る

一該工場の從來用ひし、ランカシヤ汽罐に比し、次の如き良好なる成績を示せり

汽罐		タクマ式汽罐 特別型六十五馬力	ランカシヤ汽罐 徑六呎六吋長二十呎
使用壓力		百十封度	百封度
蒸汽ヲ供給スル諸機		主蒸汽機關 空氣壓搾機 水壓機用喞筒 直立高速汽機 ウオシントン型喞筒	
作業程度		徑七呎長卅呎ノ汽罐二臺製作中最大荷重ノ場合ヲ比較ス	
時間		一日ニ就キ十時間使用	
給水		給水加熱器ヲ使用セリ	
給水	量	約55石餘	約60石弱
給水	斤	23000	24500
給水	溫度	°Fah 160	
石炭	名稱		
石炭	量	3600	4650
石炭一斤ニツキ蒸發量	實際	6.4	5.3
石炭一斤ニツキ蒸發量	華氏212°	7.03	5.77

◎三十五馬力タクマ式汽罐

一大阪府立職工學校今宮分校は動力用として三十五馬力汽罐を採用せられ大正三年十二月据付を了る

一本汽罐は嚴密なる學術試驗を施行さるゝ筈目下準備中

證明書

一タクマ式汽罐（三十五馬力）壹基

右當校据附汽罐使用ノ結果左ノ成績ヲ得タリ依テ之ヲ證明ス

試驗事項＼試驗回數	1	11
罐水ノ溫度	64° Fah.	222° Fah.
所要壓力110ポンドニ迄ノ準備焚ノ時間	38分	14分
準備焚ニ要シタル燃料	薪(樅) 5貫 石炭13貫100匁	9貫
使用石炭（大隈）（切込）一磅ノ發熱量	12692.69 B.T.U.	12692.69 B.T.U.
煙突ノ通風（水柱ニテ）	$\frac{7}{32}$ 吋	$\frac{7}{32}$ 吋

大正四年六月二十一日

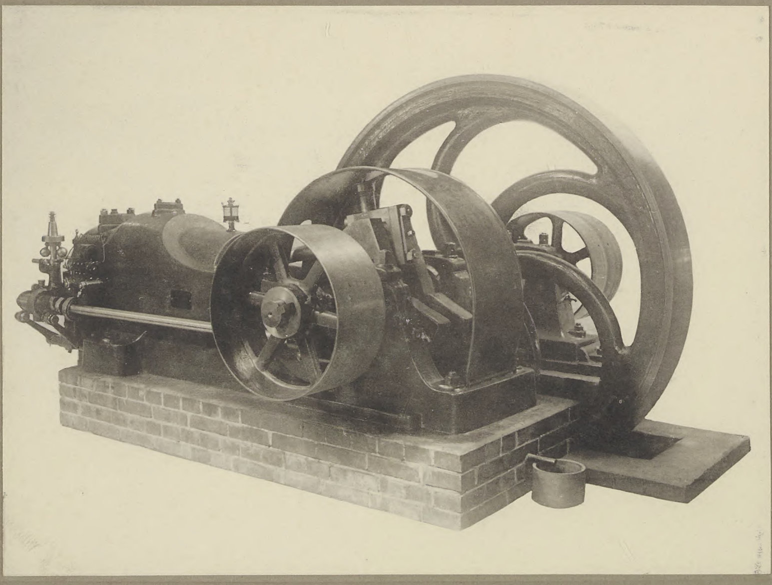
大阪府立職工學校分校 印

合資會社 高田商會

本支店出張所所在地

- 東京本店 [illegible] 電話 本局 [illegible]
- 銀座販賣店 京橋區銀座一丁目 電話 京橋(長) 二一〇三 京橋 二一〇四
- 電氣工業所 麹町區有樂町一丁目第三有樂橋下 電話 本局 三六八五 本局 三八一八 本局 三九七四 本局 三九七五 本局 四一九四 本局 四一九五 本局 四一九六 本局 二六九五
- 柳島製作所 本所區柳島町十九番地 電話 本所 五三八
- 高田商會船底塗料製造所 東京府荏原郡大崎村大字下大崎小字谷在家 電話 芝 四〇三七
- 大阪支店 北區中之島二丁目 電話 本局(長) 四八一 本局(長) 四八二 本局(長) 四八三 本局(長) 四八四
- 横濱出張所 元濱町一丁目二番地 電話 五一
- 横須賀出張所 稲岡町六十四番地 電話 五五
- 神戸出張所 播磨町二十一番地 電話 六一四
- 呉出張所 本通一丁目三十七番地 電話 一一五
- 舞鶴出張所 新舞鶴餘部町餘部下八〇三 電話(餘部) 二〇
- 佐世保出張所 濱田地七十番地 電話 三〇
- 門司出張所 內濱町二丁目 電話 三三一
- 室蘭出張所 北海道室蘭港海岸町 電話(長) 一二
- 新津出張所 越後新津町字古田二〇一〇 電話 新津 一〇九
- 臺北出張所 臺北石坊街一丁目三十七番地 電話 三一八
- 京城出張所 京城南大門通四丁目二十七番地 電話 二四二
- 大連出張所 大連市西公園町三十七番地 電話 二七一
- 上海支店 清國上海英租界博物院路八號 電話 二四七二
- 倫敦支店 ビショップスゲート街五七 電話 倫敦ウオール 一五三七 セントラル 一一九九六
- 紐育支店 チャーチ街五〇 電話 コートランド 五三六〇

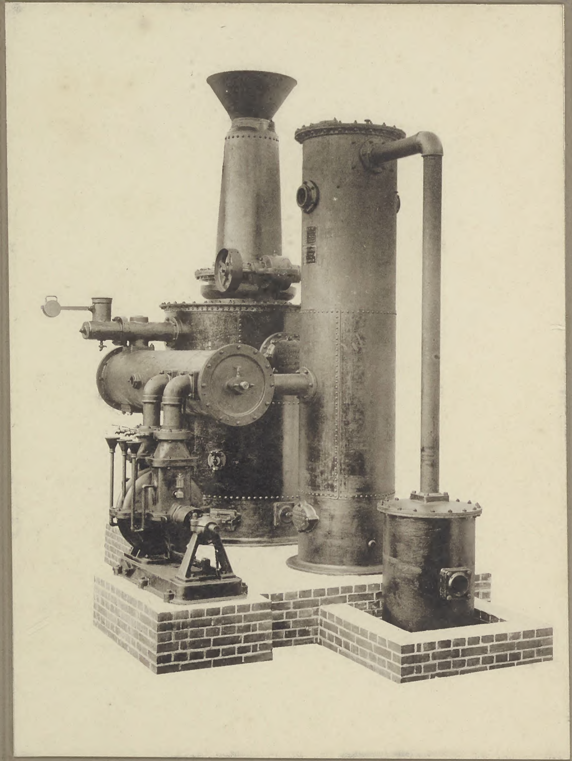
吸入瓦斯發動機



名古屋市東區清水坂上
河合機械製作所

專賣特許

鋸屑用吸入瓦斯發生機



名古屋市東區清水坂上

河合機械製作所

園電話九百六拾三番

弊所製作吸入瓦斯機關ノ効能

一 機械　構造ハ最モ簡單ニシテ堅牢

一 廻轉　輕快ニシテ不同ハ毫モ無シ故ニ發電用ニスレバ燈火ノ光波ヲ來サズ製織ニ使用スル時ハ織面平滑、織耳ニ凹凸無ク緯經糸ノ切斷稀ナルヲ以テ一割以上ノ増織ヲ爲シ得ル利アリ

一 起動　始業ノ時運轉ヲ始ムルニハ瓦斯發生迄ニ二十分間ヲ要シ而シテ勢車ノ外周ヲ人力ニテ施轉スル事三四週ヲ爲サバ直ニ發動ヲ始メ其簡易ナル事ハ實ニ奇々妙々、而モ之ニ要スル人員ハ二十馬力迄一人、五十馬力迄二人ニテ足レリ

一 經濟　瓦斯ノ經濟ナル事ハ他式機械ニ比シテ四割ノ益アリテ而モ粗惡ノ燃料ヲ以テ充分

一 發火機　他式機械ノ如ク發火機ハ掃除スル必要ナシ

一 瓦斯發生機　發生機ハ底部ヲ無底トシ常ニ水槽中ニ浸入シアルヲ以テ機械ガ運轉ヲ始ムル時ニ於テ瓦斯ヲ吸引スルト共ニ水槽ノ水波動シテ瓦斯發生爐内ノ瓦斯ヲ有利ニ發生セシメ又洗滌機ニ於テモ同理ニヨリ間斷ナク瓦斯ヲ上下動セシメ能ク洗滌ノ目的ヲ全フシ精洗セラレタル瓦斯ヲ機關ニ供給スルヲ以テ爆發力ヲ強大ナラシメ而シテ「タール」等ノ汚物殘留セズ

一 焚火戸　瓦斯發生機ノ焚口ハ任意ニ開放シ置クモ機關ノ運轉ニ故障ヲ來タサザル事珍妙

以上ハ法螺自慢ニ非ズ實見ノ光榮ヲ賜ラバ必ズ異樣ノ感想起ラン

弊所製作鋸屑用吸入瓦斯機關ノ効能

一　専賣特許　第二四〇六二号　第二四二五四号　第二四八五四号
第二四九四九号　第二四九五〇号　第二五二六七号
第二五三一九号　第二五四三〇号　第二七九四二号
第二七九四三号　第　　号　第　　号

一　機械　構造ハ最モ簡單ニシテ堅牢

一　廻轉　壯快ニシテ不同ナシ發電機ヲ以テ試驗スルモ燈火ニ光波ヲ來サス

一　起動　運轉ヲ始ムルニハ瓦斯發生迄ニ貳拾分間ヲ要シ而シテ勢輪ノ外周ヲ人力ニテ二三回施轉スレバ直チニ發動ヲ始メ始動機等ヲ用ユルノ必要ナク取扱簡易ナル事ハ實ニ奇々妙々而シテ之レニ要スル人力ハ二拾馬力迄一人、五拾馬力迄二人ニテ足レリ

一　經濟　鋸屑ハ地方ニヨリテ無價値ノモノニ付無代價ノ動力ヲ得ルハ此鋸屑用吸入瓦斯機關ニ限ル之ニ反シ壹叺（十二貫入）八錢トシ蒸氣機關ニ於テ壹馬力一時間ニ三錢五厘ノ燃料ヲ要スルモノガ鋸屑ヲ使用スレバ僅カニ三厘ニテ足レリ

一　着火機　ハ特殊ノ装置ナルヲ以テ着火不良ノ虞レナシ

一　瓦斯發生機　瓦斯發生機ハ底部ヲ無底トシ常ニ水槽中ニ挿入シアルヲ以テ機械ガ運轉ヲ始ムル時ニ於テ瓦斯ヲ吸引スルト共ニ水槽ノ水波動シテ瓦斯發生爐内ノ瓦斯ヲ有利ニ發生セシメ又洗滌機ニ於テモ瓦斯ノ洗滌完全ナル爲メ爆發力ヲ强大ナラシム

一　焚火口　瓦斯發生機ノ焚口ハ爐内掃除ノ際任意開放スルモ機關運轉ニ故障ヲ來サザル事珍妙

以上ハ自分免許ノ自慢ニ非ス實見ノ光榮ヲ賜リタシ